

# 元総社蒼海遺跡群(133)

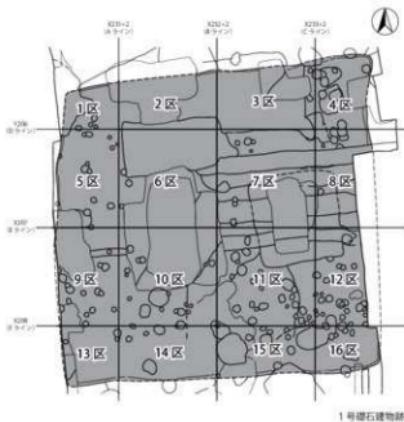
前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書

2022.3

前橋市教育委員会

# 元総社蒼海遺跡群(133)

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書



2022.3

前橋市教育委員会



1 元総社蒼海遺跡群（133）から南を望む



2 調査区全景（上が北）

巻頭図版 2



3 1号礎石建物跡版築



4 調査区全景（最終）（北東から）



5 1号掘立柱建物跡全景（東から）



6 1号溝跡全景（東から）



7 2号溝跡全景（北東から）

## はじめに

前橋市は、関東平野の北西部に位置し、上毛三山の赤城山を背にして利根川と広瀬川が市街地を貫流する、四季折々の風情に溢れる県都です。市域は豊かな自然環境に恵まれ、はるか昔から人々が生活を営んできました。そんな先人の息吹を感じられる生活のあとが、市内のいたる所に遺跡や史跡として多く存在しています。古代において前橋台地には、広大な穀倉地帯を控え、前橋天神山古墳などの初期古墳をはじめたくさんのが首長墓が連綿と築かれ、上毛野国の中心地として栄えました。また、続く律令時代になってからは総社・元総社地区に山王庵寺、国分僧寺、国分尼寺、国府など上野国の中核をなす施設が次々に建てられました。

中世になると、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が鎮をけずった地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏、松平氏が居城した雁橋城が築かれました。

やがて近代になると、生糸の一大生産地であり、横浜港から前橋シルクの名前で遠く海外に輸出され日本の発展の一翼を担いました。

今回、報告書を上梓する元総社蒼海遺跡群（133）は、上野国府の推定地内に位置しています。発掘調査の結果、上野国府が存在した時期に建てられたと考えられる規模の大きな建物跡が確認されました。この建物が上野国府に深く関係するものなのか、それは今後の検討に委ねるところもありますが、今は一本の糸に過ぎない調査成果であっても、織り上げて行けば国府の解明へと繋がるものと考えております。

残念ながら、現状のままでの保存が無理なため、記録保存という形になりましたが、今後、地域の歴史・前橋の歴史を解明する上で、貴重な資料を得ることができます。

最後になりましたが、この調査事業を円滑に進められたのは、関係機関や各方面のご配慮や、地元の皆様のご協力や声援の結果といえます。また、極暑、極寒の中、直接調査に携わってくださった担当者・作業員のみなさんに厚くお礼申しあげます。

本報告書が斯学の発展に少しでも寄与できれば幸いに存じます。

令和4年3月

前橋市教育委員会

教育長 吉川 真由美

例 言

1. 本報告書は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う元総社蒼海遺跡群(133)発掘調査報告書である。
  2. 調査主体は、前橋市教育委員会である。
  3. 発掘調査の要項は次のとおりである。

遺跡名稱 元絹社薺海遺跡群(133)(遺跡コード: 1A242)

調査場所 群馬県前橋市元経社町2107番1号

發掘調査期間 令和元年6月14日～令和元年12月20日

整理・報告書作成期間　令和2年1月8日～令和4年3月18日

発掘・整理担当者 阿久澤 智和・齋藤 優・梅澤 克典（埋蔵文化財係）

4. 本書の原稿執筆・編集は齋藤・梅澤・阿久澤が行った。
  5. 発掘調査・整理作業にかかわった方々は次のとおりである。

市村政夫、碓井俊夫、桑原和衛、小池賢、小林千恵美、齋藤簡詳、奈良啓子、羽田郁子、町田妙子、松岡利雄、森泉芳昭、山川明男、吉澤智子
  6. 調査および報告書作成にあたっては下記の諸機関・諸氏の御教示・御指導をいただいた。

群馬県教育委員会文化財保護課、前橋市都市計画部区画整理課  
出浦崇、井上唯雄、梅澤重昭、大橋泰夫、神谷明、桜岡正信、須田勉、田中広明、田辺芳昭、永井智教、能登健、橋本淳、林部均、文挾健太郎、前澤和之、松島景治、松田猛、右島和夫
  7. 発掘調査で出土した遺物は、前橋市教育委員会文化財保護課で保管されている。

凡例

1. 抑図中に使用した北は、座標北である。
  2. 抑図に国土交通省国土地理院発行の1:200,000地形図(宇都宮・長野)、1:25,000地形図(前橋)、1:6,000前橋市現形図を使用した。
  3. 遺構及び遺構施設の略称は、次のとおりである。
 

H…古墳時代～平安時代の竪穴建物跡 HN…版築層 B…建物跡(礎石建物跡、掘立柱建物跡)  
 T…竪穴状遺構 W…溝跡 I…井戸跡 O…落ち込み D…土坑 DB…土壌墓  
 P…ピット・柱穴・貯蔵穴
  4. 遺構・遺物の実測図の縮尺は、原則的に次のとおりである。その他、各図スケールを参照されたい。
 

遺構 全体図…1/100、建物跡(礎石建物跡、掘立柱建物跡)、竪穴建物跡、竪穴状遺構・溝跡・土坑・ピット…1/60、竪・勾断面図…1/30  
 遺物 土器…1/4、石製品…1/1、銅製品…1/2、鉄製品…1/3
  5. 計測値については、現存値を表す。
  6. セクション注記と遺物観察表の色調について新版標準土色帳(小山・竹原 1967)を基準とした。
  7. 遺構平面図の-----は推定線を表す。
  8. スクリーントーンの使用は、次のとおりである。

遺構平面図 燃土… 粘土… 岩化物・灰…

透視断面図 硬化面(層)…

遺物実測図 須磨器断面 灰釉陶器表面 粉釉陶器表面

◎ 亂世社會的「政治犯」：被指違法者與抗議者

3. パソコン上での操作は、以下の通りである。

總機斷面圖 總長(米) 1000

更多資訊請上網查詢：[www.sohu.com](http://www.sohu.com) 或撥打服務專線：02-2722-1111

烟名如理。

第二步：选择“第一次执行” → “单机版” → “继续”

模块化  纵向化 

9. 主な火山降下物等の略称と年代は次のとおりである。

As-B (浅間 B 軽石: 供給火山・浅間山、1108 年)

As-C (浅間 C 軽石: 供給火山・浅間山、4 世紀前半~中葉)

## 目 次

はじめに

例言

凡例

目次

図版目次・挿図目次・表目次

I 調査に至る経緯	1
II 遺跡の位置と環境	1
1 遺跡の立地	1
2 歴史的環境	1
III 調査方針と経過	7
1 調査方針	7
2 調査経過	7
IV 基本層序	8
V 遺構と遺物	16
VI まとめ	55

写真図版

抄録

奥付

## 写真図版目次

【巻頭図版】

- 1 元総社普海遺跡群 (133) から南を望む
- 2 調査区全景 (上が北)
- 3 1号礎石建物跡版築
- 4 調査区全景 (最終) (北東から)
- 5 1号掘立柱建物跡全景 (東から)
- 6 1号溝跡全景 (東から)
- 7 2号溝跡全景 (北東から)

- 2 1号礎石建物跡 E ライン西半掘込地業
- 3 1号礎石建物跡 E ライン中央部掘込地業
- 4 1号礎石建物跡 E ライン東半掘込地業
- 5 1号礎石建物跡 F ライン西半掘込地業
- 6 1号礎石建物跡 F ライン中央部掘込地業
- 7 1号礎石建物跡 F ライン東半掘込地業
- 8 1号掘立柱建物跡 P; 全景 (東から)

- PL.3-1 1号掘立柱建物跡 P; 土層堆積
- 2 1号掘立柱建物跡 P; 全景 (東から)
- 3 1号掘立柱建物跡 P; 土層堆積

- 4 1号掘立柱建物跡 P; 全景 (東から)
- 5 1号掘立柱建物跡 P; 土層堆積
- 6 1号竪穴建物跡全景 (南から)
- 7 1号竪穴建物跡縛出土状態 (南から)
- 8 1号竪穴建物跡鉈尾出土状態 (西から)

【遺構写真】

- PL.1-1 1号礎石建物跡 A ライン北半掘込地業
- 2 1号礎石建物跡 A ライン南半掘込地業
- 3 1号礎石建物跡 B ライン北半掘込地業
- 4 1号礎石建物跡 B ライン中央部掘込地業
- 5 1号礎石建物跡 B ライン南半掘込地業
- 6 1号礎石建物跡 C ライン北半掘込地業
- 7 1号礎石建物跡 C ライン南半掘込地業
- 8 1号礎石建物跡 D ライン西半掘込地業

- PL.4-1 1号竪穴建物跡竪全景 (北西から)
- 2 2号竪穴建物跡全景 (西から)
- 3 3号竪穴建物跡全景 (北東から)
- 4 3号竪穴建物跡竪全景 (南西から)

- PL.2-1 1号礎石建物跡 D ライン東半掘込地業

- 5 4号竪穴建物跡全景 (北西から)

6	5号竪穴建物跡全景（西から）	15
7	5号竪穴建物跡竪全景（西から）	
8	5号竪穴建物跡疊出土状態（東から）	
PL. 5 - 1	6号竪穴建物跡全景（南から）	
2	6号竪穴建物跡灰焼出状態（上が北）	29
3	7号竪穴建物跡全景（東から）	
4	9号竪穴建物跡竪全景（東から）	31
5	9号竪穴建物跡全景（東から）	
6	10号竪穴建物跡全景（東から）	32
PL. 6 - 1	10号竪穴建物跡疊出土状態（西から）	33
2	11号竪穴建物跡全景（西から）	
3	1号竪穴建物跡竪全景（西から）	34
4	12号竪穴建物跡遺物出土状態（南から）	
5	1号溝跡土層堆積状態（東から）	35
6	2号溝跡土層堆積状態（北東から）	
7	3～6号溝跡全景（東半）（北から）	36
8	3～6号溝跡全景（西半）（西から）	
PL. 7 - 1	1号竪穴状遺構全景（南から）	37
2	2号竪穴状遺構全景（北から）	
3	1号井戸跡全景（南から）	41
4	1号落ち込み全景（南から）	
5	1号落ち込み遺物出土状態（南から）	42
6	1号土壙墓全景（北西から）	
7	104号ピット全景（南西から）	43
8	168号ピット全景（北から）	
PL. 8	出土遺物（1） 1号礎石建物跡（掘込地業内）、 竪穴建物跡（1号～6号・11号）	44
PL. 9	出土遺物（2） 12号竪穴建物跡、溝跡（2号・3号・5号） 1号落ち込み、土坑（2号・7号） 59号ピット、表探	45
Fig. 1	元総社蒼海遺跡群位置図	3
Fig. 2	周辺遺跡図	4
Fig. 3	1号礎石建物跡グリッド設定図	8
Fig. 4	土層柱状図	8
Fig. 5	周辺調査地点とグリッド設定図	9
Fig. 6	元総社蒼海遺跡群（133）全体図	10
Fig. 7	元総社蒼海遺跡群（133）全体図（ピット）	11
Fig. 8	遺構分布図（古代・1号礎石建物下層）	12
Fig. 9	遺構分布図（古代・1号礎石建物相当期）	13
Fig. 10	遺構分布図（古代・1号礎石建物上層）	14
Fig. 11	遺構分布図（中世以降）	15
Fig. 12	1号礎石建物跡（1）	29
Fig. 13	1号礎石建物跡（2）	
Fig. 14	1号礎石建物跡（3）	31
Fig. 15	1号掘立柱建物跡	
Fig. 16	1・2号竪穴建物跡	33
Fig. 17	3・4号竪穴建物跡	
Fig. 18	5・6号竪穴建物跡	34
Fig. 19	7・8・9・10号竪穴建物跡	
Fig. 20	11・12号竪穴建物跡	35
Fig. 21	1号溝跡	
Fig. 22	2号溝跡	39
Fig. 23	3・4・5・6号溝跡、1号竪穴状遺構	40
Fig. 24	2号竪穴状遺構、1・2号井戸跡	41
Fig. 25	1号落ち込み、1～5号土坑	
Fig. 26	6～8号土坑、1号土壙墓、1～5・ 9～16・22・39・164号ピット	43
Fig. 27	17～21・23～26・28～30・36～38・72～83・ 87・88・135・150・153号ピット	44
Fig. 28	27・40～57・62～67・70・71・100～104・ 115・159・160・170～172号ピット	45
Fig. 29	31～35・58～61・68・69・85・86・ 112～114・117・141・167号ピット	46
Fig. 30	84・89～99・106～111・118～123・131・ 132・137・142・158・162・165号ピット	48
Fig. 31	105・116・124・127～130・133・134・139・ 140・144～149・151・152・154～157・161・ 166・169・173～175・177～179号ピット	49
Fig. 32	出土遺物 (1号礎石建物跡、1～3号竪穴建物跡)	50
Fig. 33	出土遺物（4～6号竪穴建物跡）	51
Fig. 34	出土遺物 (10・11号竪穴建物跡、1・2号溝跡)	52
Fig. 35	出土遺物 (2・3・5・6号溝跡、1号落ち込み)	53
Fig. 36	出土遺物（1号落ち込み、2・7号土坑、 59号ピット、グリッド、表探）	54
Fig. 37	総地業の土層比較	56

## 挿 図 目 次

Fig. 1	元総社蒼海遺跡群位置図	3
Fig. 2	周辺遺跡図	4
Fig. 3	1号礎石建物跡グリッド設定図	8
Fig. 4	土層柱状図	8
Fig. 5	周辺調査地点とグリッド設定図	9
Fig. 6	元総社蒼海遺跡群（133）全体図	10
Fig. 7	元総社蒼海遺跡群（133）全体図（ピット）	11
Fig. 8	遺構分布図（古代・1号礎石建物下層）	12
Fig. 9	遺構分布図（古代・1号礎石建物相当期）	13
Fig. 10	遺構分布図（古代・1号礎石建物上層）	14

## 表 目 次

Tab. 1	周辺遺跡一覧	5
Tab. 2	遺構計測表	21
Tab. 3	遺物観察表	25

## I 調査に至る経緯

本発掘調査は、前橋都市計画事業元総社菖海土地区画整理事業に伴い実施され、調査実施年度で21年目にあたる。本調査地は、周辺で埋蔵文化財調査が長年にわたって行われていることから、遺跡地であることが確認されている。

令和元年6月3日付けで、前橋市長 山本 龍より前橋都市計画事業元総社菖海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の依頼が前橋市教育委員会に提出された。前橋市教育委員会では実施について協議を行い、これを受諾し、令和元年6月4日付けで、調査依頼者である前橋市長 山本 龍に対し前橋市教育委員会による発掘調査を実施する旨の回答を行った。これを受け令和元年度の元総社菖海遺跡群の発掘調査は6月11日から開始するに至った。

なお、遺跡名称「元総社菖海遺跡群(133)」(遺跡コード:1A242)の「元総社菖海遺跡群」は、区画整理事業名を採用し、数字の「(133)」は過年度に発掘調査を実施した遺跡と区別するために付したものである。

## II 遺跡の位置と環境

### 1 遺跡の立地

前橋市は、利根川が赤城・榛名の両火山の裾合を経て関東平野を望むところに位置し、地形・地質の特徴から、北東部の赤城火山斜面、南西部の前橋台地利根川右岸、南部から南西部にかけての前橋台地の利根川左岸、東部の広瀬川低地帯という4つの地域に分けられる。

本遺跡の立地する前橋台地は、約24,000年前の浅間山噴火によって引き起こされた火山泥流堆積物とそれを被覆するローム層(水成)から成り立っている。台地の東部は、広瀬川低地帯と直線的な崖で画されていて、台地の中央には現利根川が貫流している。現在の利根川の流路は中世以降のもので、旧利根川は現在の広瀬川流域と推定される。台地の西部には榛名山麓の相馬ヶ原扇状地が広がり、榛名山を源とする中小河川が利根川に向かって流下し、台地面を刻んで細長い微高地を作り上げている。総社・元総社付近の染谷川や牛池川は、微高地との比高3m~5mを測り、段丘崖上は高燥な台地で、桑畠を主とした畑地として利用されてきた。

本遺跡は、前橋市街地から利根川を隔て、西へ約3kmの地点、前橋市総社町総社、元総社町地内に所在している。南東へ約1kmの所に上野国総社神社があり、すぐ西には関越自動車道が南北に走っている。さらに、遺跡地の南側には国道17号線、県道足門・前橋線が東西に、東側には主要地方道前橋・安中・富岡線が南北に走り、これらの幹線道路を中心にオフィスビルや大規模小売店が進出している。本遺跡はこれらの幹線道路から奥に入ったところに位置し、周囲には田畠が多い住宅地という静かで落ち着いた環境である。

### 2 歴史的環境

本遺跡地周辺には、古墳時代後期から終末までの上野地域と中央政権との関連をうかがわせる総社古墳群と山王廐寺、古代の中心地であった上野国府、さらに、中世には長尾氏により国府の地割を利用し築かれたとされる菖海城があり、歴史的環境に優れている。周辺の埋蔵文化財発掘調査によって、これまで連錦と続いてきた歴史を物語る多くの新しい知見が集積されている。

縄文時代の遺跡としては、前期・中期の集落跡が検出された産業道路東・西遺跡や上野国分僧寺・尼寺中間地域が筆頭に挙げられ、縄文文化を考える上で重要な資料といえる。

弥生時代の調査例は少ない。当時の稻作の様子を示す水田・集落跡等が検出された日高遺跡、後期住居跡が検出された上野国分僧寺・尼寺中間地域や桜ヶ丘遺跡、下東西遺跡等に散見するだけである。

古墳時代の遺跡としては、まず本遺跡群の北東に広がる総社古墳群が挙げられる。総社古墳群を代表するもの

には、前方後円墳である遠見山古墳・川原石を用いた積石塚である王山古墳、前方部と後円部にそれぞれ横穴式両袖型の石室が築造された前方後円墳の総社二子山古墳・両袖型横穴式石室をもつ方墳の愛宕山古墳、仏教文化の影響を強く受けたと考えられる家形石棺をもつ方墳の宝塔山古墳、県内古墳最終末期に築造された蛇穴山古墳があり、この地域と中央との関係を考えるうえで重要な意味をもつ古墳群といえる。また、宝塔山古墳の南西500mには白鳳期の建立と考えられる山王庵寺跡（放光寺）がある。さらにこの寺の塔心礎や石製鶴尾、根巻石等の石造物群は、宝塔山古墳の石棺や蛇穴山古墳の石室と同系統の石造技術を駆使して加工されている。これらのことから、この寺は上野地域を治めていた「上毛野氏」の氏寺であり、この古墳群には「上毛野氏」一族が葬られているとも考えられている。なお、山王庵寺跡は平成18年度から5ヵ年計画で山王庵寺跡範囲内容確認調査が実施され、平成18年度は講堂と回廊の北東部分、平成19年度は金堂と回廊の西側部分、平成20年度は塔の基壇周辺、平成21年度は回廊中門と考えられる遺構と回廊の南西部分を調査した。平成22年度には、回廊北西部付近で北西にやや傾く版築基壇が新たに確認され、昭和の発掘調査時から確認されている同方向に傾く掘立柱建物と一緒にして、「山王庵寺下層建物群」として捉えられるに至っている。この建物群の性格については車評衡など存在するが、いまだその確定には至っていない。

奈良時代になると、上野国分僧寺・尼寺の建立など、本地域は古代の政治的・経済的・文化的中心地としての様相を呈していく。国分僧寺は大正15年に国指定史跡となり、昭和40年代から部分的ながら調査が進められるようになった。本格的な発掘調査は昭和55年12月から始まり、主要伽藍の礎石、築垣、塀等が確認されている。さらに、国分尼寺の調査では、昭和44・45年に推定中軸線上のトレンチ調査が行われ伽藍配置が推定できるようになった。さらに平成12年に前橋市埋蔵文化財発掘調査団で南辺の寺域確認調査を行い、東南隅と南西隅の築垣、それと平行する溝跡や道路状遺構が確認された。なお上野国分僧寺と国分尼寺の中間地域では、関越自動車道建設に伴い発掘調査が行われ、大規模な集落跡や掘立柱建物群が検出されている。

また、上野国府については、その位置が現段階では不明であるが、元総社小校庭遺跡や昌楽寺周辺で実施された確認調査を皮切りに、元総社蒼海遺跡群（9）・（95）で掘立柱建物跡が確認されている。また、元総社寺田遺跡から「國厨」「曹司」「國」「色厨」等と書かれた墨書き器や人形が出土しているほか、元総社明神遺跡や元総社蒼海遺跡群で当時の役人が用いたと考えられる円面鏡、巡方（腰袋具）、綠釉陶器が出土している。さらに、国府城の区画溝と推定される古代の大溝が闇泉極遺跡をはじめとして元総社明神遺跡や元総社蒼海遺跡群で確認されている。これらの過去からの調査成果の積み重ねにより、元総社町付近に上野国府が設置されていた可能性は非常に高いと考えられる。

なお、高崎市内の調査事例や地割による研究により、本遺跡から約1.5km南の地点にN-64°-E方向の東山道（国府ルート）があることが推定されている。

中世に至り、永享元年（1429）、上野国守護代の長尾氏によって上野国府中（旧国府）に築かれたと伝えられる蒼海城は、県内でも最古級の城郭に位置づけられ、城下町も存在していたと推定されている。しかしながら慶長年間に秋元氏により総社の地へ城および城下町が移転している。

このように総社・元総社地区は特に古代から上野国を中心として政治の中心として重要な地域であった。特に、その中でも上野国府が所在したと推定される元総社町は注目される。元総社町は元総社蒼海土地地区画整理事業の進捗に伴い平成11年から継続的に発掘調査が行われている。また、平成23年度から上野国府等範囲内容確認調査も元総社町内を中心に実施していることから、今後、これら調査の進捗によって上野国府が解明されていくことを期待する。

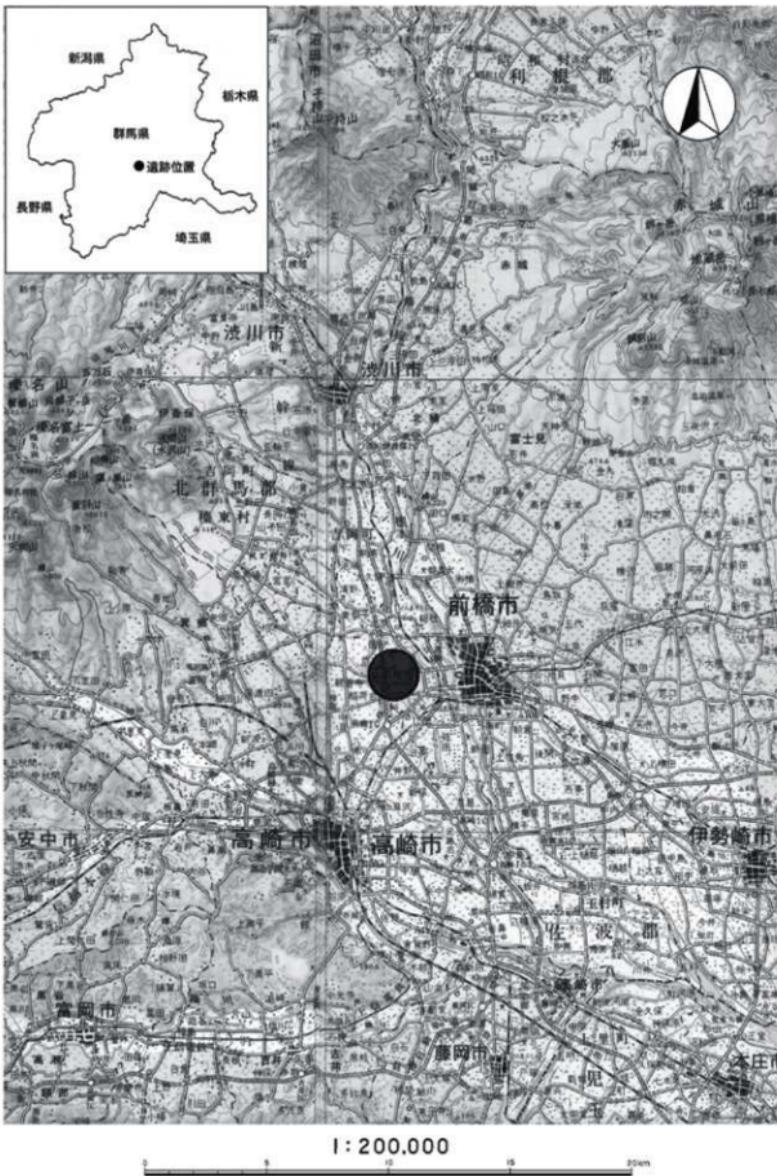


Fig.1 元總社舊海遺跡群位置図

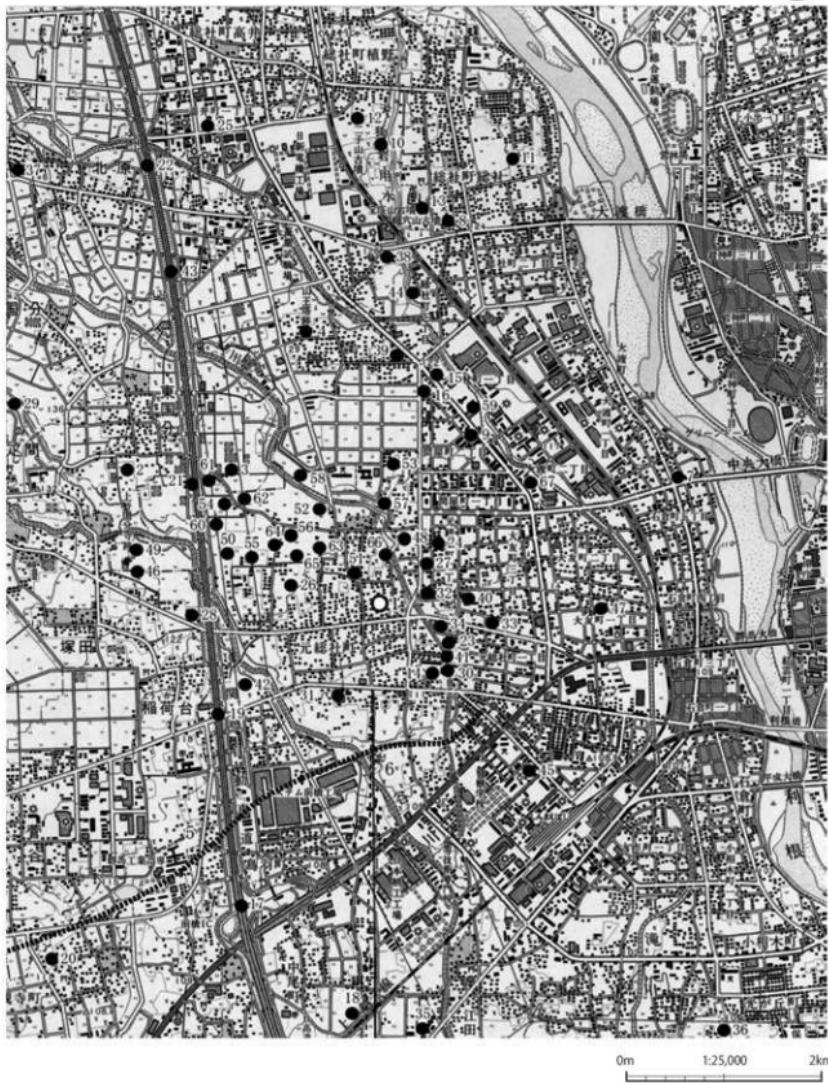


Fig.2 周辺遺跡図

Tab.1 周辺遺跡一覧

番号	遺跡名	調査年度	番号	遺跡名	調査年度
1	元総社瀬海遺跡群(133)	2019	60	元総社小見内Ⅳ遺跡	2002
2	上野国分寺跡	1980～88	61	元総社小見内Ⅳ遺跡	2003
3	上野国分尼寺跡	(1999)	62	元総社小見内遺跡	2003
4	山王庵寺跡	(1974)	63	元総社小見内謙道跡	2003
5	東山道駿駒原ルート(推定)	-	64	元総社小見内酒跡	2004
6	日高道(推定)	-	65	元総社小見内X遺跡	2004
7	羊山古墳	1972	66	総社閑原明神北Ⅴ遺跡	2004
8	蛇穴山古墳	1975	67	大渡道場遺跡	2005
9	福荷山古墳	1988	-	元総社瀬海遺跡群(1)	2005
10	愛宕山古墳	1996	-	元総社瀬海遺跡群(2)	2005
11	遠見山古墳	-	-	元総社瀬海遺跡群(3)	2005
12	総社二子山古墳	-	-	元総社瀬海遺跡群(4)	2005
13	宝塚山古墳	-	-	元総社瀬海遺跡群(5)	2005
14	元総社小学校校庭遺跡	1962	-	元総社瀬海遺跡群(6)	2005
15	産業道路東西道路	1966	-	元総社瀬海遺跡群(7)	2005
16	産業道路東西道路	1966	-	元総社瀬海遺跡群(8)	2006
17	中尾遺跡	1976	-	元総社瀬海遺跡群(9) (10)	2006
18	日高遺跡	(1978)	-	元総社瀬海遺跡群(11)	2006
19	鳥羽遺跡	1978～83	-	元総社瀬海遺跡群(12)	2006
20	正觀寺遺跡Ⅰ～IV	1979～1981	-	元総社瀬海遺跡群(13)	2008
21	上野国分寺・尼寺中間地域	1980～83	-	元総社瀬海遺跡群(14)	2008
22	北原遺跡(郡馬町)	1982	-	元総社瀬海遺跡群(15)	2008
23	元総社神明道跡Ⅰ～XⅢ	1982～96	-	元総社瀬海遺跡群(16)	2008
24	閑泉植生遺跡	1983	-	元総社瀬海遺跡群(17)	2008
25	柳木遺跡・Ⅱ遺跡	1983, 88	-	元総社瀬海遺跡群(18)	2008
26	草作遺跡	1984	-	元総社瀬海遺跡群(19)	2008
27	閑泉植生南遺跡	1985	-	元総社瀬海遺跡群(20)	2008
28	塙田村東遺跡(郡馬町)	1985	-	元総社瀬海遺跡群(21)	2009
29	後定間遺跡Ⅰ～Ⅲ	1985～87	-	元総社瀬海遺跡群(22)	2009
30	寺田遺跡	1986	-	元総社瀬海遺跡群(23)	2009
31	天神遺跡・Ⅱ遺跡	1986, 88	-	元総社瀬海遺跡群(24)	2009
32	屋敷遺跡・Ⅱ遺跡	1986, 95	-	元総社瀬海遺跡群(25)	2009
33	車越遺跡	1987	-	元総社瀬海遺跡群(26)	2009
34	大友屋敷Ⅱ・Ⅲ遺跡	1987	-	元総社瀬海遺跡群(27)	2009
35	鳴呂遺跡	1987	-	元総社瀬海遺跡群(28)	2009
36	五反田遺跡	1987	-	元総社瀬海遺跡群(29)	2009
37	熊野谷遺跡	1988	-	元総社瀬海遺跡群(30)	2009
	熊野谷Ⅱ遺跡	1989	-	元総社瀬海遺跡群(31)	2009
38	村東遺跡	1988	-	元総社瀬海遺跡群(32)	2010
39	昌源寺跡向道跡・Ⅲ遺跡	1988	-	元総社瀬海遺跡群(33)	2010
40	車越Ⅱ遺跡	1988	-	元総社瀬海遺跡群(34)	2010
41	元総社田中遺跡Ⅰ～Ⅲ(事業団)	1988～91	-	元総社瀬海遺跡群(35)	2010
42	弘勲遺跡・Ⅱ遺跡	1989, 95	-	元総社瀬海遺跡群(36)	2010
	国分境遺跡(事業団)	1990	-	元総社瀬海遺跡群(37)	2011
43	国分境Ⅱ遺跡	1991	-	元総社瀬海遺跡群(38)	2012
	国分境Ⅲ遺跡(郡馬町)	1991	-	元総社瀬海遺跡群(39)	2012
44	大屋敷Ⅰ～IV遺跡	1992～2000	-	元総社瀬海遺跡群(40)	2013
45	元総社植草遺跡	1993	-	元総社瀬海遺跡群(41)	2013
46	上野国分寺参道遺跡	1996	-	元総社瀬海遺跡群(42)	2013
47	大女宅地派遺跡	1998	-	元総社瀬海遺跡群(43)	2013
48	総社閑原明神北遺跡	1999	-	元総社瀬海遺跡群(44)	2013
	総社閑原明神北Ⅱ遺跡	2001	-	元総社瀬海遺跡群(45)	2013
49	元総社西川遺跡(事業団)	2000	-	元総社瀬海遺跡群(46)	2013
50	元総社小見道跡	2000	-	元総社瀬海遺跡群(47)	2013
51	元総社宅地遺跡Ⅰ～23トレンチ	2000	-	元総社瀬海遺跡群(48)	2013
52	元総社小見内Ⅲ遺跡	2001	-	元総社瀬海遺跡群(49)	2013
53	総社甲種荷塚大道遺跡	2001	-	元総社瀬海遺跡群(50)	2013
	総社甲種荷塚大道西Ⅱ遺跡	-	-	元総社瀬海遺跡群(51)	2013
54	元総社小見Ⅱ遺跡	2002	-	元総社瀬海遺跡群(52)	2013
55	元総社小見Ⅲ遺跡	2002	-	元総社瀬海遺跡群(53)	2013
	元総社草作Ⅴ遺跡	-	-	元総社瀬海遺跡群(54)	2013
56	元総社小見内Ⅳ遺跡	2002	-	元総社瀬海遺跡群(55)	2013
	元総社小見Ⅳ遺跡	2003	-	元総社瀬海遺跡群(56) (61)	2013
57	総社閑原明神北Ⅲ遺跡	2002	-	元総社瀬海遺跡群(57)	2014
	総社甲種荷塚大道西Ⅳ遺跡	2003	-	元総社瀬海遺跡群(58)	2014
58	元総社北川遺跡	2002～04	-	元総社瀬海遺跡群(59)	2014
59	福荷塚東遺跡	2003	-		

番号	道跡名	調査年度	番号	道跡名	調査年度
-	元総社貢海道跡群(60)	2014	-	元総社小見V道跡	2003
-	元総社貢海道跡群(62)	2014	-	元総社小見内Ⅳ道跡	2001
-	元総社貢海道跡群(63)	2014	-	元総社小見内IV道跡	2002
-	元総社貢海道跡群(64)	2014	-	元総社小見内VI道跡	2003
-	元総社貢海道跡群	2014	-	元総社小見内Ⅶ道跡	2003
-	元総社貢海道跡群(66)	2013	-	元総社小見内Ⅷ道跡	2003
-	元総社貢海道跡群(67)	2013	-	元総社小見内IX道跡	2004
-	元総社貢海道跡群(68)	2013	-	元総社小見内X道跡	2004
-	元総社貢海道跡群(72)	2013	-	元総社草作道跡	1984
-	元総社貢海道跡群(73)	2013	-	元総社草作V道跡	2002
-	元総社貢海道跡群(74)	2014	-	元総社宅地道跡1~8トレンチ	2000
-	元総社貢海道跡群(75)	2014	-	元総社宅地道跡9~18・21トレンチ	2000
-	元総社貢海道跡群(76)	2014	-	元総社宅地道跡19トレンチ	2000
-	元総社貢海道跡群(77)	2014	-	元総社宅地道跡20トレンチ	2000
-	元総社貢海道跡群(78)	2014	-	元総社宅地道跡22・23トレンチ・上野国府等範囲内容確認調査1~7トレンチ	2000・2012
-	元総社貢海道跡群(79)	2014	-	上野国府等範囲内容確認調査8~11・13・14・28トレンチ	2011
-	元総社貢海道跡群(80)	2014	-	上野国府等範囲内容確認調査12トレンチ	2012
-	元総社貢海道跡群(81)	2014	-	上野国府等範囲内容確認調査27トレンチ	2016
-	元総社貢海道跡群(82)	2014	-	上野国府等範囲内容確認調査28トレンチ	2016
-	元総社貢海道跡群(83)	2014	-	上野国府等範囲内容確認調査29トレンチ	2016
-	元総社貢海道跡群(84)	2014	-	上野国府等範囲内容確認調査40トレンチ	2017
-	元総社貢海道跡群(85)	2014	-	上野国分寺等範囲内容確認調査(1)~(9)	1969~1970・1999~2000
-	元総社貢海道跡群(88)	2014	-	総社甲稲荷塚大西道跡	2001
-	元総社貢海道跡群(89)	2014	-	総社甲稲荷塚大西面II道跡	2001
-	元総社貢海道跡群(90)	2014	-	総社甲稲荷塚大西面III道跡	2002
-	元総社貢海道跡群(91)	2014	-	総社甲稲荷塚大西面IV道跡	2003
-	元総社貢海道跡群(92)	2014	-	総社甲稲荷塚北山道跡	1999
-	元総社貢海道跡群(94)	2014	-	総社閻泉明神北Ⅱ道跡	2001
-	元総社貢海道跡群(95)	2014	-	総社閻泉明神北Ⅲ道跡	2002
-	元総社貢海道跡群(96)	2014	-	総社閻泉明神北Ⅳ道跡	2004
-	元総社貢海道跡群(97)	2014	-	総社閻泉明神北Ⅴ道跡	2004
-	元総社貢海道跡群(98)	2014	-	閻泉種道跡	1983
-	元総社貢海道跡群(99)・上野国府等範囲内容確認調査33~34トレンチ	2015	-	閻泉種南道跡	1985
-	元総社貢海道跡群(100)	2014	-	元総社北川道跡	2002~04
-	元総社貢海道跡群(101)	2014	-	元総社牛池川道跡	2002~04
-	元総社貢海道跡群(102)	2015	-	元総社中学校道跡	2016
-	元総社貢海道跡群(103)	2015	-	元総社北小学校道跡	2020
-	元総社貢海道跡群(116)	2016			
-	元総社貢海道跡群(117)	2016			
-	元総社貢海道跡群(118)	2016			
-	元総社貢海道跡群(120)	2016			
-	元総社貢海道跡群(121)	2016			
-	元総社貢海道跡群(122)	2016			
-	元総社貢海道跡群(123)	2016			
-	元総社貢海道跡群(124)	2017			
-	元総社貢海道跡群(126)	2017			
-	元総社貢海道跡群(127)	2018			
-	元総社貢海道跡群(128)	2018			
-	元総社貢海道跡群(129)	2018			
-	元総社貢海道跡群(130)	2018			
-	元総社貢海道跡群(131)	2018			
-	元総社貢海道跡群(135)	2019			
-	元総社貢海道跡群(136)	2019			
-	元総社貢海道跡群(137)	2019			
-	元総社貢海道跡群(138)	2019			
-	元総社貢海道跡群(139)	2019			
-	元総社貢海道跡群(140)	2020			
-	元総社貢海道跡群(141)	2020			
-	元総社貢海道跡群(145)	2020			
-	元総社貢海道跡群(17街区)	2015			
-	元総社貢海道跡群(75街K)	2015			
-	元総社貢海道跡群(75街K) No.2	2020			
-	元総社貢海道跡群(93街区)	2016			
-	元総社貢海道跡群(94街区)	2017			
-	元総社小見道跡	2000			
-	元総社小見Ⅱ道跡	2002			
-	元総社小見Ⅲ道跡	2002			
-	元総社小見Ⅳ道跡	2003			

### III 調査方針と経過

#### 1 調査方針

発掘調査を依頼された箇所は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴い整備される宅地用地で、調査面積は 204m<sup>2</sup>である。遺構番号は、調査区ごとに個別に付番することとし、133-H-1 号竪穴建物跡のように、遺構の前に必ず遺跡番号を付すこととした。

グリッド座標については国家座標（日本測地系）X = + 44000・Y = - 72200 を基点（X 0・Y 0）とする 4 m ピッチのものを使用し、西から東へ X 230, 231, 232…、北から南へ Y 204, 205, 206…と付番し、グリッド呼称は北西杭の名称を使用した。

元総社蒼海遺跡群（133）の X 232・Y 207 の公共座標は以下のとおりである。

日本測地系 X = + 43,172.000 Y = - 71,272.000

緯度 36° 23' 11".2739 経度 139° 02' 20".0191

調査方法については、表土掘削・遺構確認・方眼杭等設置・遺構掘下・遺構精査・測量・全景写真の手順で行うこととした。このうちの遺構確認については、基本的に As-C 軽石、Hr-FP 軽石、As-B 軽石が混入する土層を手がかりとした。

図面作成は、平板・簡易造り方測量を用い、遺構平面図は原則として 1/20、竪穴建物跡は 1/10 の縮尺で作成した。遺物については平面分布図を作成し、台帳に各種記録を記載しながら収納した。包含層の遺物はグリッド単位で収納し、重要遺物については分布図・遺物台帳の記載を行い収納した。

#### 2 調査経過

本調査は令和元年 6 月 14 日から開始し、令和元年 12 月 20 日まで行った。調査経過は以下のとおりである。

本調査区は元総社蒼海遺跡群（127）の北に位置する。蒼海（127）の調査では基壇建物跡（掘込地業）の一部が検出されたことから、今回の調査ではその全体を把握するために、蒼海（127）で検出した掘込地業の再調査も行った。

6 月 14 日、表土掘削を行う。遺構確認を行ったところ擾乱が散見されたが、掘込地業（蒼海（127）の基壇建物）や、それよりも新しい遺構を確認することができた。調査は掘込地業の範囲確認を行いながら、それよりも新しい遺構の掘り下げ・記録作業を進めた。掘込地業よりも新しい遺構は比較的多かったため、多くの時間を費やしたが、8 月の終わり頃には蒼海（127）の掘込地業の再調査も含めて、概ね掘込地業の範囲を把握することができたことから、9 月 11 日に調査区の空掘を行った。

また、本調査区で検出された掘込地業は上野国府や地域史を考える上でも重要な遺構であることから、9 月 5 日に第 27 回上野国府等調査委員会を開催し、検出された掘込地業の検討を行ったほか、9 月 7 日には地元在住の方々を中心に現地説明会を開催し普及啓発にも努めた。

9 月中には掘込地業の範囲確認と、それよりも新しい遺構の掘り下げ・記録が終了したことから、10 月からは掘込地業の掘り下げを行い、その下層の遺構の調査を始めた。

掘込地業の掘り下げにあたっては、元総社蒼海遺跡群のグリッドに準じて掘込地業掘り下げのためのグリッドを設定し、グリッドのラインに合わせてベルトを設定し版築の状態を把握しながら面的な掘り下げを行った。このグリッドの設定状況は Fig. 3 のとおりである。なお、掘込地業の掘り下げにあたっては、グリッド一括で取り上げた遺物と、3 次元的位置を記録して取り上げた遺物がある。当初は版築の意味の「HN」の仮の遺跡略称を使用していたが、遺物に注記する段階で、本来の遺構名である 1 号竪穴建物跡の略称「B-1」へと変更した。

掘込地業の掘り下げは 11 月 6 日に概ね終了し、その下層の検出作業を行ったところ、当初から確認されてい

た溝跡のほか、竪穴建物跡が数軒検出された。これら遺構の掘り下げ・記録作業も12月上旬には終了し、最終的な調査区の全景写真の撮影を12月13日に行った。その後、最終的な仕上げの測量作業を行い、12月20日に調査区を埋め戻して調査を終了した。

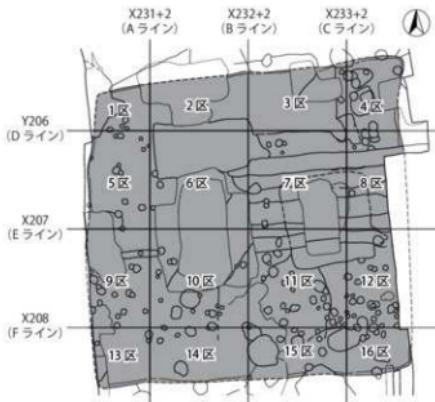


Fig.3 1号礎石建物跡グリッド設定図

#### IV 基本層序

本調査区の位置する地点は現状で周囲よりも若干高くなっている、遺構の残存状況は良好といえる。逆に、遺構が密集するあまり総社・元総社地区で見られる基本層序のうちの各層の確認は難しく、特に浅間C軽石を包含する黒色土層（基本層序IV層）は、竪穴建物や掘込地業によりほぼ確認できない状態だった。表土と浅間B軽石混入土層（I b層）の下層で、掘込地業の面とそれを掘り込んだ遺構の確認ができる。掘込地業は総社砂層（VI層）に達する程に掘り下げられて構築されていた。

以下に本調査区の基本土層を記し、本調査区のモデルとして柱状図を示す。

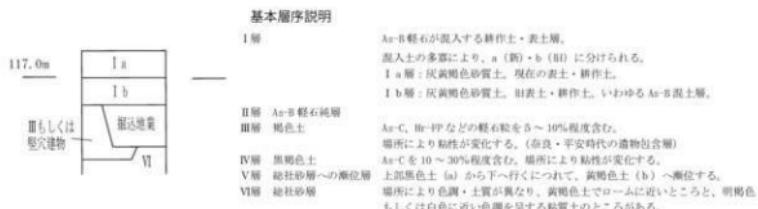


Fig.4 土層柱状図

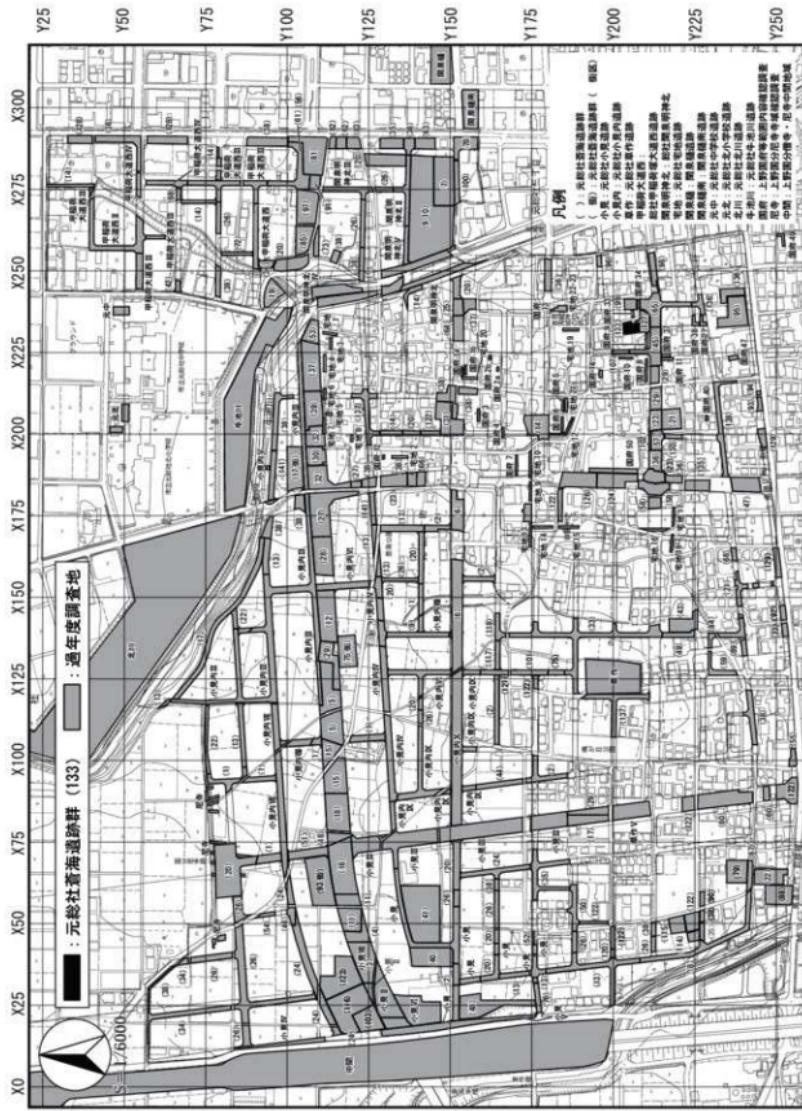


Fig.5 周辺調査地点とグリッド設定図

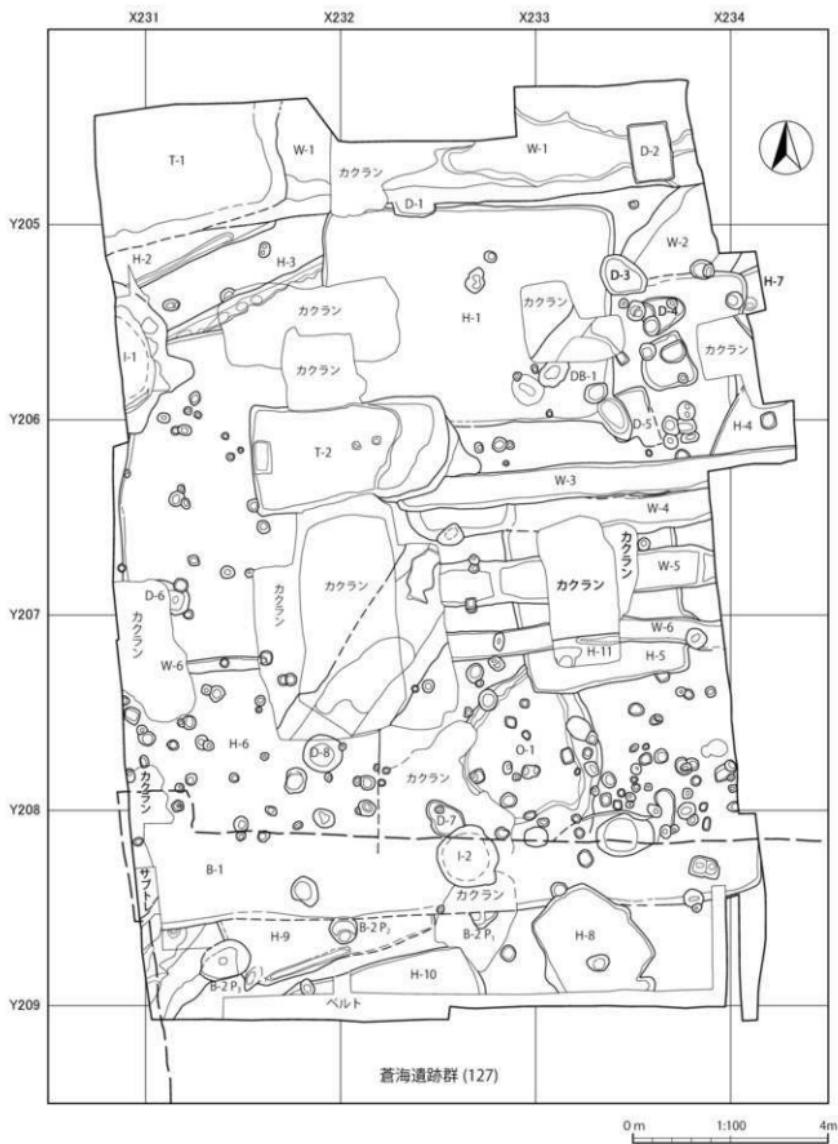


Fig.6 元総社蒼海遺跡群（133）全体図

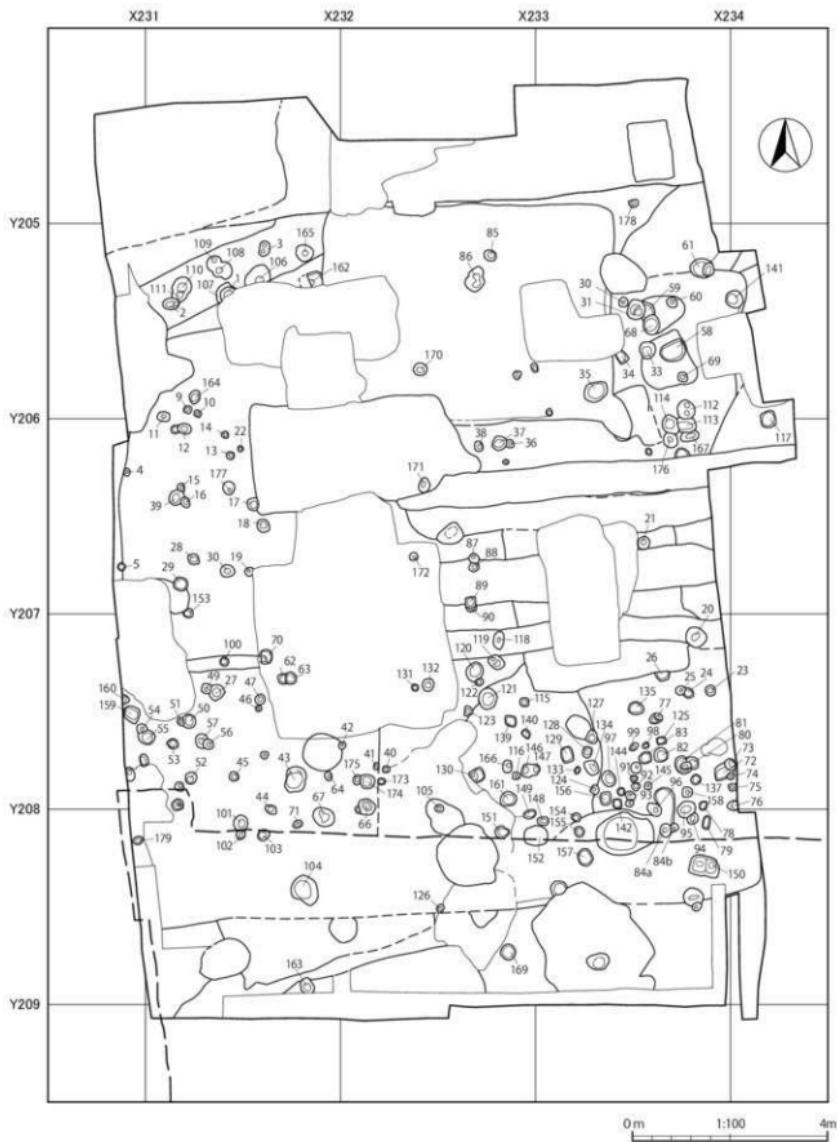


Fig.7 元総社蒼海遺跡群（133）全体図（ピット）

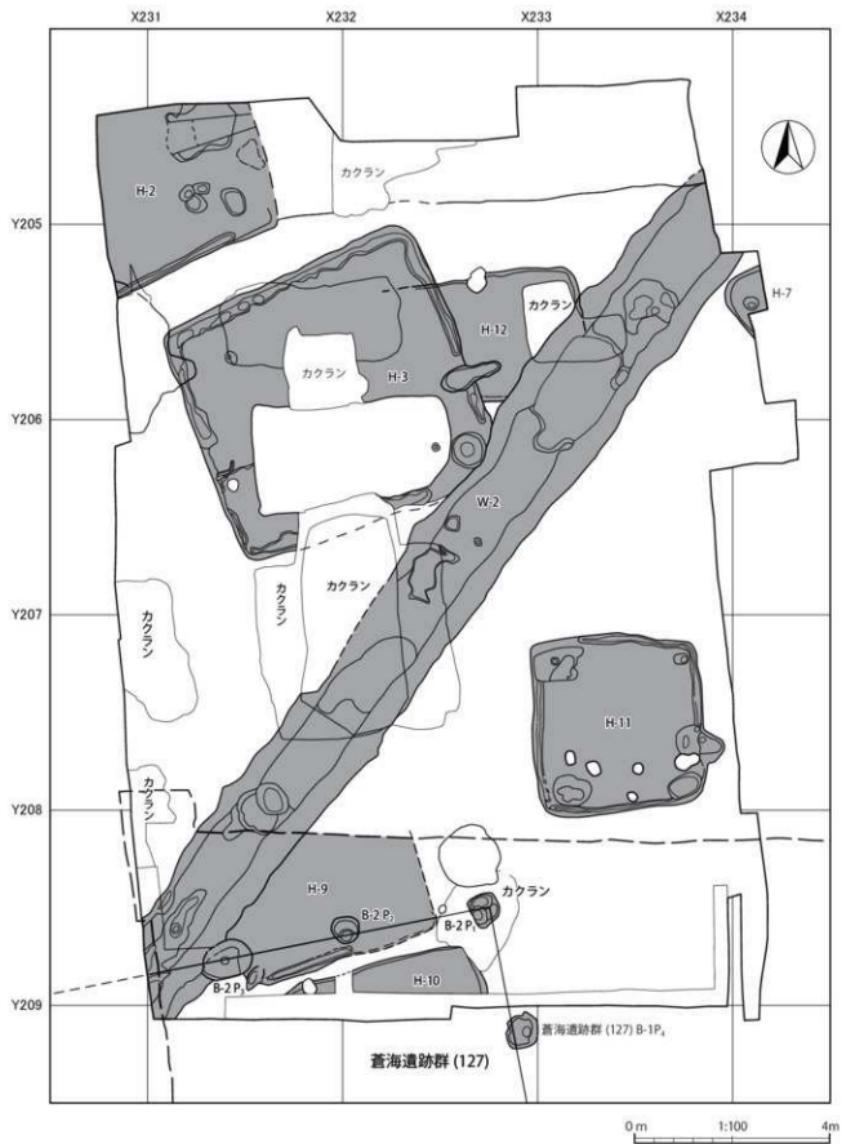
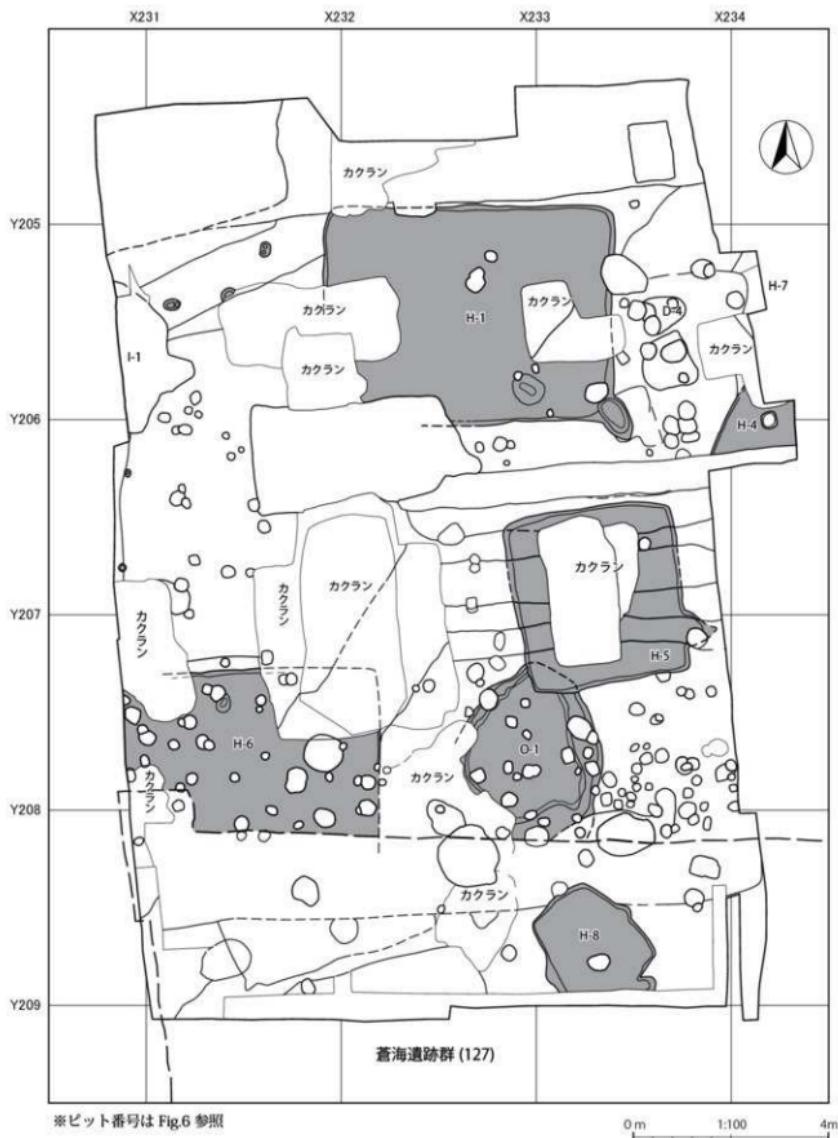


Fig.8 遺構分布図（古代・1号礎石建物下層）



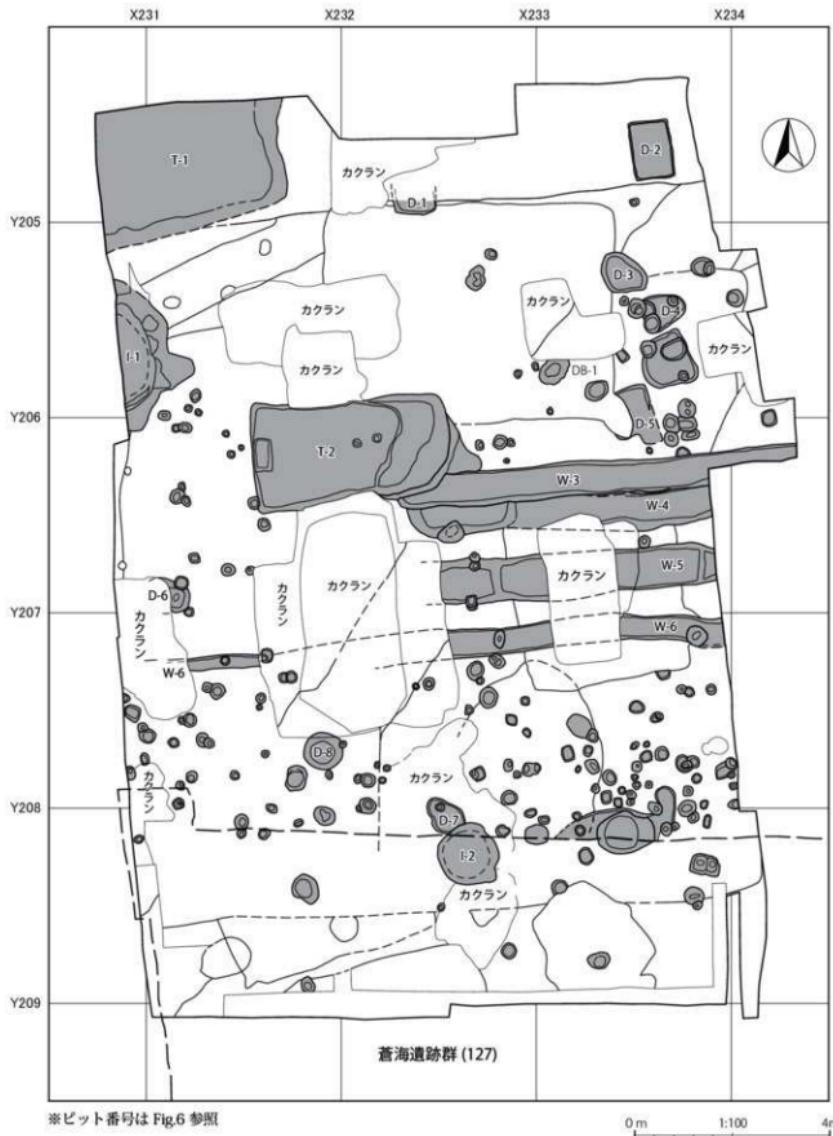
Fig.9 遺構分布図（古代・1号礎石建物相当期）



※ピット番号は Fig.6 参照

0m 1:100 4m

Fig.10 遺構分布図（古代・1号礎石建物上層）



※ピット番号は Fig.6 参照

0 m 1:100 4m

Fig.11 遺構分布図（中世以降）

## V 遺構と遺物

### (1) 碸石建物跡・掘立柱建物跡

1号礎石建物跡（遺構：Fig.12・13・14 卷頭図版1、PL.1・2/ 遺物：Fig.32）

**位置** X 230～234、Y 205～208 グリッド。**主軸** N-2°-W。**形状等** 堀込地業（総地業）を検出。平面形状は正方形に近く北西隅がやや歪む。規模は東西 12.7 m、南北 12.6 m。総地業の上部は削り取られ礎石やその据え付け痕等は確認できなかった。ただし、調査区内の竪穴建物の竈の構築材や遺構の床面から川原石が出土していることから礎石建ちであったと推定される。**掘込地業** 本遺構よりも新しい遺構に破壊されていたほか、上部は削り取られているが、残存する最大の厚さは掘り形底面から 40cm を測る。掘り形底面は総社砂層（基本層VI層）に達し、平坦に掘削されているが約 10cm の幅で起伏が見られる。深く掘削した部分は砂層上ブロックを混ぜた土を入れて整地したうえで版築を行っていた。版築は層毎に明瞭でないが浅間に軽石の包含量に差が認められた。黄色土（総社砂層土か）はブロック・細粒状態ともに包含するが、互層となっていなかった。版築は全体的に固く締まる。**出土遺物** 本遺構に直接的に関連する遺物は認められなかったが、掘込地業内から土師器（环・甕）破片、須恵器（甕）破片、石製模造品（白玉）、埴輪（人物）破片が出土している。**重複関係** 主な遺構とは、本遺構以前では 3 号・7 号・9 号・11 号・12 号竪穴建物跡、1 号掘立柱建物跡、2 号溝跡が該当し、本遺構以後では 1 号・4 号・5 号・6 号竪穴建物跡、1 号落ち込み、1 号井戸跡、2 号竪穴状遺構が該当する。その他に版築層上面には中世のピットが多数認められる。**時期** 重複する遺構の新旧関係から 8 世紀代に建てられ、10 世紀代には廃絶していたと推定される。**その他** 蒼海遺跡群（127）基壇建物跡と同一の遺構。

1号掘立柱建物跡（遺構：Fig.15、PL.2、3）

**位置** X 231～232、Y 208 グリッド。**主軸** N-20°-W。**形状等** 蒼海（127）1号掘立柱建物跡と同一の遺構。蒼海（127）より、東西方向に長軸をとる掘立柱建物と推定される。本調査では、先の調査においてプランでのみ確認されていた桁行北列の柱穴 2 間分を再調査した。桁行の柱間は東から 2.7 m、2.5 m を測る。**柱穴** P<sub>1</sub> は長軸 64cm、短軸 58.5cm のほぼ正方形を呈している。深さ 61.5cm。P<sub>2</sub> は最大径 59cm の円形、深さ 53.5cm。P<sub>3</sub> は最大径 104cm、深さ 39cm で桁行方向に長軸をとる楕円形。**重複関係** 1号礎石建物跡、2号溝跡、9号竪穴建物跡と重複。1号礎石建物跡よりも古く、2号溝跡、9号竪穴建物跡よりも新しい。**出土遺物** 土師器（环・甕）破片、須恵器（甕・高环）破片、が柱穴から出土。**時期** 蒼海（127）と遺構の新旧関係に関する見解が異なるため、時期の判断が非常に難しいが、重複する遺構等から、8 世紀初頭頃を想定したい。

### (2) 竪穴建物跡

1号竪穴建物跡（遺構：Fig.16、PL.3、4/ 遺物：Fig.32）

**位置** X 231～233、Y 204～206 グリッド。**主軸方向** N-90°-E。**形状等** 長方形を呈している。東西 5.9 m、南北 4.4 m、壁高 32cm。**床面** 1号礎石建物跡の堀込地業内に構築されたため、床は堅く締まる。また、中央付近で灰の分布が認められた。**竈** 南東隅で検出。主軸方向は N-145°-E。全長 92cm、最大幅 52cm、焚き口幅 60cm を測る。**ピット等** 1基検出した。最大径 69.5cm の円形で、深さ 28.5cm を測る。**重複関係** 1号礎石建物跡、12号竪穴建物跡、1号墳墓と重複する。1号墳墓よりも古い。それ以外の遺構よりも新しい。**出土遺物** 土師器（环・甕）破片、須恵器（环・甕）破片、土師質土器（环）破片、土釜破片、白磁（塊）破片、石製品（砥石）、金属製品（銅製鉈尾）、鐵滓、椀型滓が出土。**時期** 11 世紀代と考えられる。

2号竪穴建物跡（遺構：Fig.16、PL.4/ 遺物：Fig.32）

**位置** X 230・231、Y 204・205 グリッド。**主軸方向** N - 66° - E。**形状等** 方形を呈すると思われる。北辺、西辺は調査区外。東西 (3.65) m、南北 (3.75) m。壁高 29cm。**床面** 貼床と思われる。1号竪穴状遺構によつて失われているため掘り方のみを検出。**竪** 1号竪穴状遺構に破壊されていたが、東壁部付近に粘土の分布が確認できたため、竪の痕跡と判断した。**周溝** 検出できた南壁で検出。周溝の規模は最大上幅 22cm、最大下幅 10cm。**ピット等** 4基検出。そのうち P<sub>1</sub>、P<sub>2</sub>、P<sub>3</sub> は柱穴、P<sub>4</sub> は貯蔵穴と考えられる。規模等は Tab. 2 のとおり。**重複関係** 1号溝跡、1号竪穴状遺構と重複。本遺構が最も古い。**出土遺物** 土師器（环・高环・甕）破片、須恵器（环・甕）破片が出土。**時期** 出土遺物が少ないため時期特定が難しいが、6世紀代と考えられる。

### 3号竪穴建物跡（遺構：Fig.17、PL.4/ 遺物：Fig.32）

**位置** X 231・232、Y 205・206 グリッド。**主軸方向** N - 70° - E。**形状等** 方形。東西 5.8 m、南北 5.6 m、壁高 57cm。**床面** 貼床。西壁中央付近で床面に段差があり、南側が低くなっている。周溝もその段差に沿うように確認され、段差部分には小ピットを 2 基検出した。**竪** 東壁中央に構築。主軸方向は N - 71° - E。全長 130cm、最大幅 32cm、焚き口 49cm。**貯蔵穴・柱穴** P<sub>1</sub> は長軸 42.5cm の円形で深さ 38cm。P<sub>2</sub> は長軸 29cm の円形で深さ 45.5cm。P<sub>3</sub> は長軸 17cm の円形で深さ 35cm。P<sub>4</sub> は貯蔵穴と推定され、長軸 68cm で方形に近く、深さ 70.5cm。**周溝** 南壁中央、南東隅が捲乱や別遺構によって失われているが、全周すると思われる。周溝の規模は最大上幅 37cm、最大下幅 18cm。北壁では一部ピット状に深く掘り込んでいる箇所が確認された。**重複関係** 1号礎石建物跡、1号竪穴建物跡、2号溝跡、1号戸跡と重複。本遺構が最も古い。**出土遺物** 土師器（环・甕）破片、須恵器（环・甕）破片、石製品（白玉）が出土。**時期** 出土遺物より 7世紀前半と考えられる。

### 4号竪穴建物跡（遺構：Fig.17、PL.4/ 遺物：Fig.33）

**位置** X 234、Y 205・206 グリッド。**主軸方向** N - 22° - E。**形状等** 西壁及び床面のみを検出したため形状は不明。東西 (1.75) m、南北 (0.85) m。**床面** 地山床。**重複関係** 1号礎石建物跡、3号溝跡と重複。重複関係は 1号礎石建物跡より新しく、3号溝跡より古い。**出土遺物** 土師器（手の字状口縁皿）、須恵器（环・甕）破片、土師質土器（环）破片が出土。**時期** 11世紀代と推定される。

### 5号竪穴建物跡（遺構：Fig.18、PL.4/ 遺物：Fig.33）

**位置** X 232・233、Y 206・207 グリッド。**主軸方向** N - 84° - E。**形状等** 正方形。東西 3.5 m、南北 3.6 m、壁高 40cm。**床面** 地山床。**竪** 東壁中央やや南に構築。主軸方向は N - 80° - E。全長 54cm、最大幅 50cm、焚き口 60cm。**重複関係** 1号礎石建物跡、4号溝跡、5号溝跡、6号溝跡と重複。重複関係は 1号礎石建物跡よりも新しく、4・5・6号溝跡よりも古い。**出土遺物** 須恵器（甕・高盤）破片、土師質土器（环・塊）破片、羽釜破片、石製品（碁石）が出土。**時期** 覆土や出土遺物より 10世紀代後半と考えられる。

### 6号竪穴建物跡（遺構：Fig.18、PL.5/ 遺物：Fig.33）

**位置** X 230 ~ 232、Y 207・208 グリッド。**主軸方向** N - 87° - E。**形状等** 長方形と推定される。北壁と東壁の一部、床面を検出。東西 (5.2) m、南北 (3.07) m。壁高 17cm。**床面** 地山床。中央付近に灰の広く分布する箇所が確認された。**ピット** 本遺構に伴う可能性のあるピットを 1 基検出。規模等は Tab. 2 に記載。**重複関係** 1号礎石建物跡、2号溝跡と重複。本遺構が最も新しい。**出土遺物** 土師器（手の字状口縁皿）破片、須恵器（甕）破片、土師質土器（环）、羽釜破片、貝塚穴痕軟質泥岩、鉄滓が出土。**時期** 覆土や出土遺物より、11世紀代と考えられる。

#### 7号竪穴建物跡（遺構：Fig.19、PL.5）

**位置** X 233・234、Y 205 グリッド。**主軸方向** N – 63° – E。**形状等** 方形と推定される。北西隅のみを検出。東西 (0.7) m、南北 (0.95) m。壁高 10cm。**床面** 貼床。**柱穴** 1 基検出。長軸 33cm、深さ 20cm の円形。**重複関係** 1号礎石建物跡と重複。本遺構の方が古い。**出土遺物** 土師器（环・甕）破片、須恵器（甕）破片が出土。**時期** 出土遺物や重複関係より 6世紀代後半と推定される。

#### 8号竪穴建物跡（遺構：Fig.19）

**位置** X 233 Y 208 グリッド。**主軸方向** N – 50° – W。**形状等** 蒼海 (127) X – 2 と同一の遺構。今回の調査では竪穴建物として扱った。歪んだ長方形を呈している。東西 1.35 m、南北 2.25 m、壁高 16cm。**床面** 挖り方のみ検出。**竪** 検出されなかった。**貯蔵穴・柱穴** 検出されなかった。**周溝** 検出されなかった。**重複関係** 1号礎石建物跡と重複。本遺構の方が新しい。**時期** 10 ~ 11世紀代と推定される。

#### 9号竪穴建物跡（遺構：Fig.19、PL.5）

**位置** X 231・232、Y 208 グリッド。**主軸方向** N – 70° – E。**形状等** 蒼海 (127) 4号竪穴建物跡と同一の遺構。正方形を呈するものと思われるが、大半が 1号礎石建物跡によって失われている。東西 (3.65) m、南北 (1.65) m、壁高 12.5cm。**床面** 貼床。**竪** 南西隅で検出。主軸方向は N – 148° – W。全長 69cm、最大幅 27cm、焚き口 35cm。**周溝** 南壁でのみ検出。周溝の規模は上幅 16cm、下幅 11cm。**重複関係** 1号礎石建物跡、1号掘立柱建物跡、2号溝跡と重複。本遺構が最も古い。**出土遺物** 土師器（环）破片、須恵器（环・甕）破片が出土。**時期** 出土遺物が少なく時期特定が難しいが、6世紀代と考えられる。

#### 10号竪穴建物跡（遺構：Fig.19、PL.5/ 遺物：Fig.34）

**位置** X 231・232、Y 208 グリッド。**主軸方向** N – 75° – E。**形状等** 蒼海 (127) 1号竪穴建物跡と同一の遺構。正方形を呈する。西壁・南壁は今回調査区外。東西 (3.96) m、南北 (0.95) m、壁高 15.5cm。**床面** 貼床。**竪** 調査区外。蒼海 (127) で調査・確認済み。**貯蔵穴・柱穴** 検出されず。**周溝** 検出されず。**出土遺物** 土師器（环・甕）破片、須恵器（甕）破片が出土。**時期** 7世紀中葉。（蒼海 (127) 報告書より）

#### 11号竪穴建物跡（遺構：Fig.20、PL.6/ 遺物：Fig.34）

**位置** X 233、Y 207 グリッド。**主軸方向** N – 82° – E。**形状等** 正方形を呈している。東西 3.6 m、南北 3.6 m、壁高 19.5cm。**床面** 貼床。**竪** 東壁中央よりやや南で確認。主軸方向は N – 99° – E。全長 1.1 m、最大幅 65cm、焚き口 55cm を測る。**貯蔵穴・柱穴** ピットを 4 基確認。 $P_1$  は長軸 37cm、深さ 13.5cm。 $P_2$  は長軸 103cm、短軸 62cm の不定形で、深さ 12.5cm。 $P_3$  は長軸 77cm、深さ 12.5cm。 $P_4$  は最大径 70cm、深さ 13cm。**周溝** 北西隅のみ明瞭ではなかったが、ほぼ全周する。周溝の規模は、最大上幅 18cm、最大下幅 7cm。**重複関係** 1号礎石建物跡、5号竪穴建物跡、1号落ち込みと重複。本遺構が最も古い。**出土遺物** 土師器（环・甕）破片、須恵器（环・甕）破片、石製品（臼玉）が出土。**時期** 重複関係や出土遺物より、7世紀後半と考えられる。

#### 12号竪穴建物跡（遺構：Fig.20、PL.6/ 遺物：Fig.34）

**位置** X 232・233、Y 205 グリッド。**主軸方向** N – 82° – E。**形状等** 大部分が重複する遺構によって失われているが、南北の壁と北東の角が確認できたため、長方形を呈するものと思われる。東西 3.4 m、南北 2.5 m。壁高 10.5cm。**床面** 貼床。**竪** 検出されなかった。**重複関係** 1号礎石建物跡、1号竪穴建物跡、3号竪穴建物跡、2号溝跡と重複。3号竪穴建物跡、2号溝跡よりも新しく、1号礎石建物跡、1号竪穴建物跡よりも古い。**出土**

**遺物** 土師器（环・甕）破片が出土。**時期** 重複関係や出土遺物より7世紀後半と考えられる。

### （3）溝跡

**1号溝跡**（遺構：Fig.21、巻頭図版2、PL6/ 遺物：Fig.34）

**位置** X 230～234、Y 204 グリッド。**主軸方向** N-94°-E。**形状等** トレンチ内で検出された長さ 12.3m、最大上幅 1.45 m。最大下幅 1.1 m。最大深さ 21.5cm。断面は浅いU字型。**重複関係** 1号竪穴状遺構、2号竪穴建物跡と重複。2号竪穴建物跡よりも新しく、1号竪穴状遺構よりも古い。**出土遺物** 土師器（环・甕）破片、須恵器（环・甕・高环・鉢・円面鏡？）破片、黒色土器破片が出土。**時期** 8世紀代と考えられる。

**2号溝跡**（遺構：Fig.22、巻頭図版2、PL6/ 遺物：Fig.34、Fig.35）

**位置** X 230～234、Y 204～209 グリッド。**主軸方向** N-35°-E。**形状等** トレンチ内で検出された長さは 19.2 m、最大上幅 2.2 m。最大下幅 1.2 m。最大深さ 71.5cm。断面は逆台形で、底面は平坦。覆土中に2面の硬化面を確認。終結部は調査区内では確認できず、推定上野国府 11 トレンチ 1 号溝跡、推定上野国府 37 トレンチ 1 号溝跡、苔海（127）5号溝跡と同一の遺構であり、南西・北東両方向へさらに続くと見られる。

**重複関係** 1号礎石建物跡、1号・3号・5号・6号・9号・12号竪穴建物跡と重複。3号・9号・12号竪穴建物跡よりも新しく、1号礎石建物跡、1号・5号・6号竪穴建物跡よりも古い。**出土遺物** 土師器（环・甕）、須恵器（环・甕・高环・鉢）破片が出土。**時期** 重複関係や出土遺物より7世紀後半と考えられる。

**3号溝跡**（遺構：Fig.23、PL6/ 遺物：Fig.34）

**位置** X 232～234、Y 206 グリッド。**主軸方向** N-85°-E。**形状等** トレンチ内で検出された長さ 8.3 m、最大上幅 65cm、最大下幅 55cm、最大深さ 27cm。本遺構が4号溝跡を壊しており、主軸方向が同じであることから、本遺構は4号溝跡を作り替えたものである可能性が考えられる。断面形状は逆台形で、底面は平坦。終結部は攪乱によって失われており不明。**重複関係** 1号礎石建物跡、4号竪穴建物跡、4号溝跡と重複。本遺構が一番新しい。**出土遺物** 土師器（环）破片、須恵器（甕・环）破片、土師質土器（环・甕）破片、黒色土器破片、陶器小破片が出土。**時期** 中世以降。

**4号溝跡**（遺構：Fig.23、PL6）

**位置** X 232～234、Y 206 グリッド。**主軸方向** N-85°-E。**形状等** トレンチ内で検出された長さ 6.1 m、最大上幅 68cm、最大下幅 54cm、最大深さ cm。断面形状は浅いU字型で、底面は平坦。終結部は攪乱によって失われており不明。**重複関係** 1号礎石建物跡、5号竪穴建物跡、3号溝跡と重複。1号礎石建物跡、5号よりも新しく、3号溝跡より古い。**出土遺物** 須恵器（甕）破片、土師質土器（环）破片、平瓦破片が出土。**時期** 中世以降。

**5号溝跡**（遺構：Fig.23、PL6/ 遺物：Fig.35）

**位置** X 232～234、Y 206 グリッド。**主軸方向** N-85°-E。**形状等** トレンチ内で検出された長さ 5.6 m、最大上幅 98cm、最大下幅 65cm、最大深さ 26.5cm。断面形状は逆台形で、底面は平坦。終結部は攪乱によって失われており不明。**重複関係** 1号礎石建物跡、5号竪穴建物跡と重複。本遺構の方が新しい。**出土遺物** 須恵器（环・甕・円面鏡）破片、土師質土器（环・甕）破片、陶器小破片が出土。**時期** 中世以降。

**6号溝跡**（遺構：Fig.23、PL6/ 遺物：Fig.35）

**位置** X 231～234、Y 207 グリッド。**主軸方向** N-85°-E。形状等 トレンチ内で検出された長さ 11m、最大上幅 49cm。最大下幅 36cm。最大深さ 13cm。断面形状は浅いU字型。終結部は不明だが、調査区外まで続いているものと思われる。**重複関係** 5号竪穴建物跡、6号竪穴建物跡と重複。本遺構が最も新しい。**出土遺物** 須恵器（环・甕）破片、土師質土器（环・塊）破片、陶器小破片が出土。**時期** 中世以降。

#### （4）竪穴状遺構

##### 1号竪穴状遺構（遺構：Fig.23、PL.7）

**位置** X 230・231、Y 204・205 グリッド。**主軸** N-72°-E。**形状等** 長方形を呈すると推定される。北辺及び西辺は調査区外。東西（3.9）m、南北（2.0）m、壁高 17.5cm を測る。**重複関係** 2号竪穴建物跡、1号溝跡と重複。本遺構が最も新しい。**出土遺物** 土師器（环・甕）破片、須恵器（环・甕）破片、土師質土器（环）破片、平瓦片、陶器破片が出土。**時期** 中世以降。

##### 2号竪穴状遺構（遺構：Fig.24、PL.7）

**位置** X 231・232、Y 205・206 グリッド。**主軸** N-86°-E。**形状等** ほぼ長方形を呈する。東西 4.12 m、南北 2.26 m、壁高 90.5cm。南北壁の中央部は搅乱によって壊されている。**ピット等** 柱穴とみられるピットが 3 基検出された。規模等は Tab. 2 のとおり。**重複関係** 1号竪穴建物跡、1号建物跡と重複。本遺構が最も新しい。**出土遺物** 須恵器（环・甕）破片、土師質土器（环）破片、陶器破片が出土。床面に扁平な碟を多数検出した。**時期** 近世以降。

#### （5）井戸、土坑、土壙墓、ピット、落ち込み

井戸が 2 基、土坑が 8 基、土壙墓が 1 基、ピットが 179 基、落ち込みが 1ヶ所検出された（遺構：Fig.24～31、PL.7/ 遺物：Fig.35、Fig.36）。各遺構の規模等については遺構計測表（Tab.2）に記載した。

Tab.2 遺構計測表

## 1号掘立柱建物跡

遺構名	位置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	主な出土遺物	備考
P <sub>1</sub>	-	64.0	58.5	61.5	方形	土師器(甕)破片、須恵器(高环)破片。	
P <sub>2</sub>	-	59.0	55.0	53.5	円形	土師器(环・甕)破片、須恵器(甕)破片。	
P <sub>3</sub>	-	102.0	74.5	39.0	楕円形	なし。	

## 1号竪穴建物跡

遺構名	位置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	主な出土遺物	備考
P <sub>1</sub>	南東	69.5	55.5	28.5	円形	須恵器(环・甕)破片。	

## 2号竪穴建物跡

遺構名	位置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	主な出土遺物	備考
P <sub>1</sub>	南東	48.0	37.0	33.0	円形	なし。	
P <sub>2</sub>	南東	38.0	24.0	43.5	円形	なし。	
P <sub>3</sub>	南東	27.5	21.0	52.5	方形	なし。	
P <sub>4</sub>	南東	63.0	43.0	31.0	楕円形	なし。	

## 3号竪穴建物跡

遺構名	位置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	主な出土遺物	備考
P <sub>1</sub>	北東	42.5	38.0	38.0	円形	なし。	
P <sub>2</sub>	北西	29.0	24.0	45.5	円形	なし。	
P <sub>3</sub>	南東	17.0	16.5	35.0	円形	なし。	
P <sub>4</sub>	南東	68.0	59.0	70.5	方形	なし。	

## 6号竪穴建物跡

遺構名	位置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	主な出土遺物	備考
P <sub>1</sub>	北	36.0	29.0	45.5	楕円形	須恵器(环・甕)破片。	

## 7号竪穴建物跡

遺構名	位置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	主な出土遺物	備考
P <sub>1</sub>	北西	33.0	29.0	45.5	楕円形	なし。	

## 11号竪穴建物跡

遺構名	位置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	主な出土遺物	備考
P <sub>1</sub>	北東	37.0	21.0	13.0	楕円形	酸化焰燒成須恵器(环)破片。	
P <sub>2</sub>	北西	103.0	62.0	12.5	不定形	なし。	
P <sub>3</sub>	南西	77.0	62.0	12.5	楕円形	なし。	
P <sub>4</sub>	南東	70.0	42.0	13.0	楕円形	なし。	

## 2号竪穴状遺構

遺構名	位置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	主な出土遺物	備考
P <sub>1</sub>	西	67.5	47.0	27.5	方形	なし。	
P <sub>2</sub>	中央	17.5	15.5	19.0	円形	なし。	
P <sub>3</sub>	東	17.5	15.5	18.5	円形	なし。	

## 2号溝跡

遺構名	位置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	主な出土遺物	備考
P <sub>1</sub>	X231.Y208	22.5	21.0	17.0	円形	なし。	

## 土坑

遺構名	位置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	主な出土遺物	備考
D-1	X232.Y204	89.5	47.5	13.0	長方形	土師質上器(环)破片。	
D-2	X233.Y204	117.5	83.5	9.0	長方形	須恵器(环・甕)破片、土師質上器(环)破片。	
D-3	X233.Y205	105.0	102.0	18.5	方形	土師器(环・甕)破片、須恵器(环・甕)破片、土師質上器(环)破片。	
D-4	X233.Y205	63.0	62.0	10.5	楕円形	土師質上器(环)破片。	
D-5	X233.Y205.206	124.0	48.0	18.5	不定形	土師質上器(环・甕)破片。	
D-6	X231.206	64.5	48.0	29.5	楕円形	土師質上器(环・高环)破片。	
D-7	X232.208	70.0	65.0	4.0	楕円形	土師質上器(环・柳)破片。	
D-8	X232.208	78.5	75.0	19.0	円形	土師質上器(环)破片。	

## ピット

遺構名	位置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	主な出土遺物	備考
P-1	X231.Y205	37.0	10.0	17.0	円形	須恵器(甕)破片、酸化焰燒成須恵器(环)破片。	覆土にAs.B多量。
P-2	X231.Y205	35.0	14.0	16.0	円形	酸化焰燒成須恵器(环)破片。	覆土にAs.B多量。
P-3	X232.Y206	30.0	20.0	22.5	円形	なし。	覆土にAs.B多量。
P-4	X230.Y206	18.0	13.0	8.0	円形	なし。	覆土にAs.B多量。
P-5	X230.Y206	19.0	16.0	13.0	円形	なし。	覆土にAs.B多量。
P-6	-	-	-	-	-	-	欠番
P-7	-	-	-	-	-	-	欠番
P-8	-	-	-	-	-	-	欠番
P-9	X231.Y205	18.0	15.0	10.0	円形	土師質上器小片。	
P-10	X231.205	17.0	15.0	14.0	円形	なし。	
P-11	X231.Y205.206	26.0	21.0	21.0	円形	なし。	

P_12	X231,Y206	30.0	20.0	20.5	円形	土師質土器小片。		
P_13	X231,Y206	17.0	14.0	9.5	円形	なし。		
P_14	X231,Y206	17.0	17.0	16.0	円形	なし。		
P_15	X231,Y206	18.0	13.0	14.5	円形	なし。		
P_16	X231,Y206	23.0	18.0	24.5	円形	土師器小片。		
P_17	X231,Y206	27.0	20.0	33.5	円形	なし。	覆土に As-B 多量。	
P_18	X231,Y206	30.0	20.0	21.0	円形	須恵器(甕)破片、土師質土器(环)破片。		
P_19	X231,Y206	20.0	20.0	26.0	円形	土師器小片。		
P_20	X233,Y207	42.0	38.0	29.5	円形	土師器小片。	覆土に As-B 多量。	
P_21	X233,Y206	25.0	25.0	28.5	円形	土師質土器小片。	覆土に As-B 多量。	
P_22	X231,Y206	12.0	12.0	15.5	円形	なし。		
P_23	X233,Y207	22.0	20.0	16.5	円形	土師質土器小片。		
P_24	X233,Y207	20.0	20.0	13.5	円形	土師質土器小片、砾石。		
P_25	X233,Y207	20.0	20.0	24.0	円形	土師質土器小片。		
P_26	X233,Y207	30.0	17.0	26.5	円形	なし。		
P_27	X231,Y207	30.0	30.0	43.5	円形	土師器小片。	覆土に As-B 多量。	
P_28	X231,Y206	22.0	20.0	27.0	円形	羽釜破片。	覆土に As-B 多量。	
P_29	X231,Y206	30.0	25.0	14.5	円形	須恵器(甕)破片、土師質土器小片。	覆土に As-B 多量。	
P_30	X231,Y206	30.0	25.0	37.5	円形	土師質土器(环)破片。	覆土に As-B 多量。	
P_31	X233,Y205	20.0	18.0	27.0	円形	なし。	覆土に As-B 多量。	
P_32	X233,Y205	40.0	35.0	36.5	円形	土師質土器小片。	覆土に As-B 多量。	
P_33	X233,Y205	32.0	30.0	41.0	円形	土師質土器(环)破片。	覆土に As-B 多量。	
P_34	X233,Y205	25.0	20.0	13.5	方形	なし。	覆土に As-B 多量。	
P_35	X233,Y205	52.0	39.0	27.0	円形	土師器小片、土師質土器小片。	覆土に As-B 多量。	
P_36	X232,Y206	17.0	15.0	19.0	円形	なし。		
P_37	X232,Y206	30.0	28.0	27.0	円形	土師質土器(环)破片。		
P_38	X232,Y206	20.0	18.0	14.5	円形	なし。		
P_39	X232,Y207	33.0	33.0	29.0	円形	なし。		
P_40	X232,Y207	15.0	15.0	33.0	円形	土師質土器小片。		
P_41	X232,Y207	15.0	10.0	42.5	円形	土師質土器小片。		
P_42	X231,232,Y207	15.0	15.0	25.5	円形	須恵器小片。		
P_43	X231,Y207	50.0	37.0	47.5	円形	土師器(环)破片、須恵器(甕)破片、土師質土器小片。		
P_44	X231,Y207,208	27.0	20.0	18.5	円形	なし。	覆土に As-B 多量。	
P_45	X231,Y207	17.0	15.0	34.5	円形	なし。		
P_46	X231,Y207	12.0	12.0	30.0	円形	土師質土器小片。		
P_47	X231,Y207	20.0	18.0	23.5	円形	土師質土器小片。		
P_48	X231,Y207	20.0	20.0	21.5	円形	土師質土器(环)破片。		
P_49	X231,Y207	22.0	20.0	25.5	円形	土師質土器小片。		
P_50	X231,Y207	29.0	28.0	32.0	円形	なし。		
P_51	X231,Y207	18.0	13.0	24.0	円形	土師器小片、土師質土器小片。		
P_52	X231,Y207	25.0	23.0	20.0	円形	土師質土器小片。		
P_53	X231,Y207	25.0	20.0	34.5	円形	土師質土器小片。		
P_54	X230,231,Y207	20.0	17.0	28.5	円形	土師質土器小片。	覆土に As-B 多量。	
P_55	X230,231,Y207	35.0	30.0	27.5	円形	土師質土器小片。	覆土に As-B 多量。	
P_56	X231,Y207	22.0	10.0	34.5	円形	なし。	覆土に As-B 多量。	
P_57	X231,Y207	29.0	24.0	27.0	円形	須恵器小片、土師質土器小片。		
P_58	X233,Y205	52.0	40.0	29.0	梢円形	土師質土器小片。		
P_59	X233,Y205	-	35.0	8.5	不定形	須恵器(壺)破片。		
P_60	X233,Y205	25.0	18.0	29.0	円形	土師器小片。		
P_61	X233,Y205	52.0	38.0	39.5	円形	須恵器破片、土師質土器小片、羽釜破片。		
P_62	X231,Y207	20.0	18.0	19.0	円形	須恵器小片、土師質土器小片。		
P_63	X231,Y207	25.0	25.0	23.5	円形	なし。		
P_64	X231,Y207	20.0	15.0	15.5	円形	土師質土器小片。	覆土に As-B 多量。	
P_65	X232,Y207,208	15.0	10.0	33.0	円形	土師質土器小片。	覆土に As-B 多量。	
P_66	X232,Y207,208	35.0	30.0	23.0	円形	土師質土器小片。		
P_67	X231,Y208	44.0	37.0	29.0	円形	土師器小片、土師質土器小片。		
P_68	X233,Y205	40.0	32.0	40.0	円形	土師質土器小片。		
P_69	X233,Y205	22.0	18.0	32.0	円形	土師質土器小片。		
P_70	X231,Y207	29.0	23.0	25.0	方形	なし。		
P_71	X231,Y208	21.0	14.0	29.0	梢円形	土師質土器小片。		
P_72	X233,Y207	42.0	38.0	16.5	梢円形	なし。		
P_73	X233,234,Y207	23.0	21.0	50.5	円形	土師質土器小片。		
P_74	X233,234,Y207	14.0	13.0	27.5	円形	なし。		
P_75	X233,234,Y207	17.0	15.0	40.5	円形	土師質土器小片。		
P_76	X233,234,Y207,208	20.0	17.0	30.0	円形	土師質土器小片、铁津。		
P_77	X233,Y207	29.0	21.0	27.5	円形	土师质器(壺)破片。		
P_78	X233,Y207	19.0	16.0	25.5	方形	なし。		
P_79	X233,Y208	28.0	15.0	13.0	梢円形	なし。		

P-80	X233.Y207	27.0	18.0	16.5	円形	なし。	
P-81	X233.Y207	37.0	26.0	60.0	円形	須恵器（环）破片、土師質土器小片。	
P-82	X233.Y207	29.0	27.0	26.0	円形	なし。	
P-83	X233.Y207	25.0	23.0	13.5	方形	土師質土器小片。	
P-84a	X233.Y208	27.0	22.0	23.5	円形	土師質土器小片。	
P-84b	X233.Y208	181.0	14.0	20.0	円形	土師質土器小片。	
P-85	X232.Y205	27.0	23.0	14.5	円形	なし。	
P-86	X232.Y205	45.0	32.0	29.5	楕円形	土師質土器小片。	
P-87	X232.Y206	22.0	18.0	32.0	円形	なし。	
P-88	X232.Y206	21.0	19.0	18.0	円形	なし。	
P-89	X232.Y206	20.0	17.0	-	方形	なし。	
P-90	X232.Y206	23.0	16.0	51.0	方形	なし。	
P-91	X233.Y207	15.0	11.0	23.5	円形	なし。	
P-92	X233.Y207	18.0	16.0	26.0	円形	なし。	
P-93	X233.Y207	16.0	14.0	16.5	円形	土師器（甕）破片、羽口破片。	
P-94	X233.Y208	23.0	22.0	43.0	円形	土師質土器小片。	
P-95	X233.Y207,208	38.0	28.0	29.5	円形	土師質土器小片。	
P-96	X233.Y207,208	62.0	49.0	13.5	不定形	土師質土器小片。	
P-97	X233.Y207	32.0	28.0	21.0	円形	土師質土器小片。	
P-98	X233.Y207	14.0	13.0	28.0	円形	なし。	
P-99	X233.Y207	21.0	18.0	17.5	楕円形	なし。	
P-100	X231.Y207	18.5	18.0	6.5	円形	土師質土器（环）破片。	
P-101	X231.Y208	30.0	28.0	28.0	円形	なし。	
P-102	X231.Y208	18.0	16.0	34.5	円形	なし。	
P-103	X231.Y208	24.0	22.0	45.0	円形	なし。	
P-104	X231.Y208	62.0	54.0	33.5	円形	土師器小片、土師質土器小片。	
P-105	X232.Y207,208	17.0	15.0	23.5	円形	土師質土器小片。	覆面に As-B 多量。
P-106	X231.Y205	54.0	36.0	35.5	円形	なし。	
P-107	X231.Y205	48.0	32.0	27.5	円形	なし。	
P-108	X231.Y205	35.0	32.0	36.0	円形	なし。	
P-109	X231.Y205	29.0	19.0	27.5	円形	なし。	
P-110	X231.Y205	39.0	30.0	25.0	円形	なし。	
P-111	X231.Y205	31.0	26.0	19.0	円形	なし。	
P-112	X233.Y205	39.0	35.0	-	円形	なし。	
P-113	X233.Y205,206	40.0	32.0	-	円形	なし。	
P-114	X233.Y205,206	36.0	28.0	-	円形	なし。	
P-115	X232.Y207	21.0	18.0	16.5	方形	なし。	
P-116	X232.Y207	17.0	16.0	21.0	円形	須恵器（甕）破片、土師質土器小片。	
P-117	X234.Y205,206	34.0	29.0	-	方形	須恵器（甕）破片。	
P-118	X232.Y207	36.0	11.5	20.0	楕円形	なし。	
P-119	X232.Y207	34.5	27.0	27.0	楕円形	土師器（环）破片。	
P-120	X232.Y207	50.5	34.0	33.0	円形	土師器（环）破片。	
P-121	X232.Y207	47.0	42.0	32.0	円形	土師質土器小片。	
P-122	X232.Y207	18.0	17.0	-	円形	土師質土器小片。	
P-123	X232.Y207	19.0	18.0	-	円形	なし。	
P-124	X233.Y207	16.0	14.0	-	方形	土師質土器小片。	
P-125	X233.Y207	19.0	14.0	-	方形	土師質土器小片。	
P-126	X232.Y208	16.0	15.0	9.0	円形	なし。	
P-127	X233.Y207	52.0	41.5	37.0	楕円形	土師器（甕）破片、土師質土器（环）破片。	
P-128	X233.Y207	23.5	20.5	8.0	円形	土師質土器（甕）破片。	
P-129	X233.Y207	32.0	26.0	33.0	方形	土師質土器小片。	
P-130	X232.Y207	33.5	32.0	22.0	円形	なし。	
P-131	X232.Y207	16.0	15.0	14.0	円形	なし。	
P-132	X232.Y207	25.0	25.0	11.0	円形	なし。	
P-133	X233.Y207	14.0	12.5	11.5	円形	土師器（环）破片。	
P-134	X233.Y207	28.0	25.5	61.0	円形	土師質土器（环）破片。	
P-135	X233.Y207	31.0	26.0	13.0	円形	土師質土器小片。	
P-136	X233.Y208	-	-	9.0	-	なし。	
P-137	X233.Y207	20.5	19.0	11.0	円形	なし。	
P-138	X233.Y208	-	-	13.0	円形	なし。	
P-139	X232.Y207	26.0	22.0	32.5	方形	なし。	
P-140	X232.Y207	18.0	15.0	11.5	方形	土師質土器小片。	
P-141	X233,234.Y205	39.0	28.0	21.0	円形	土師器（甕）破片、土師質土器小片。	
P-142	X233.Y207	20.5	17.5	4.5	円形	なし。	
P-143	-	-	-	-	-	-	欠番
P-144	X233.Y207	17.5	14.5	5.5	円形	なし。	
P-145	X233.Y207	15.5	14.5	46.0	方形	土師質土器小片。	
P-146	X232.Y207	25.0	24.0	16.0	円形	なし。	
P-147	X232,233.Y207	21.0	17.0	17.5	円形	土師質土器小片。	
P-148	X232.Y208	27.0	18.0	31.5	楕円形	なし。	

P-149	X233,Y208	22.0	17.0	13.5	円形	土師質土器小片。	
P-150	X233,Y208	62.0	37.0	58.5	方形	なし。	
P-151	X232,Y208	32.0	27.0	18.5	円形	なし。	
P-152	X232,233,Y208	46.0	40.0	12.0	円形	土師器(环)破片、須恵器小片、土師質土器(环)破片。	
P-153	X231,Y206,207	20.0	18.0	11.0	円形	土師質土器(环)破片。	
P-154	X233,Y208	19.0	18.5	33.5	円形	土師質土器小片。	
P-155	X233,Y208	22.0	20.0	21.0	円形	なし。	
P-156	X233,Y207	24.5	22.5	20.0	方形	なし。	
P-157	X233,Y208	34.0	29.0	32.0	円形	土師器小片。	
P-158	X233,Y207	19.5	19.0	17.0	方形	土師質土器小片。	
P-159	X230,Y207	42.0	30.0	38.0	方形	なし。	
P-160	X230,Y207	19.0	16.0	53.0	円形	なし。	
P-161	X232,Y207	34.5	29.0	38.5	円形	平底破片。	
P-162	X231,Y205	22.0	21.0	28.0	方形	なし。	
P-163	X231,Y208	32.0	27.0	25.5	円形	なし。	
P-164	X231,Y205	30.0	22.0	25.0	椭円形	なし。	
P-165	X231,Y205	34.5	32.0	49.0	円形	須恵器(环)破片。	
P-166	X232,Y207	24.0	119.0	29.5	椭円形	なし。	
P-167	X233,Y206	38.0	18.0	-	椭円形	なし。	
P-168	-	-	-	-	-	-	欠番
P-169	X232,Y208	33.0	29.5	10.0	円形	なし。	
P-170	X232,Y205	28.0	26.0	13.0	円形	土師質土器小片。	
P-171	X232,Y206	31.0	21.0	23.5	円形	なし。	
P-172	X232,Y206	17.0	16.0	10.0	円形	なし。	
P-173	X232,Y207	17.5	16.0	12.5	円形	なし。	
P-174	X232,Y207	29.0	29.0	28.0	円形	土師器(环)破片、土師質土器小片。	
P-175	X232,Y207	17.0	17.0	24.0	円形	なし。	
P-176	X233,Y206	30.0	28.0	-	円形	なし。	
P-177	X231,Y206	26.0	24.0	24.5	円形	なし。	
P-178	X233,Y204	20.0	16.0	7.5	円形	なし。	
P-179	X230,Y208	11.0	10.5	26.5	円形	なし。	

井戸跡

遺構名	位置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	主な出土遺物	備考
I-1	X230,Y205	218.0	69.0	-	円形	土師器(环・甕)、須恵器(甕)、土師質土器(环)破片	
I-2	X232,Y208	130.0	127.0	-	円形	なし。	(127) I-1

落ち込み

遺構名	位置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	主な出土遺物	備考
O-1	X232,233,Y207,208	315.5	292.5	23.0	円形	土師器(ての字状・輪底)破片、土師質土器(环・高环・塊)破片、灰釉陶器(皿)破片、土釜破片、黒色土器(塊)破片。	

Table.3 遺物觀察表

## 1号墳石建物跡（掘込地業内）

番号	器種	法量(cm)	①焼成②色調(外/内)③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	埴輪人物	長さ:[8.0] 幅:[3.8] 厚さ:[2.5] 重さ:[9.8]	①普通(窯窓焼成)②にぶい橙・角閃石・石英・白色粒・黒色粒③美良磚片	人物埴輪の男子左頬から剝落した美豆良。中実造り。下端は外方向に突出する。左頬に貼付後、ナデ。	6世紀
2	土師器環 高环	器高:[3.7]	①普通②にぶい橙/にぶい褐③石英・角閃石・チャート・白色粒・黒色粒④体部下位~脚部上位	外面:口縁部ヨコナデ、体部上半ナデ、体部下半~底部ヘラケズリ。内面:口縁部~体部ヨコナデ、底部ヘラナデ。	
3	土師器環	口径:[10.8] 器高:[3.8]	①普通②橙/褐③角閃石・石英・長石・黒色粒・白色粒④口縁部~体部1/5	外面:口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。内面:口縁部ヨコナデ、体部~底部ヨコナデ。	7世紀後半
4	土師器環	口径:[11.4] 器高:[3.3]	①良好②にぶい橙/褐③石英・角閃石・黒色粒・白色粒④口縁部~体部1/4	外面:口縁部ヨコナデ、体部上半ナデ、体部下半~底部ヘラケズリ。内面:口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ。	7世紀後半
5	土師器環	口径:[12.0] 器高:[2.8]	①良好②橙/褐③石英・角閃石・白色粒・黒色粒④口縁部~体部1/10	外面:口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。内面:口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ。	7世紀後半
6	土師器環	器高:[3.6]	①良好②橙/褐③石英・白色粒・黒色粒・褐色粒④体部下位1/10、脚部上位1/3	外面:口縁部ヨコナデ、体部~底部ヘラケズリ。内面:口縁部~体部ヨコナデ、底部ヘラナデ。	

## 1号墳穴建物跡

番号	器種	法量(cm) / g	成・整形技法の特徴	備考	
7	銅製鉈尾	長さ:4.5、幅:3.8、厚さ:1.0、重さ:27.5、銅摺金具の軸尾。鳥油という銅製黒墨塗。内面3ヶ所に鉄。			
番号	器種	法量(cm)	①焼成②色調(外/内)③胎土④残存	成・整形技法の特徴	
8	土師質土器環	口径:[9.4] 底径:4.8 器高:2.2	①普通②にぶい橙/にぶい褐③角閃石・石英・白色粒・黒色粒④口縁部~体部1/4、底部形片	外面:織籠形。底部右回転糸切り。 内面:織籠形。	10世紀後半~11世紀
9	土釜	口径:[27.5] 器高:[15.8]	①普通②にぶい橙/にぶい赤褐③角閃石・石英・白色粒④口縁部~側縁破片	外面:口縁部ヨコナデ、胴部上半ヘラナデ、下半ヘラケズリ。内面:口縁部ヨコナデ。制部ヘラナデ。	10世紀後半~11世紀
10	土師質土器環	口径:9.7 底径:4.7 器高:2.5	①普通②にぶい橙/浅黄褐③石英・白色粒・黒色粒④ほぼ完形	外面:織籠形。底部右回転糸切り。 内面:織籠形。	10世紀後半~11世紀
11	土師質土器環	口径:9.2 底径:5.6 器高:2.6	①普通②にぶい橙/浅黄褐③チャート・石英・白色粒④ほぼ完形	外面:織籠形。底部右回転糸切り。 内面:織籠形。	10世紀後半~11世紀
12	土師質土器環	口径:9.2 底径:4.9 器高:2.3	①普通②黄褐/黄褐③角閃石・石英・黒色粒・白色粒・褐色粒④完形	外面:織籠形。底部右回転糸切り。 内面:織籠形。	10世紀後半~11世紀
13	白磁碗	器高:[1.2]	①還元焰②素地:灰白/釉:灰白③織密④口縁部破片	外面:織籠形。 内面:織籠形。	11世紀後半~12世紀
14	白磁碗	器高:[1.3]	①還元焰②素地:灰白/釉:灰白③織密④体部破片	外面:織籠形。 内面:織籠形。	11世紀後半~12世紀
15	白磁碗	器高:[2.5]	①還元焰②素地:灰白/釉:灰白③織密④体部破片	外面:織籠形。 内面:織籠形。	11世紀後半~12世紀
16	白磁碗	器高:[1.7]	①還元焰②素地:灰白/釉:灰白③織密④口縁部破片	外面:織籠形。 内面:織籠形。	11世紀後半~12世紀

## 2号墳穴建物跡

番号	器種	法量(cm)	①焼成②色調(外/内)③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
17	土師器環	口径:[11.8] 器高:[2.7]	①良好②にぶい橙/にぶい褐③石英・角閃石・白色粒・黒色粒④口縁部~体部1/6	外面:口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ。 内面:口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。	7世紀後半
18	土師器環	口径:[11.8] 器高:[3.7]	①良好②にぶい橙/にぶい褐③石英・角閃石・白色粒・黒色粒④口縁部~体部1/6	外面:口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ。 内面:口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。	6世紀後半~7世紀前半
19	土師器環	口径:[17.8] 器高:[4.0]	①普通②橙/浅黄褐③石英・白色粒・褐色粒・黒色粒④口縁部~体部1/4	外面:口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ。 内面:口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。	内外面ともに器表面粗耗 7世紀前半

## 3号墳穴建物跡

番号	器種	法量(cm) / g	成・整形技法の特徴	備考	
20	石製品 臼玉	径:1.1、孔径:0.25、厚さ:0.65、重さ:1.5、滑石製。完形。			
番号	器種	法量(cm)	①焼成②色調(外/内)③胎土④残存	成・整形技法の特徴	
21	土師器環	口径:[12.3] 器高:4.0	①良好②にぶい橙/にぶい褐③石英・白色粒・黒色粒④1/4	外面:口縁部ヨコナデ。体部~底部ヘラケズリ。 内面:口縁部ヨコナデ。体部~底部ヘラナデ。	内外面ともに煤付着 7世紀前半
22	土師器環	口径:[12.0] 器高:[3.9]	①良好②にぶい赤褐/にぶい赤褐③石英・角閃石・白色粒・黒色粒④口縁部~体部1/8	外面:口縁部ヨコナデ。体部~底部ヘラケズリ。 内面:口縁部ヨコナデ。体部~底部ヘラナデ。	内外面ともに煤付着 7世紀後半~7世紀前半
23	土師器環	口径:[15.0] 器高:[4.2]	①良好②にぶい橙/にぶい褐③石英・黒色粒・白色粒④口縁部~体部1/8	外面:口縁部ヨコナデ。体部~底部ヘラケズリ。 内面:口縁部ヨコナデ。体部~底部ヘラナデ。	7世紀前半

## 4号墳穴建物跡

番号	器種	法量(cm)	①焼成②色調(外/内)③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
24	土師質土器環	底径:5.4 器高:[2.5]	①普通②橙/褐③白色粒・石英④底部形片	外面:織籠形。底部右回転糸切り。 内面:織籠形。	10世紀後半~11世紀
26	土師器皿	口径:[13.7] 器高:[2.5] 1/10	①良好②橙/褐③白色粒・石英④口縁部~体部	外面:口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。 内面:口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。	この子灰の縁皿 10世紀後半~11世紀

27	土師質土器 环	口径:(15.0) 高:(3.0)	①良好 ②浅黄橙 / 浅黄橙 ③黑色粒・褐色粒・石英 ④口縁部・体部 1/8	外面: 鳞状整形。 内部: 鳞状整形。	10世紀後半～ 11世紀
28	土師質土器 环	底径:(6.0) 高:(1.4)	①良好 ②灰白 / 灰白 ③黑色粒・褐色粒・石英 ④底部 1/4	外面: 鳞状整形。底部静止系切り。 内部: 鳞状整形。	10世紀後半～ 11世紀
29	土師質土器 环	底径:(6.0) 高:(1.4)	①普通 ②浅黄橙 / 浅黄橙 ③黑色粒・白色粒・石英・角閃石 ④底部 1/2	外面: 鳞状整形。底部右回転系切り。 内部: 鳞状整形。	10世紀後半～ 11世紀

## 5号竪穴建物跡

番号	器種	法量 (cm)	①焼成色調(外/内)③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
25	土師質土器 壺	口径:(14.0) 器高:[4.8]	①普通 ②に赤い粒 / 赤い粒 ③白色粒・石英 ④口縁部 1/3、体部～底部ほぼ完形、高台欠損	外面: 鳞状整形。底部右回転系切り、高台貼付後、周縁ナデ。	10世紀後半
30	土師質土器 环	口径:10.3 底径:5.0 高:2.9	①普通 ②浅黄橙 / 浅黄橙 ③黑色粒・白色粒・石英 ④口縁部 3/4、底部完形	外面: 鳞状整形。底部右回転系切り。 内部: 鳞状整形。	10世紀後半
31	羽釜	口径:(22.0) 器高:[27.0]	①酸化帯 ②に赤い粒 / に赤い粒 ③チャート・白色粒・石英 ④口縁部・体部 1/4	外面: 鳞状整形後、体部ヘラケズリ。跨貼付。 内部: 鳞状整形。	内外面に煤付着 10世紀後半
32	土師質土器 壺	口径:11.1 底径:5.8 高:4.9	①普通 ②淡黄 / 浅黄橙 ③黑色粒・白色粒・石英 ④完形	外面: 鳞状整形。底部回転系切り、高台貼付後、内外面ともに器表面磨耗 周縁ナデ。	10世紀後半
33	土師質土器 壺	口径:(11.0) 底径:6.0 器高:4.9	①普通 ②淡黄 / 淡黄 ③黑色粒・石英 ④口縁部・体部 1/2、底部完形	外面: 鳞状整形。底部高台貼付後、ナデ。	10世紀後半
34	須恵器 高盤	器高:[7.1]	①還元焰 ②灰白 / 灰白 ③白色粒・褐色粒 ④体部～脚部上位 1/3	外面: 鳞状整形後、三方の透孔。脚部中位に凹線3条。 内部: 鳞状整形。	
36	羽釜	器高:[5.1]	①酸化帯 ②に赤い粒 / に赤い粒 ③チャート・白色粒・石英 ④口縁部破片	外面: 鳞状整形。跨貼付。 内部: 鳞状整形。	10世紀
番号	器種	法量 (cm/g)	成・整形技法の特徴	備考	
35	石製品 基(石墨)	長さ:1.55、幅:1.5、厚さ:0.7、重さ:2.3	粘板岩。完形。		

## 6号竪穴建物跡

番号	器種	法量 (cm)	①焼成色調(外/内)③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
37	土師器 皿	器高:[2.5]	①普通 ②橙 / 橙 ③白色粒・黑色粒・褐色粒・石英 ④口縁部破片	外面: 口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。 内部: 口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。	ての字状口縁曲 10世紀後半～ 11世紀
40	羽釜	器高:[4.2]	①酸化帯 ②に赤い粒 / に赤い粒 ③チャート・白色粒・褐色粒・石英 ④口縁部破片	外面: 鳞状整形。跨貼付。 内部: 鳞状整形。	10世紀
番号	器種	法量 (cm/g)	成・整形技法の特徴	備考	
38	貝塚穴窓 軟質泥岩	長さ:2.45、幅:1.45、厚さ:2.0、重さ:2.2	穿孔貝の巣穴の穿孔痕という生痕化石がみられる軟質泥岩。表面は被熱によって赤化。		
39-1	鉄滓	長さ:5.6、幅:2.2、厚さ:2.2、重さ:113.9	丸みをもつ複数個並列。上側と左側は被熱。		
39-2	鉄滓	長さ:7.6、幅:4.2、厚さ:2.0、重さ:78.5	底面が断面U字形の流出溝溝。上側は被熱。		

## 10号竪穴建物跡

番号	器種	法量 (cm)	①焼成色調(外/内)③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
41	土師器 环	口径:(14.0) 器高:[4.8]	①良好 ②褐泥 / 黒 ③白色粒・黑色粒・褐色粒・石英 ④口縁部・体部 1/8	外面: 口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ。口縁部黒色処理。 内部: 口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。黒色処理。	6世紀後半～ 7世紀前半
42	土師器 环	器高:[3.7]	①良好 ②橙 / 橙 ③褐色粒・石英 ④口縁部・体部破片	外面: 口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ。 内部: 口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。	6世紀後半～ 7世紀前半
43	土師器 环	器高:[2.8]	①良好 ②に赤い粒 / 黑橙 ③黑色粒・褐色粒・白色粒・石英 ④口縁部・体部破片	外面: 口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ。口縁部黒色処理。 内部: 口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。黒色処理。	6世紀後半～ 7世紀前半

## 11号竪穴建物跡

番号	器種	法量 (cm)	①焼成色調(外/内)③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
44	土師器 环	口径:14.2 器高:5.2	①良好 ②橙 / 橙 ③黑色粒・白色粒・石英 ④7/8	外面: 口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。 内部: 口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	7世紀後半
45	土師器 环	口径:11.7 器高:4.4	①普通 ②黄 / 黄橙 ③白色粒・褐色粒・石英・黑色粒 ④1/2	外面: 口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。 内部: 口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。	7世紀後半
46	土師器 环	口径:(15.0) 器高:[5.5]	①良好 ②橙 / 橙 ③黑色粒・褐色粒・白色粒・石英 ④口縁部・体部 1/4	外面: 口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。 内部: 口縁部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	7世紀後半
番号	器種	法量 (cm/g)	成・整形技法の特徴	備考	
47	石製品 臼玉	径:1.6、孔径:0.3、厚さ:0.8、重さ:3.6	滑石製。ほぼ完形。		

## 12号竪穴建物跡

番号	器種	法量 (cm)	①焼成色調(外/内)③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
48	土師器 环	器高:[2.9]	①良好 ②浅黄橙 / 浅黄橙 ③黑色粒・白色粒・石英 ④ほぼ完形	外面: 口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。 内部: 口縁部～体部ヨコナデ後、底部～口縁部ヘラナデ。	7世紀
49	土師器 甕	口径:(17.6) 底径:(8.0) 器高:[28.3]	①普通 ②に赤い粒 / に赤い粒 ③黑色粒・褐色粒・白色粒・石英・角閃石 ④口縁部 1/8	外面: 口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラケズリ。 内部: 口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラナデ。	外面に黒斑 6世紀後半～7世紀

## 1号溝跡

番号	器種	法量 (cm)	①焼成②色調 (外 / 内) ③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
50	土師器 环	器高 [2.9]	①良好 ②にぶい 植 / 石英 ③白色粒・黒色粒・石英 ④体部破片	外面：体部ヘラナデ。底部ヘラケズリ。 内面：ヘラナデ後、体部斜方向の縦文状のヘラミガキ。	8世紀
51	黑色土器 环	器高 [5.0]	①普通 ②にぶい 植 / 黑 ③白色粒・黒色粒・石英 ④体部破片	外面：体部ヘラケズリ。 内面：体部ヘラナデ。黒色處理。	8世紀

## 2号溝跡

番号	器種	法量 (cm)	①焼成②色調 (外 / 内) ③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
52	土師器 环	口径 [0.8] 器高 [3.5]	①良好 ②植 / 稲 ③石英・白色粒・黒色粒・角閃石 ④口縁部～体部1/4、底部完形	外面：口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。 内面：口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	7世紀
53	土師器 环	口径 [1.0] 器高 [3.5]	①良好 ②にぶい 植 / 稲 ③チャート・白色粒・石英 ④口縫四石 [2/3]	外面：口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。 内面：口縁部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	7世紀
54	須恵器 鉢	口径 [22.2] 歪径 [19.5] 器高 [8.0]	①還元焰 ②灰白 / 灰白 ③チャート・白色粒・黒色粒 ④口縁部～底部1/4	外面：機械整形。底部手持ちヘラケズリ。 内面：機械整形。	7世紀後半
55	須恵器 鉢	口径 [11.5] 歪径 [7.6] 器高 [7.6]	①還元焰 ②灰白 / 灰白 ③白色粒・黒色粒 ④口縁部～底部1/3	外面：機械整形。底部平行タタキ。 内面：機械整形。底部同心円の当て具痕。	7世紀後半
56	須恵器 高盤	口径 [7.9] 器高 [7.9]	①還元焰 ②灰 / 灰 ③白色粒・石英 ④体部～台部ほぼ完形	外面：機械整形。体部平行タタキ。 内面：機械整形。体部当て具痕後、ナデ。台部貼付後、ナデ。	7世紀後半
57	須恵器 环	口径 [12.0] 歪径 [8.6] 器高 [4.8]	①還元焰 ②灰白 / 灰白 ③白色粒・黒色粒・石英 ④ほぼ完形	外面：機械整形。底部手持ちヘラケズリ。 内面：機械整形。	7世紀後半
58	土師器 环	口径 [11.5] 器高 [3.3]	①良好 ②にぶい 植 / 稲 ③白色粒・黒色粒・石英 ④1/3	外面：口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。 内面：口縁部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	7世紀
59	土師器 环	口径 [10.8] 器高 [3.4]	①良好 ②にぶい 植 / 稲 ③白色粒・黒色粒・石英 ④2/3	外面：口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。 内面：口縁部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	7世紀
番号	器種	法量 (m・g)	成・整形技法の特徴	備考	
60	貝冠穴瓶 軟質泥岩	長さ [3.65]、幅 [2.35]、厚さ [2.6]、重さ [12.1]	穿孔貝の巣穴の穿孔痕という生殖化石がみられる軟質泥岩。表面は熱加工によって赤化。		

## 3号溝跡

番号	器種	法量 (cm)	①焼成②色調 (外 / 内) ③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
61	土師質土器 环	底径 [6.0] 歪径 [6.0] 器高 [13.1]	①普通 ②浅黄植 / 浅黄植 ③黑色粒・白色粒・石英 ④4/5部完形	外面：機械整形。底部静止系切り。 内面：機械整形。	10世紀後半～ 11世紀
62	黑色土器 环	器高 [5.6]	①普通 ②にぶい 植 / 黑 ③白色粒・褐色粒・黒色粒・石英・角閃石 ④1/3部底～体部破片	外面：機械整形。 内面：機械整形後、ヘラミガキ。黒色處理。	10世紀

## 5号溝跡

番号	器種	法量 (cm)	①焼成②色調 (外 / 内) ③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
63	土師質土器 塊	底径 [7.0] 器高 [3.5]	①普通 ②浅黄植 / 浅黄植 ③黑色粒・褐色粒・石英 ④体部～底部ほぼ完形	外面：機械整形。底部回転系切り、高台貼付後、周縁ナデ。	10世紀後半～ 11世紀
64	土師質土器 塊	底径 [6.0] 器高 [2.2]	①普通 ②灰白 / 灰白 ③黑色粒・褐色粒・石英・角閃石 ④4/2部底～底部1/4	外面：機械整形。底部高台貼付後、周縁ナデ。	10世紀後半
65	土師質土器 环	底径 [4.7] 器高 [1.5]	①普通 ②にぶい 植 / にぶい 植 ③白色粒・黒色粒・石英・角閃石 ④底部1/2	外面：機械整形。底部右回転糸切り。	10世紀後半
番号	器種	法量 (cm・g)	成・整形技法の特徴	備考	
66	須恵器 円面鏡	長さ [6.5]、幅 [7.5]、厚さ [1.3]、重さ [27.5] ①還元焰 ②灰 / 灰 ③白色粒・石英 ④破片 無脚円面鏡。平滑に磨られた裏面の外縁に浅い海部がみられる。			

## 6号溝跡

番号	器種	法量 (cm)	①焼成②色調 (外 / 内) ③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
67	土師質土器 塊	底径 [7.2] 器高 [13.3]	①普通 ②浅黄植 / 浅黄植 ③白色粒・石英・角閃石 ④4部底～底部1/4	外面：機械整形。高台貼付後、周縁ナデ。	10世紀後半

## 1号落ち込み

番号	器種	法量 (cm)	①焼成②色調 (外 / 内) ③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
68	土師質土器 环	口径 [10.6] 歪径 [4.8] 器高 [2.7]	①普通 ②浅黄植 / 浅黄植 ③黑色粒・石英・角閃石 ④5部完形	外面：機械整形。底部右回転糸切り。 内面：機械整形。	口部部に覆(油煙)付着、燈明皿、10世紀後半
69	土師質土器 高环	器高 [8.6]	①普通 ②浅黄植 / 浅黄植 ③白色粒・黒色粒・石英・角閃石 ④脚柱部ほぼ完形	外面：本製品を模倣した器種で、粘土部を丸めて成形した脚柱部に5面の面取りをもつ。 内面：脚柱部下位ヘラケズリ。周縁ヨコナデ。	10世紀
70	土師質土器 塊	底径 [8.8] 器高 [3.6]	①普通 ②灰白 / 灰白 ③黑色粒・褐色粒・白色粒・石英・角閃石 ④底部は完形	外面：機械整形。底部高台貼付後、ナデ。	10世紀後半
71	土師質土器 环	口径 [9.9] 歪径 [4.8] 器高 [2.9]	①普通 ②浅黄植 / 浅黄植 ③黑色粒・褐色粒・石英 ④1/2	外面：機械整形。底部右回転糸切り。	口部部に覆(油煙)付着、燈明皿、10世紀後半
72	灰釉陶器 皿	口径 [12.3] 歪径 [6.0] 器高 [2.4]	①還元焰 ②素地: 灰白 / 軸: 灰白 ③緻密、白色粒	外面：機械整形。底部回転糸切り、高台貼付後、回転ナデ。	釉浸し掛け 10世紀後半
73	土釜	底部 [7.6] 器高 [2.3]	①普通 ②にぶい 植 / にぶい 植 ③チャート・角閃石・石英・白色粒 ④底部完形	外面：ヘラナデ。底部ヘラナデ。	10世紀後半～ 11世紀

74	黑色土器 塊	口径:10.3 底径:5.0 器高:2.9	①普通 ②浅黄釉・墨 ③角閃石・石英・白色粒・黑色粒 ④底部はぼ完形、高台欠損	外面:縦縫整形。底部、高台貼付後、ナデ。 内面:縦縫整形後、ヘラミガキ・黒色処理。	10世紀後半～11世紀
75	土師質上器 环	口径:9.6 底径:4.8 器高:2.8	①普通 ②橙・白 ③白色粒・黑色粒・石英 ④口縫部破片	外面:縦縫整形。底部右回転糸切り。 内面:縦縫整形。	10世紀後半
76	土師器皿	器高:11.1	①良好 ②橙・白 ③黑色粒・白色粒・石英 ④口縫部破片	外面:口縫部～体部ヨコナデ。 内面:口縫部ヨコナデ。体部ヘラナデ。	ての字状口縫皿 10世紀後半～11世紀 <sup>2</sup>
77	土師質上器 高环	器高:6.9	①普通 ②浅黄釉・浅黄釉 ③白色粒・黑色粒・石英 ④脚柱部はぼ完形	外面:木製品を模倣した器種で、粘土帯を丸めて成形した脚柱部に面取り的な縦方向ヘラケズリ。 内面:脚柱部下位ヘラケズリ。	10世紀
78	土師質上器 塊	口径:14.0 底径:8.1 器高:6.7	①普通 ②橙・白 ③黑色粒・白色粒・石英・角閃石 ④3/4	外面:縦縫整形。底部高台貼付後、回転ナデ。 内面:縦縫整形。	10世紀後半～11世紀
79	黑色土器 块	底径:6.5 器高:11.8	①良好 ②橙・黑 ③白色粒・褐色粒・黑色粒・石英 ④底部はぼ完形	外面:縦縫整形。底部右回転糸切り、高台貼付後、周縁ナデ。 内面:縦縫整形後、ヘラミガキ・黒色処理。	10世紀後半～11世紀
80	土師質上器 环	口径:9.6 底径:5.7 器高:2.8	①普通 ②灰白・灰白 ③黑色粒・白色粒・褐色粒・石英 ④完形	外面:縦縫整形。底部静止糸切り。 内面:縦縫整形。	口唇部に煤(油煙)付着、照明皿、10世紀後半
81	土師質上器 环	口径:9.9 底径:5.5 器高:2.6	①普通 ②橙・白 ③白色粒・黑色粒・石英 ④はぼ完形	外面:縦縫整形。底部右回転糸切り。 内面:縦縫整形。	口唇部に煤(油煙)付着、照明皿、10世紀後半
82	土師器皿	器高:2.0	①良好 ②橙・白 ③黑色粒・チャート・石英 ④口縫部破片	外面:口縫部ヨコナデ。体部ヘラナデ。 内面:口縫部ヨコナデ。体部ヘラナデ。	ての字状口縫皿 10世紀後半～11世紀

## 2号土坑

番号	器種	法量(cm)	①焼成色調(外/内)③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
83	土師質上器 环	口径:8.5 底径:5.4 器高:2.6	①普通 ②にぶい橙・にぶい白 ③黑色粒・白色粒・石英 ④口縫部～体部1/3、底部はぼ完形	外面:縦縫整形。底部右回転糸切り。 内面:縦縫整形。	10世紀後半～11世紀

## 7号土坑

番号	器種	法量(cm)	①焼成色調(外/内)③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
84	土師質上器 塊	口径:(12.4) 底径:(6.5) 器高:5.4	①普通 ②灰白・淡黄 ③黑色粒・白色粒・石英 ④口縫部～体部1/4、底部2/3	外面:縦縫整形。底部貼付後、周縁ナデ。 内面:縦縫整形。	10世紀後半～11世紀
85	土師質上器 塊	器高:2.6	①普通 ②灰白・白 ③黑色粒・石英・角閃石 ④底部完形、高台欠損	外面:縦縫整形。底部高台貼付後、回転ナデ。 内面:縦縫整形。	10世紀後半～11世紀
86	土師質上器 塊	器高:1.9	①普通 ②橙・白 ③黑色粒・白色粒・石英・角閃石 ④底部完形、高台欠損	外面:縦縫整形。底部高台貼付後、回転ナデ。 内面:縦縫整形。	10世紀後半～11世紀

## 59号ピット

番号	器種	法量(cm)	①焼成色調(外/内)③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
87	縦輪陶器 塊	底径:(8.0) 器高:2.3	①還元焰 ②素地:灰オリーブ／輪:暗オリーブ ③緻密 ④底部1/3	外面:縦縫整形。 内面:縦縫整形。	見込み・底面に重ね焼き痕跡の三叉トチ痕 10世紀

## グリッド

番号	器種	法量(cm)	①焼成色調(外/内)③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
88	縦輪陶器 塊	器高:1.5	①還元焰 ②素地:灰オリーブ／輪:暗オリーブ ③緻密 ④体部破片	外面:縦縫整形。 内面:縦縫整形。	10世紀

## 表探

番号	器種	法量(cm)	①焼成色調(外/内)③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
89	灰釉陶器 塊	底径:6.6 器高:1.3	①還元焰 ②素地:灰白 ③緻密 ④底部はぼ完形	外面:縦縫整形。底部左回転糸切り、高台貼付後、周縁ナデ。 内面:縦縫整形。	武面に墨書き「任」 10世紀後半



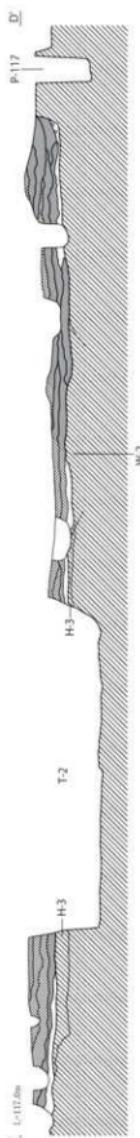
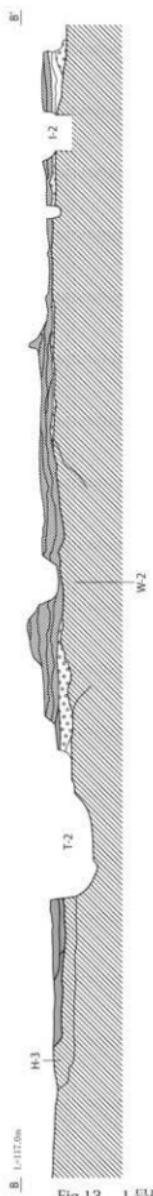
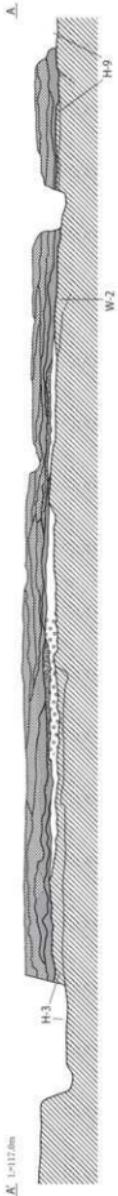


Fig.13 1号礎石建物跡（2）

※上層注記の凡例は Fig.14 に記載

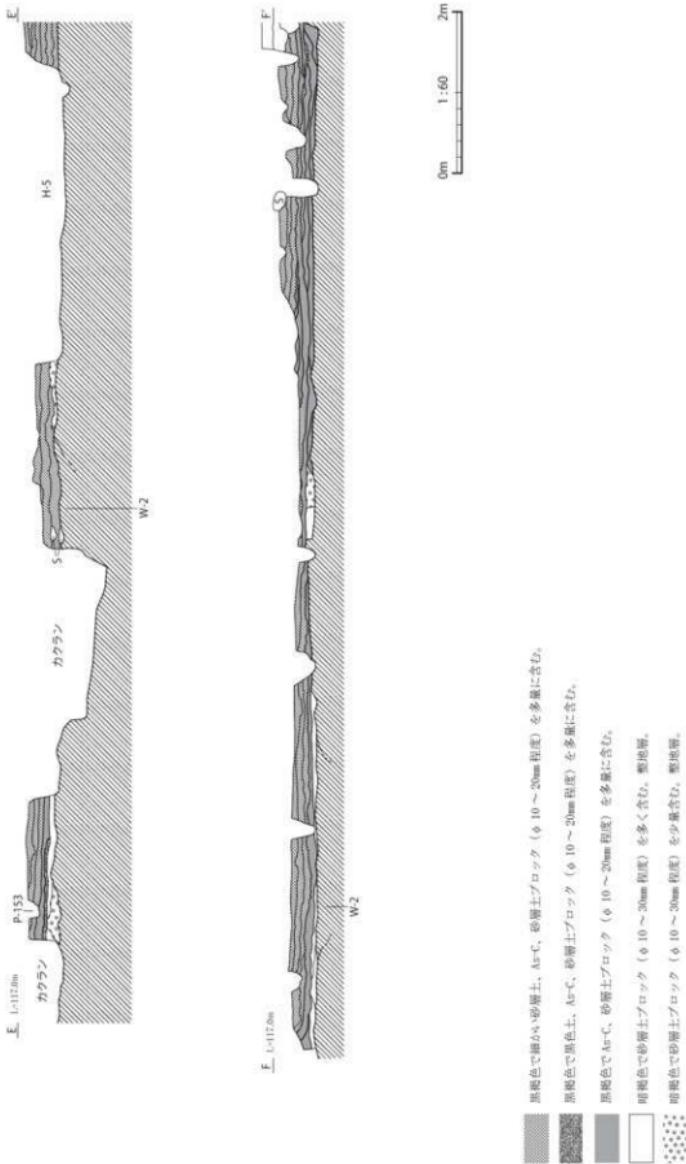


Fig.14 1号基礎建物跡（3）

1号掘立柱建物跡 P<sub>1</sub> 層序説明 (A-A')

- 1 黒褐 As-C 少量含む。砂層土ブロック ( $\phi$  10mm 程度) 極少量。
- 2 にぶい黄褐色 As-C 少量。砂層土ブロック ( $\phi$  10 ~ 30mm 程度) 多量。
- 3 黒褐色 As-C 少量。
- 4 黒褐色 細粒。

1号掘立柱建物跡 P<sub>1</sub> 層序説明 (C-C')

- 1 黒褐色 As-C 極少量。砂層土ブロック ( $\phi$  10mm 程度) 極少量。
- 2 黒褐色 As-C 極少量。砂層土ブロック ( $\phi$  10mm 程度) 極少量。
- 3 黒褐色 As-C 極少量。砂層土ブロック ( $\phi$  10mm 程度) 極少量。
- 4 黒褐色 砂層土多量。砂層土ブロック ( $\phi$  10 ~ 30mm 程度) 少量。
- 5 黒褐色 砂層土多量。砂層土ブロック ( $\phi$  10mm 程度) 少量。

1号掘立柱建物跡 P<sub>1</sub> 層序説明 (D-D')

- 1 黒褐色 As-C 少量。灰褐色強め。砂層土ブロック ( $\phi$  10mm 程度) 極少量。
- 2 黒褐色 As-C 少量。暗褐色強め。砂層土ブロック ( $\phi$  20mm 程度) 極少量。
- 3 黒褐色 砂層土ブロック ( $\phi$  10mm 程度) 極少量。
- 4 にぶい黄褐色 繊り・粘性なし。
- 5 硬化層。

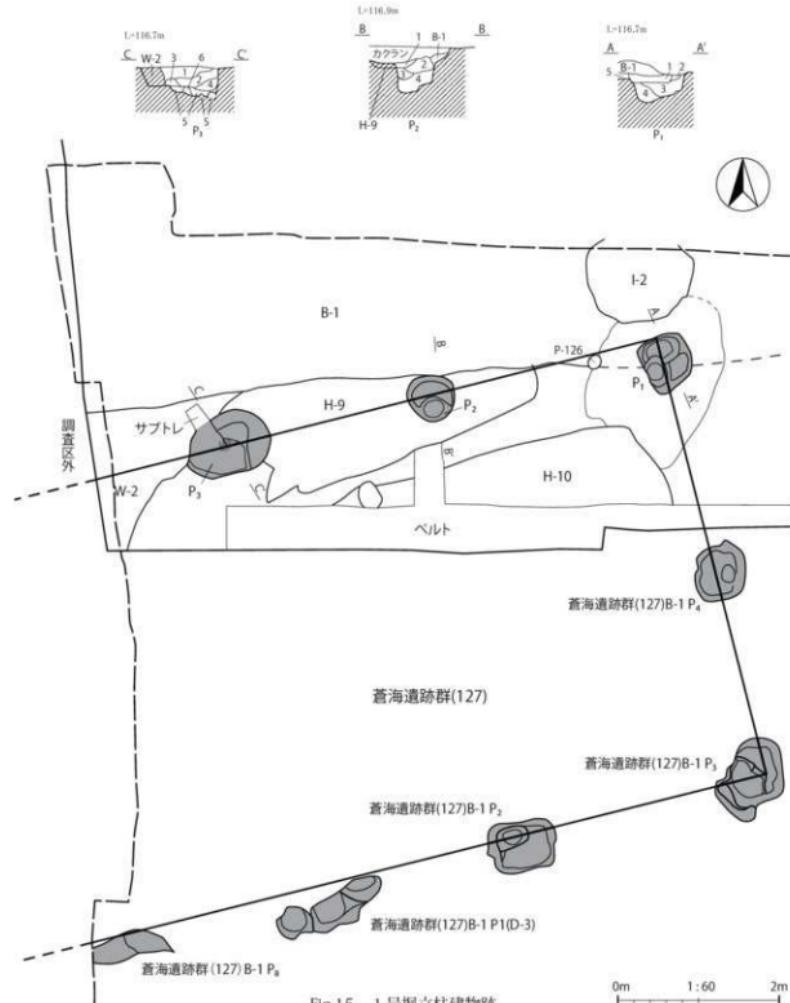
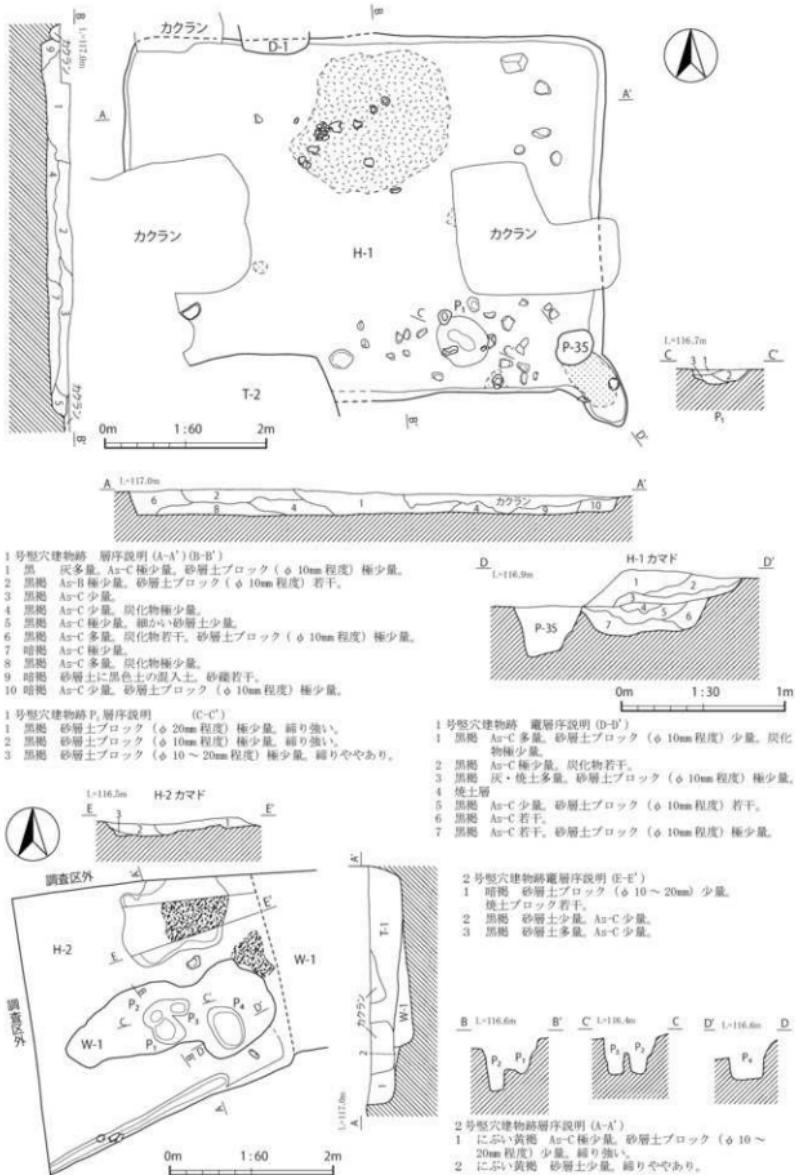


Fig. 15 1号掘立柱建物跡



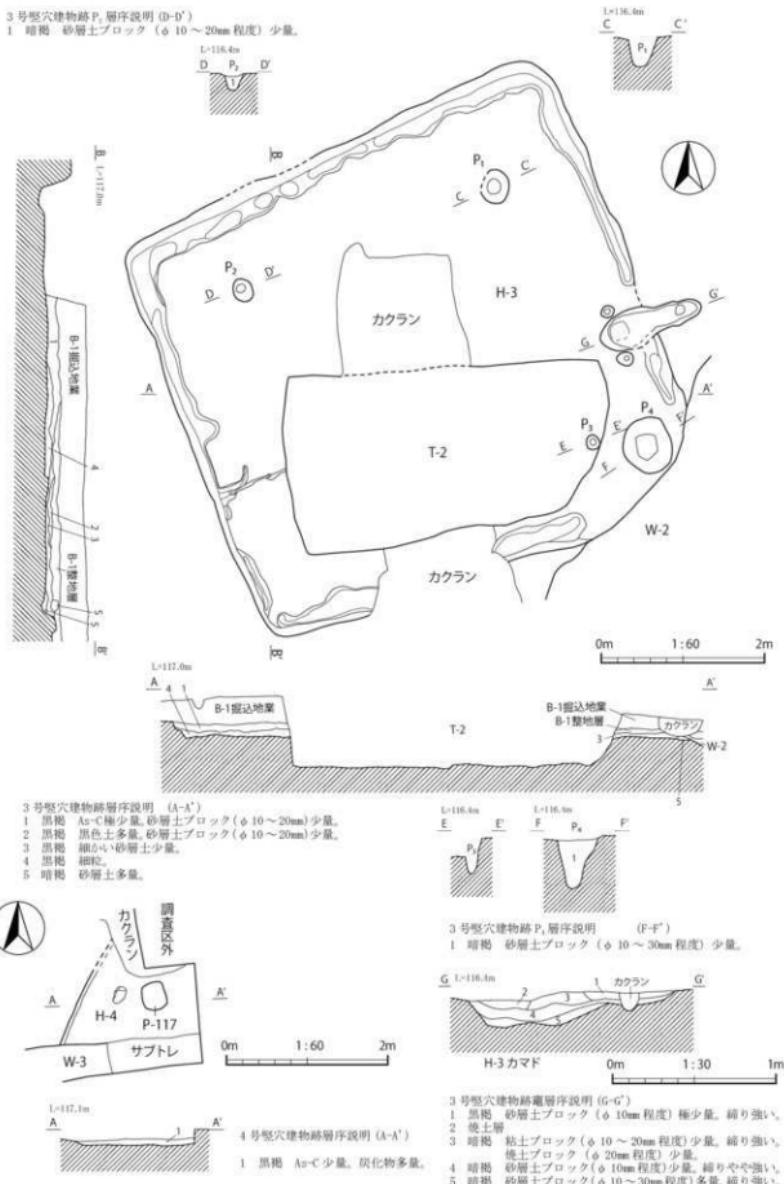


Fig.17 3・4号縦穴建物跡

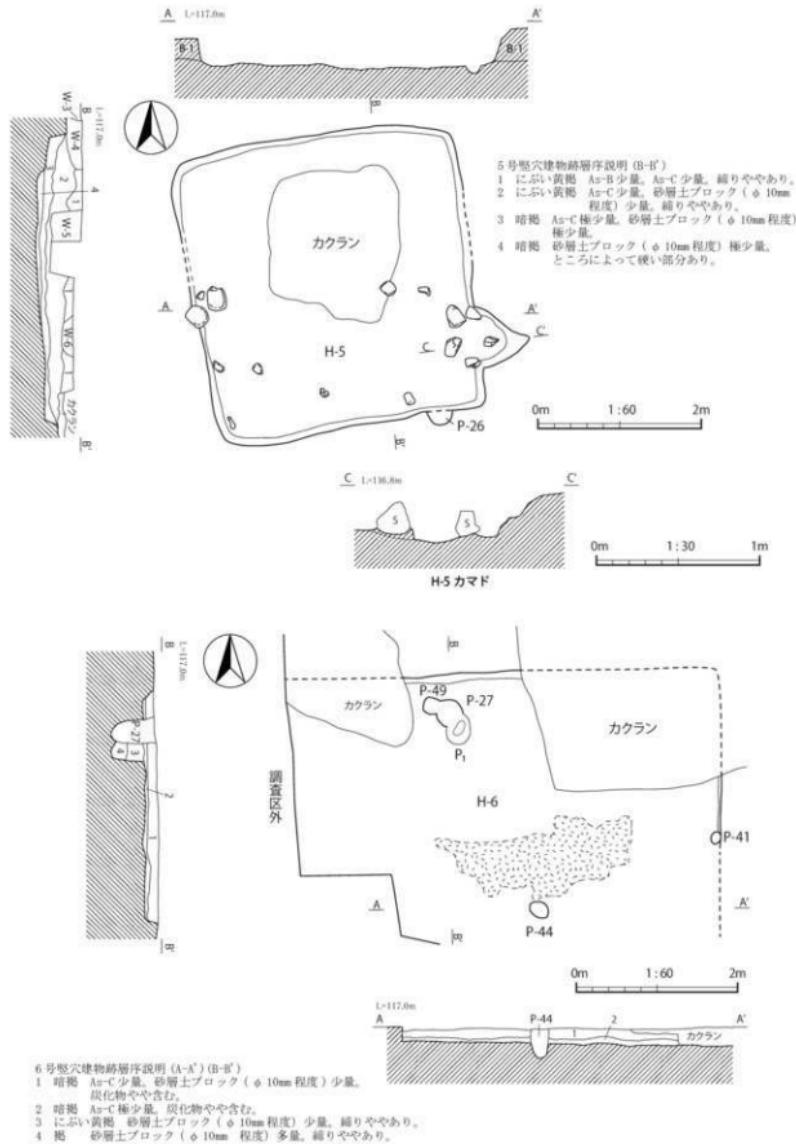
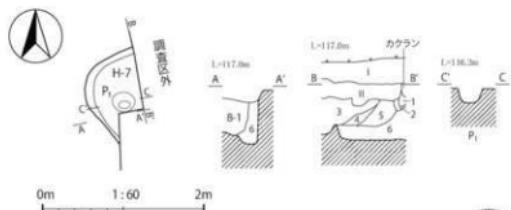


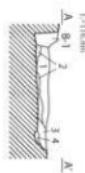
Fig.18 5・6号竪穴建物跡



- 7号堅穴建物跡層序説明 (A-A') (B-B')
- 1 喷泥 As-C 極少量。
  - 2 喷泥 As-C 少量。繰り強い。
  - 3 喷泥 As-C 極少量。炭化物極少量。砂層土ブロック ( $\phi$  10mm程度) 極少量。繰りやや強い。
  - 4 黒泥 As-B 極少量。
  - 5 黒泥 As-C 少量。砂層土ブロック ( $\phi$  10mm程度) 極少量。
  - 6 黒泥 As-C 多量。砂層土ブロック ( $\phi$  10 ~ 20mm程度) 少量。炭化物少量。As-C 多量。

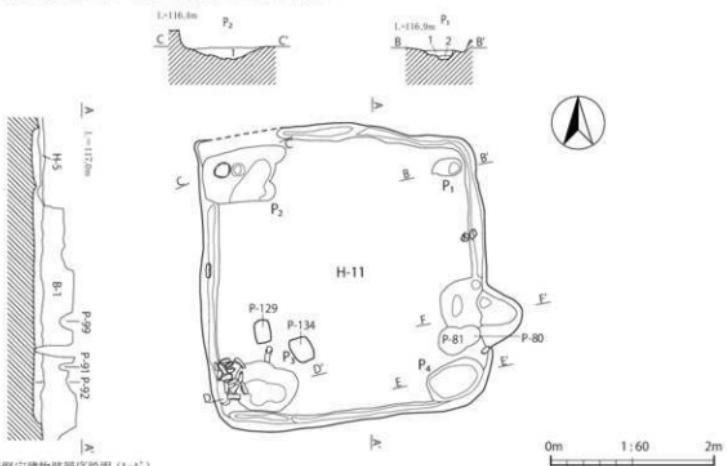


- 9号堅穴建物跡層序説明 (A-A')
- 1 黒泥 As-C 極量。
  - 2 黒泥 As-C 少量。
  - 3 黒泥 細かい砂層土少量。
  - 4 喷泥 細かい砂層土多量。



11号竪穴建物跡 P<sub>1</sub> 層序説 (C-C')

- 1 黒泥 As-C 極少量。
- 2 黒泥 砂層土ブロック ( $\phi$  10mm程度) 少量。繰りややあります。



11号竪穴建物跡層序説 (A-A')

- 1 黒泥 As-C 極少量。砂層土ブロック ( $\phi$  10mm程度) 少量。

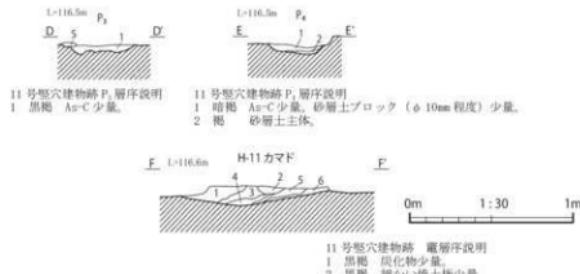


Fig.20 11・12号竪穴建物跡

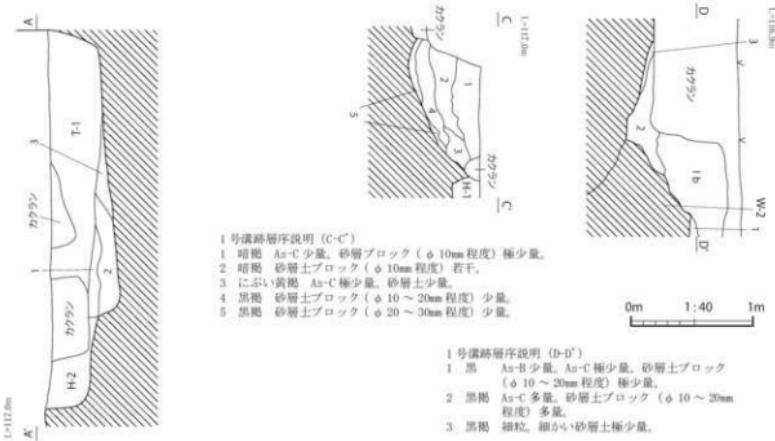
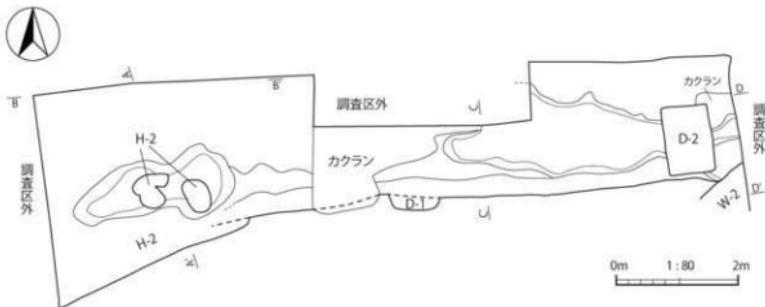
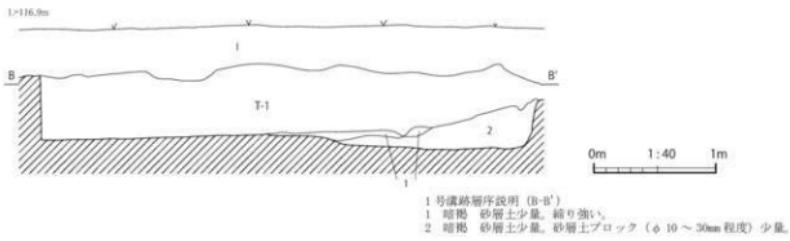


Fig.21 1号溝跡

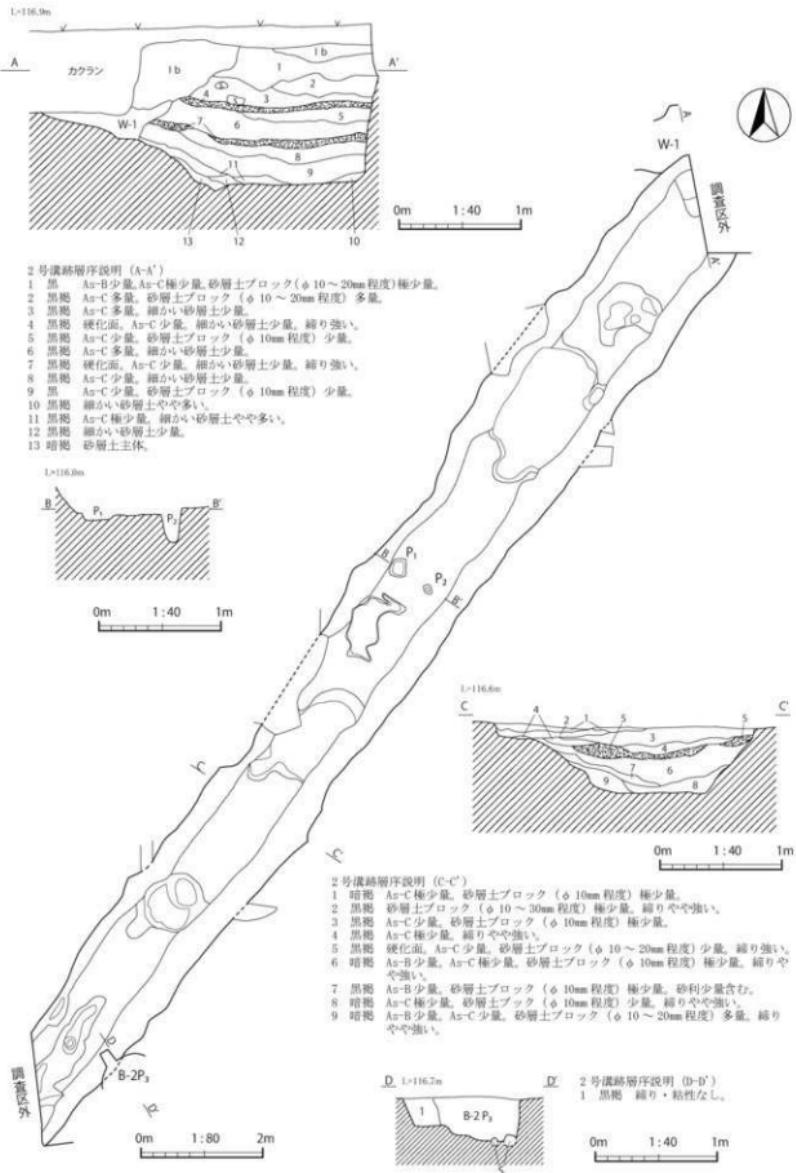
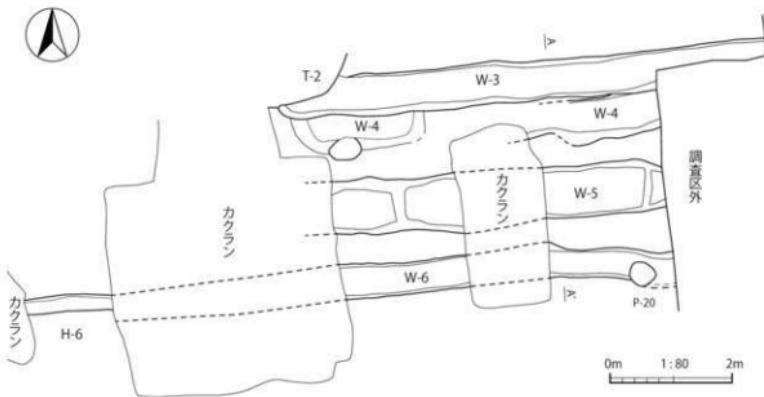
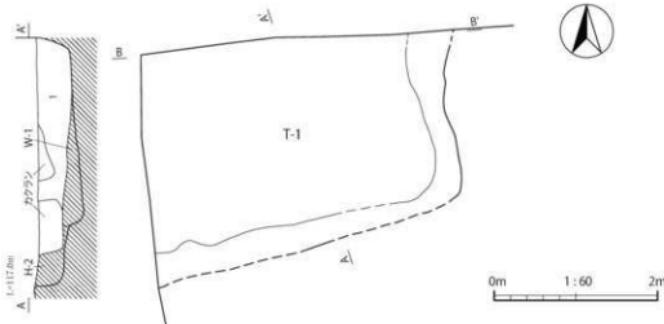
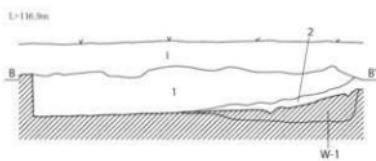
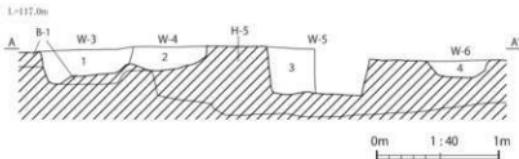


Fig.22 2号溝跡



3・4・5・6号溝跡層序説明 (A-A')  
 1 黒褐色 As-B 多量。As-C 少量。  
 2 黒褐色 As-B 多量。As-C 少量。  
 3 黒褐色 As-B 多量。As-C 極少量。  
 4 灰黃褐色 As-B 多量。As-C 極少量。



1号窓穴状遺構層序説明 (A-A') (B-B')  
 1 黒褐色 As-B 少量。As-C 少量。砂層上ブロック (φ 10mm 程度) 極少量。  
 2 黒褐色 As-B 少量。

Fig.23 3・4・5・6号溝跡、1号窓穴状遺構

2号堅穴状遺構P<sub>1</sub>層序説明 (C-C')

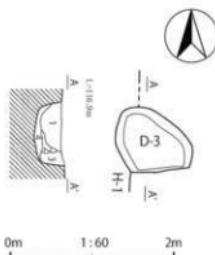
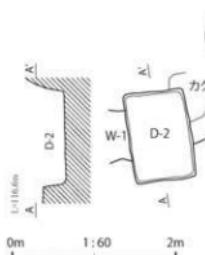
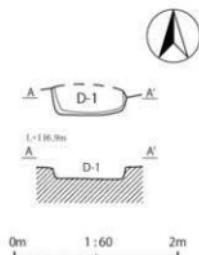
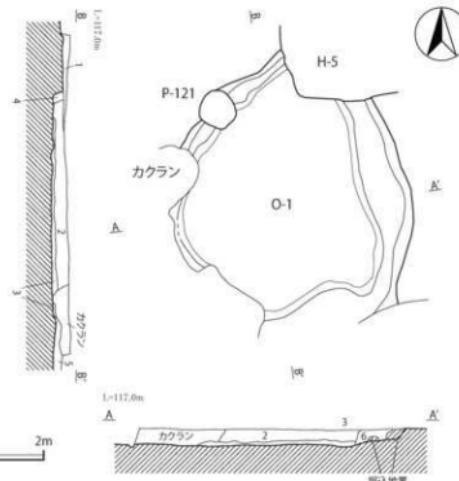
1 岩 砂層土主体。砂層土ブロック ( $\phi$  10 ~ 20mm程度) 多量。

2号堅穴状遺構 P<sub>2</sub>・P<sub>3</sub>層序説明 (D-D')

1 岩 砂層土主体。砂層土ブロック ( $\phi$  10mm程度) 少量。

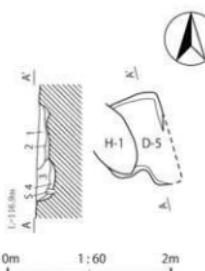
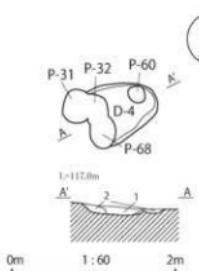
1号落ち込み層序説明

- 1 暗褐色 砂層土ブロック ( $\phi$  10 ~ 20mm程度) 少量。炭化物含む。縦りややあり。
- 2 黒褐色  $A_{5-C}$  極少量。砂層土ブロック ( $\phi$  10mm程度) 極少量。炭化物極少量。
- 3 黒褐色  $A_{5-B}$  極少量。砂層土ブロック ( $\phi$  10mm程度) 少量。縦りややあり。
- 4 黒褐色  $A_{5-B}$  少量。
- 5 黒褐色  $A_{5-B}$  少量。
- 6 暗褐色  $A_{5-C}$  極少量。炭化物少量。



3号土坑層序説明 (A-A')

- 1 黒褐色  $A_{5-C}$  多量。炭化物・砂層土ブロック ( $\phi$  5mm程度) 極少量。
- 2 黒褐色  $A_{5-C}$  極少量。砂層土ブロック ( $\phi$  10mm程度) 若干。
- 3 黒褐色  $A_{5-C}$  極少量。
- 4 黒褐色  $A_{5-C}$  極少量。

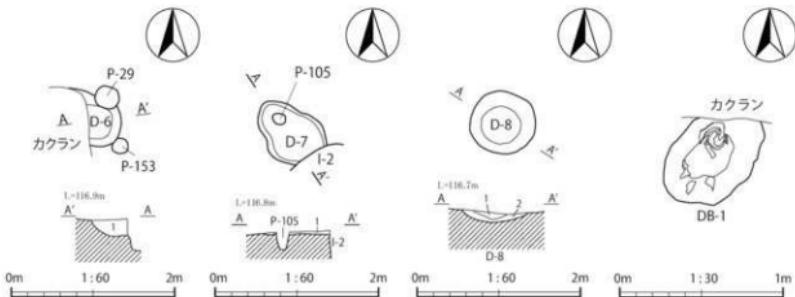


4号土坑層序説明 (A-A')

- 1 暗褐色  $A_{5-C}$  少量。砂層ブロック ( $\phi$  10mm程度) 極少量。縦りややあり。
- 2 暗褐色  $A_{5-C}$  少量。砂層ブロック ( $\phi$  10mm程度) 少量。縦りややあり。

- 3 暗褐色 砂層土ブロック ( $\phi$  10 ~ 20mm程度) 多量。縦り強い。
- 4 黒褐色  $A_{5-C}$  少量。縦りやや強い。

Fig.25 1号落ち込み、1~5号土坑



### 6号土坑層序說明(A-A')

- 黒褐色 Au-C 少量、炭化物少量。砂層土ブロック（φ 10mm 程度）極少量。

### 7. 線上檢閱與說明 ( $A \times A^*$ )

1. 異根 A= C 横少量 砂利土ブロック (4-10 ≈ 20mm 程度) 少量 繋りやすくなり

### 8号土坑層序說明 (A-A')

- ### 1 黑褐 As-B 極少量。

2 黒褐色砂層土ブロック(Φ10mm程度)極少量。

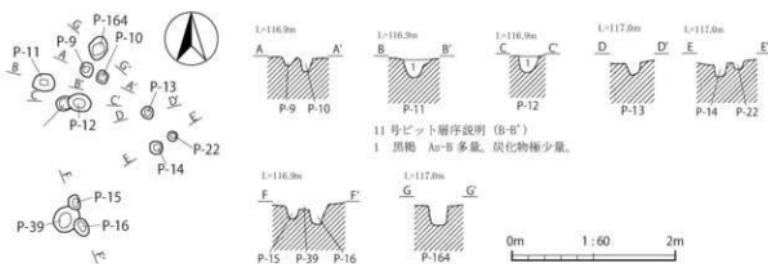
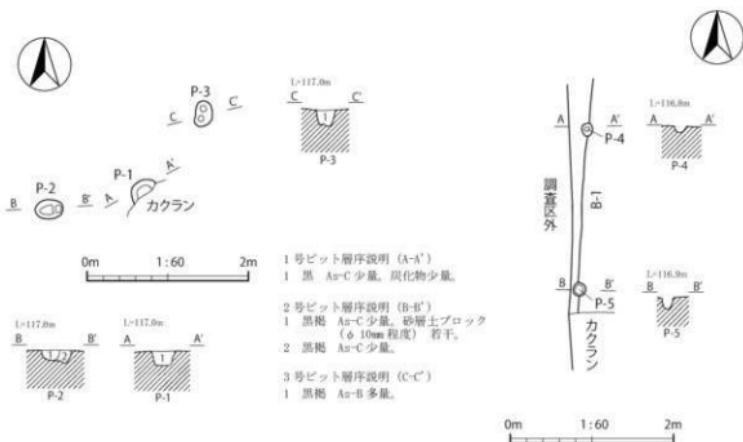


Fig.26 6～8号土坑、1号土壤墓、1～5・9～16・22・39・164号ピット

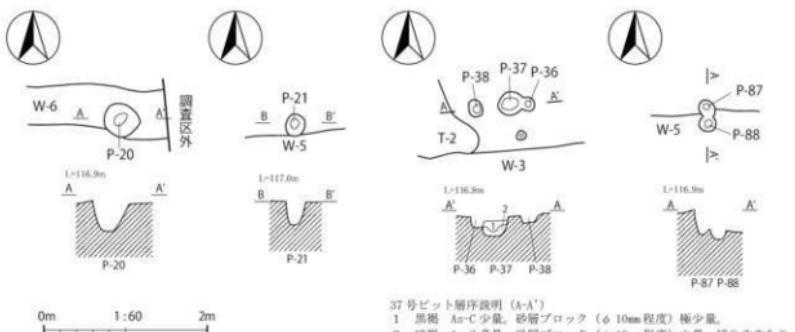
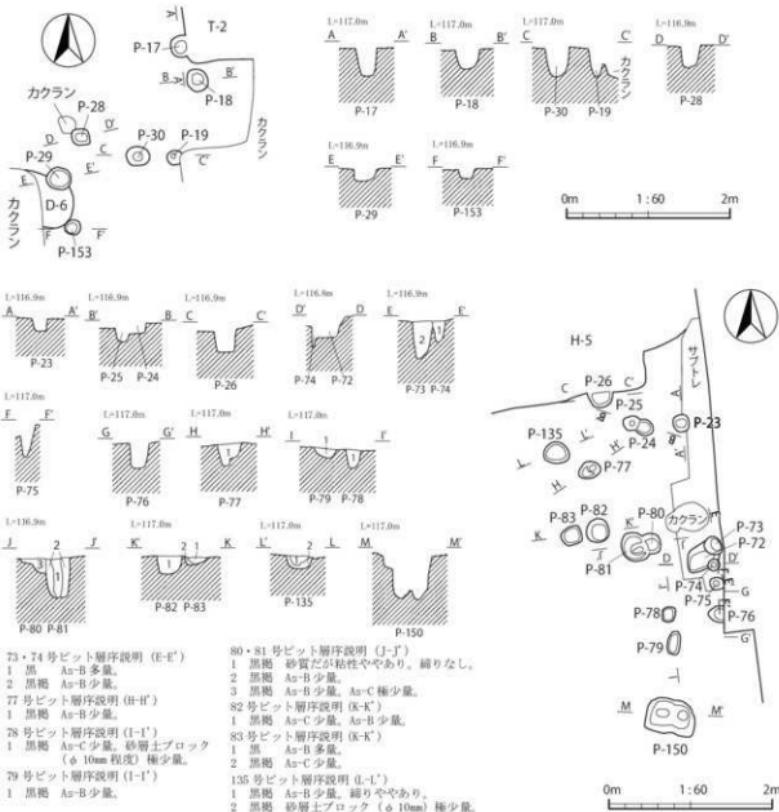


Fig.27 17~21・23~26・28~30・36~38・72~83・87・88・135・150・153号ピット

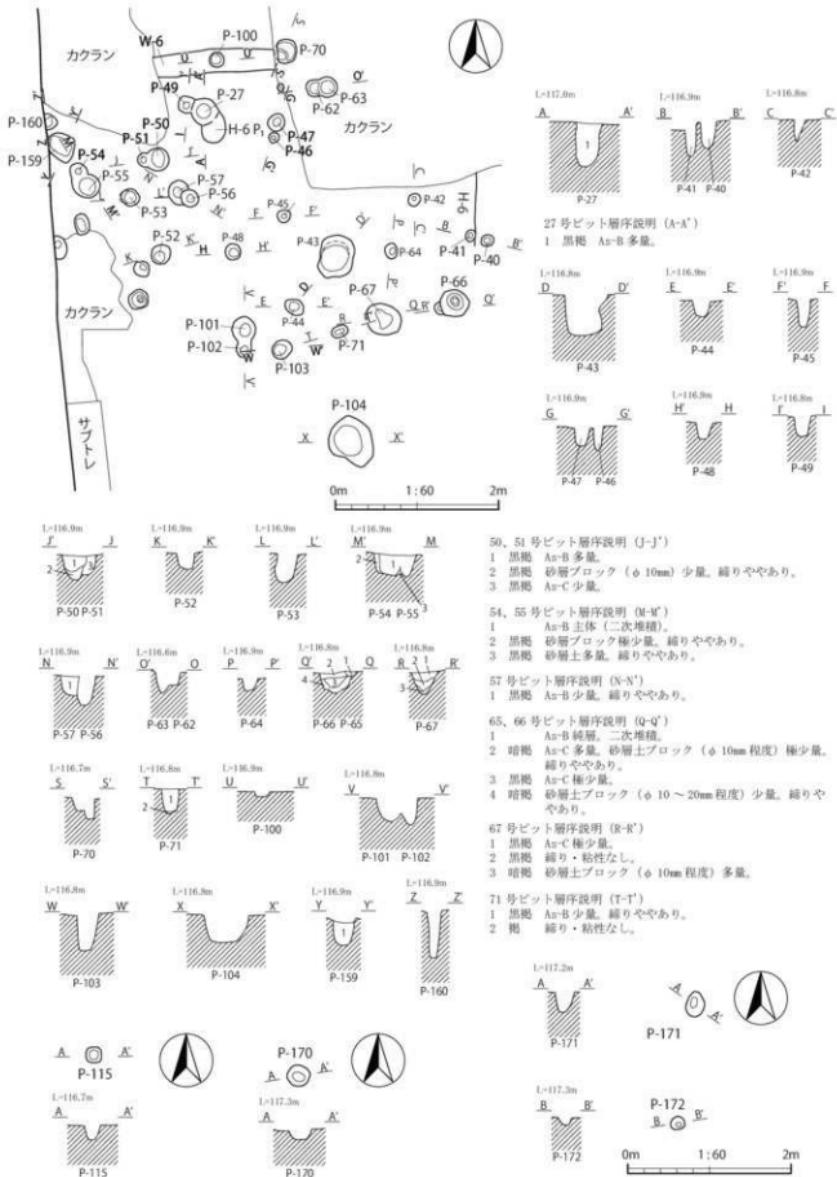
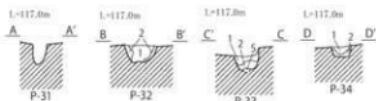
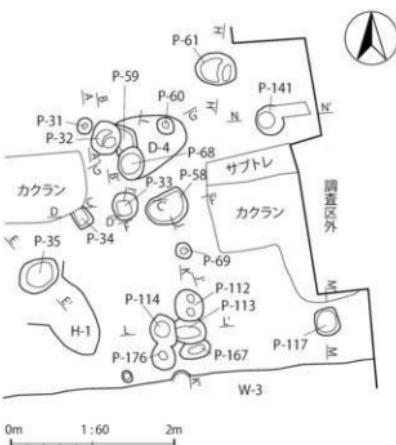
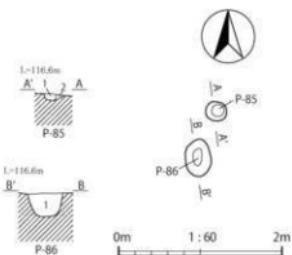


Fig.28 27・40～57・62～67・70・71・100～104・115・159・160・170～172号ビット



#### 32号ピット層序説明 (B-B')

- 1 黒褐色 As-B 多量。As-C 少量。
  - 2 單層 As-C 少量。砂層土ブロック ( $\phi$  10mm程度) 少量。
- 33号ピット層序説明 (C-C')  
1 黒褐色 砂層土ブロック ( $\phi$  10mm程度) 少量。  
2 單層 砂層土ブロック ( $\phi$  10mm程度) 極少量。
- 34号ピット層序説明 (D-D')  
1 黒褐色 砂層土ブロック ( $\phi$  10mm程度) 少量。As-C 少量。  
2 單層 砂層土ブロック ( $\phi$  10mm程度) 少量。As-C 少量。

#### 35号ピット層序説明 (E-E')

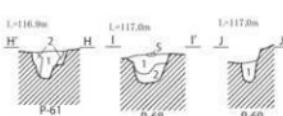
- 1 黒褐色 As-C 少量。砂層土ブロック ( $\phi$  10mm程度) 極少量。
- 2 黒褐色 As-C 極少量。砂層土ブロック ( $\phi$  10mm程度) 若干。

#### 58号ピット層序説明 (F-F')

- 1 黒褐色 砂層土ブロック ( $\phi$  10mm程度) 極少量。
  - 2 單層 砂層土ブロック ( $\phi$  10mm程度) 極少量。
  - 3 次黄褐色 砂層土ブロック ( $\phi$  10mm程度) 極少量。
- 59号ピット、60号ピット層序説明 (G-G')  
1 黒褐色 As-C 少量。砂層土ブロック ( $\phi$  10 ~ 20mm程度) 少量。繰りややあり。  
2 黒褐色 繰り・粘性なし。  
3 單層 As-C 極少量。繰りややあり。(P-59覆土)

#### 61号ピット層序説明 (H-H')

- 1 黒褐色 砂層土ブロック ( $\phi$  10mm程度) 極少量。繰りややあり。As-C 少量。
- 2 黒褐色 砂層土ブロック ( $\phi$  10mm程度) 極少量。繰り強い。



#### 68号ピット層序説明 (I-I')

- 1 黒褐色 As-C 少量。
  - 2 黒褐色 繰り・粘性なし。
- 69号ピット層序説明 (J-J')  
1 單層 繰り・粘性なし。

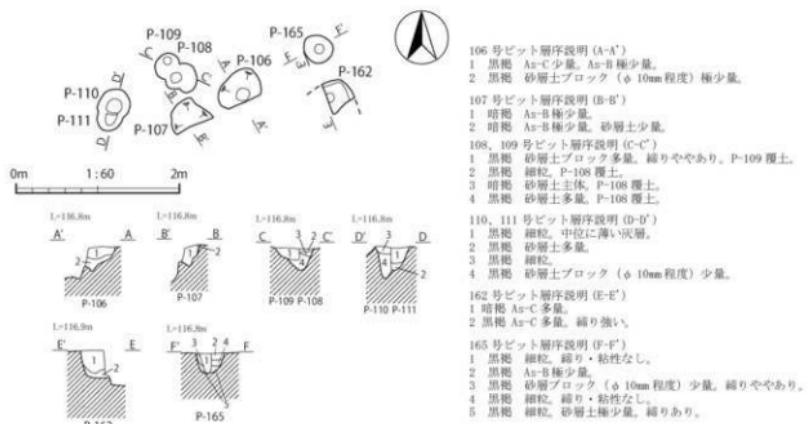
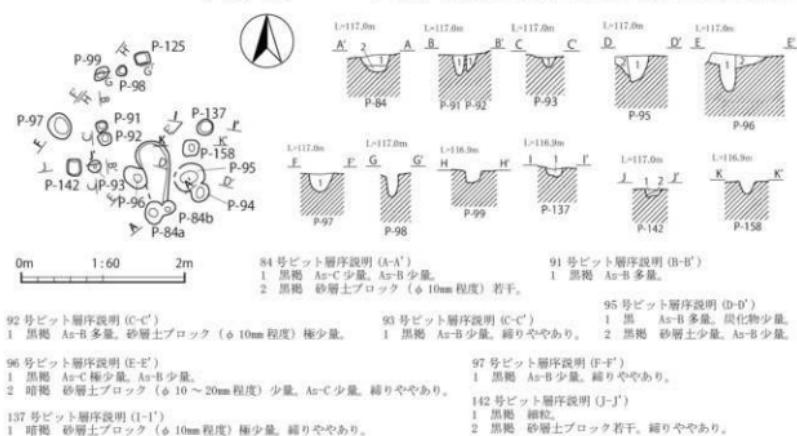
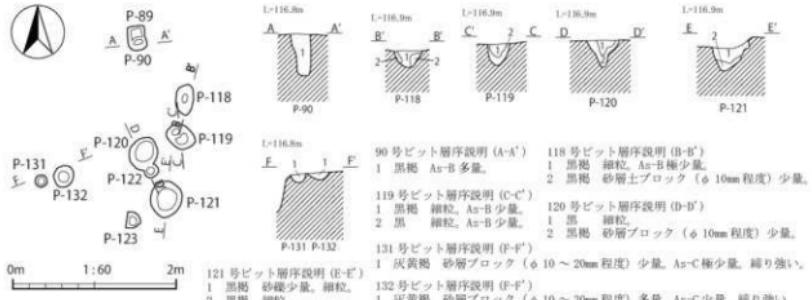
#### 112・113・114・167号ピット層序説明 (K-K') (L-L')

- 1 黑褐色 As-B 多量。
- 2 黑褐色 As-C 少量。砂層土少量。
- 3 黑褐色 As-C 少量。炭化物少量。
- 4 黑褐色 砂層土少量。

#### 117号ピット層序説明 (M-M')

- 1 黒褐色 粘土。砂層土ブロック ( $\phi$  10mm程度) 少量。炭化物極少量。
  - 2 黒褐色 砂層土多量。繰りややあり。
- 141号ピット層序説明 (N-N')  
1 黒褐色 砂層土ブロック ( $\phi$  10mm程度) 極少量。

Fig.29 31 ~ 35・58 ~ 61・68・69・85・86・112 ~ 114・117・141・167号ピット



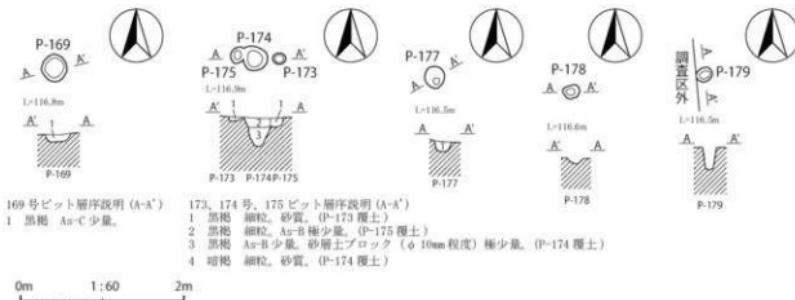
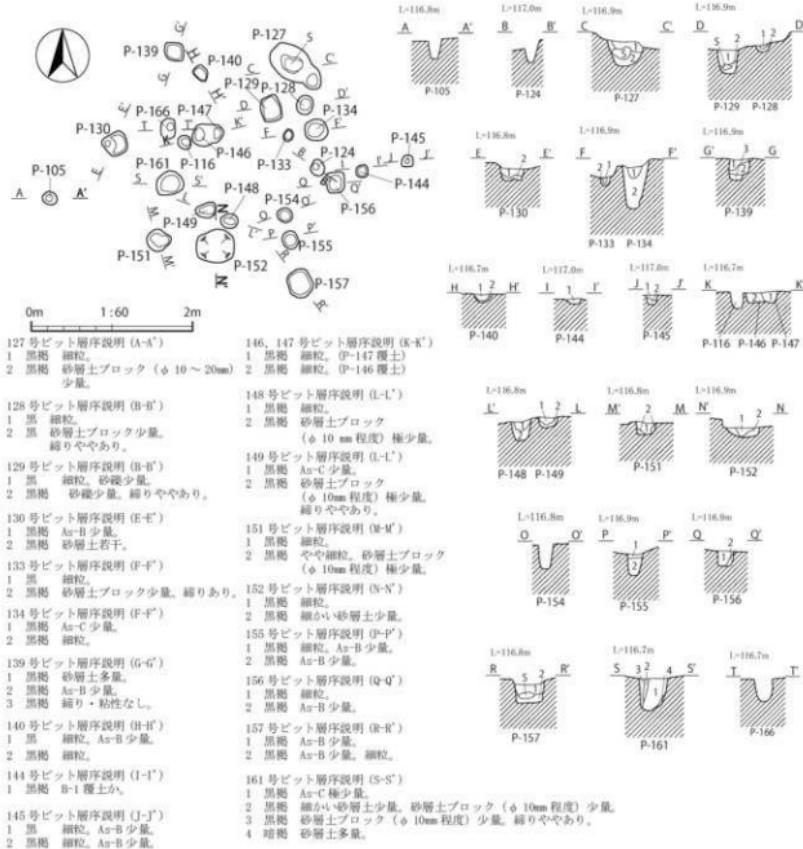
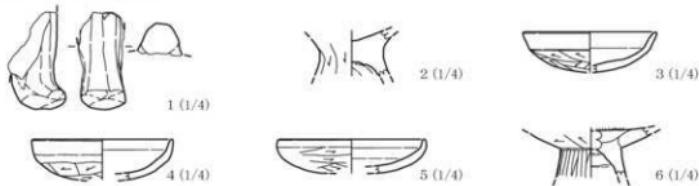
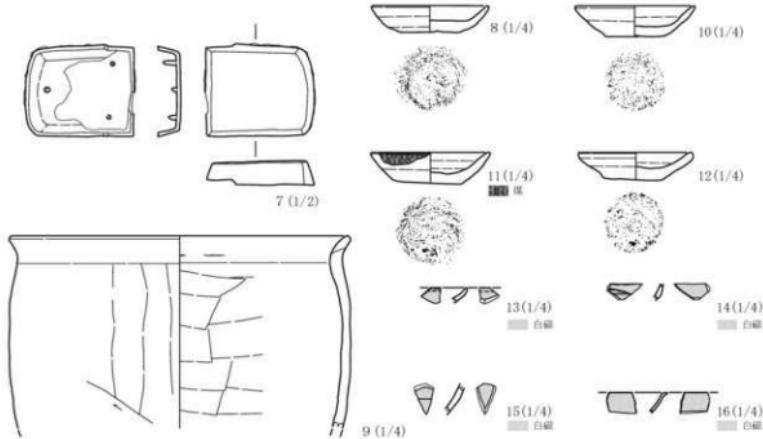


Fig.31 105・116・124・127～130・133・134・139・140・144～149・151・152・154～157・161・166・169・173～175・177～179号ビット

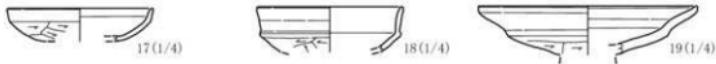
1号礎石建物跡（掘込地業内）



1号竪穴建物跡



2号竪穴建物跡



3号竪穴建物跡

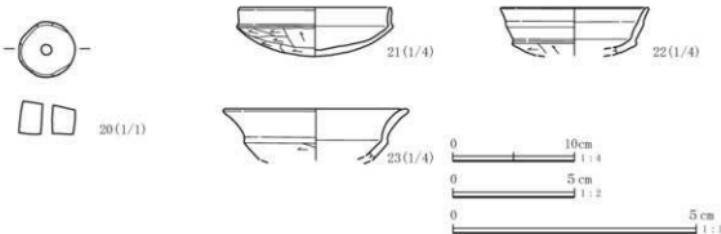
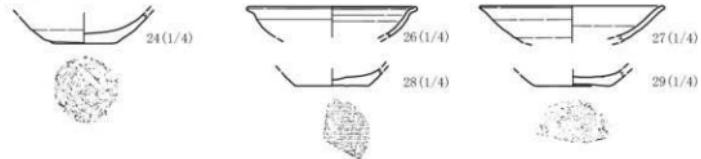
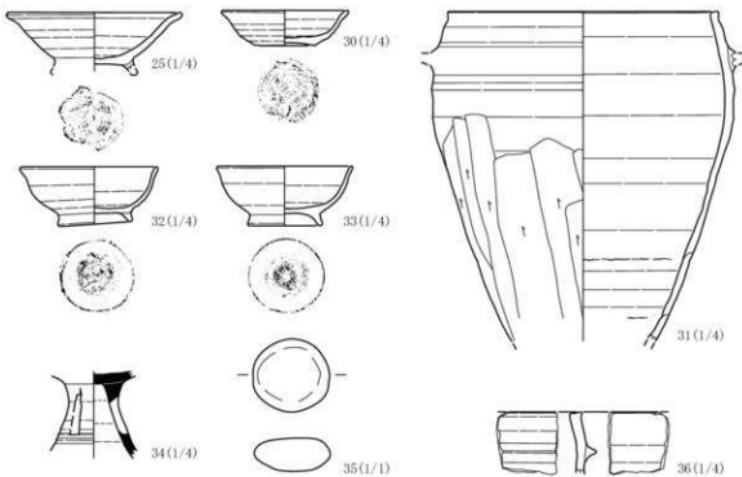


Fig.32 出土遺物（1号礎石建物跡、1～3号竪穴建物跡）

4号竖穴建筑物跡



5号竖穴建筑物跡



6号竖穴建筑物跡

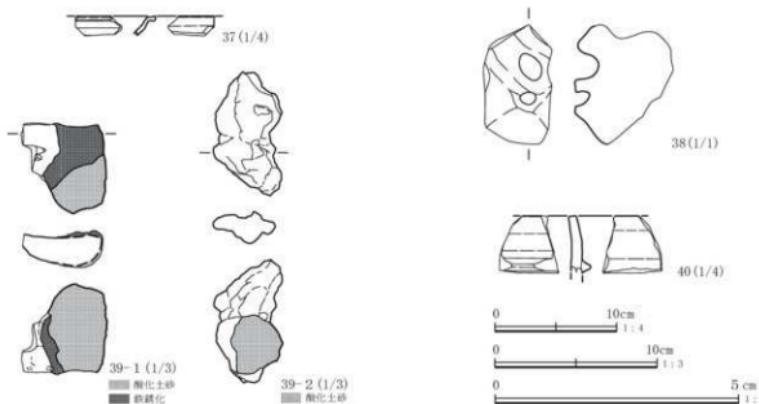
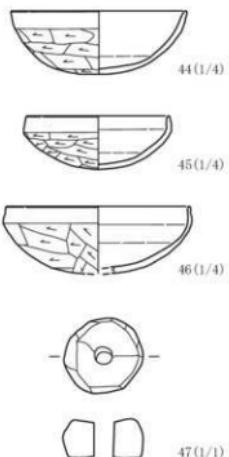


Fig.33 出土遺物 (4 ~ 6号竖穴建物跡)

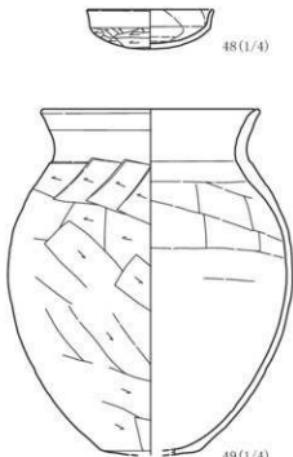
10号竖穴建筑物跡



11号竖穴建筑物跡



12号竖穴建筑物跡



1号溝跡



2号溝跡

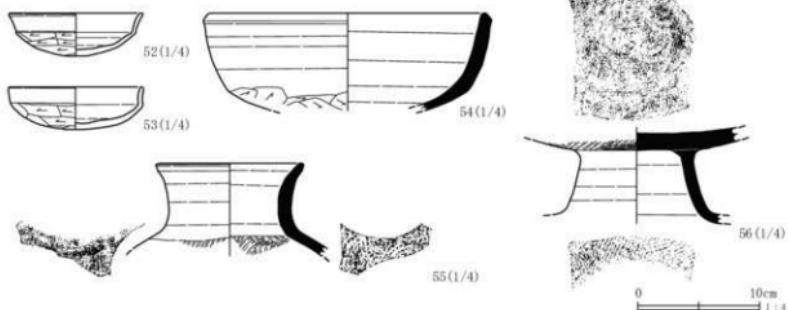
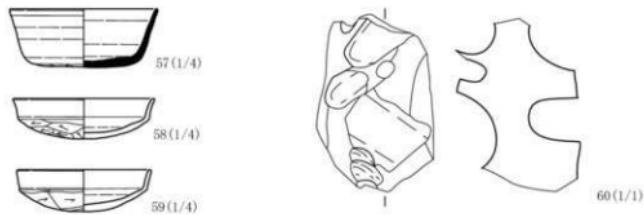
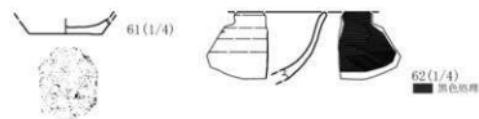


Fig.34 出土遺物 (10・11号竖穴建物跡、1・2号溝跡)

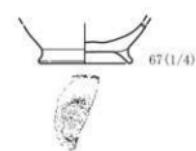
2号溝跡



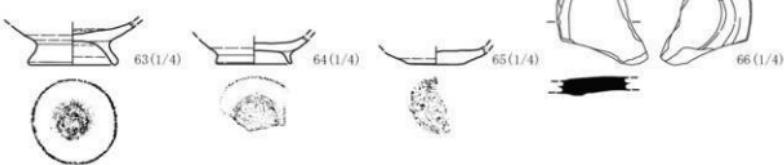
3号溝跡



6号溝跡



5号溝跡



1号落ち込み

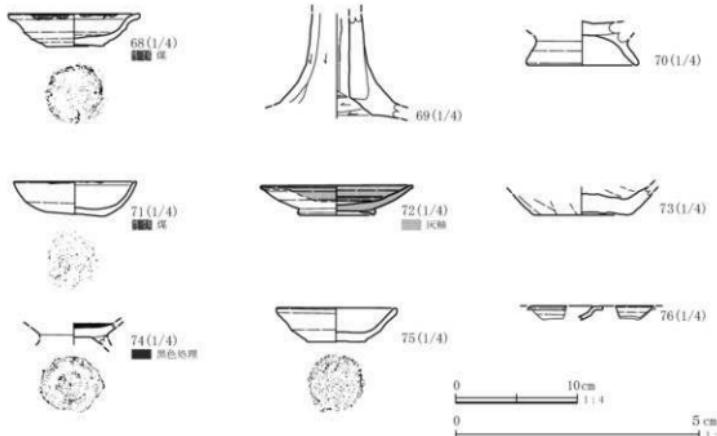
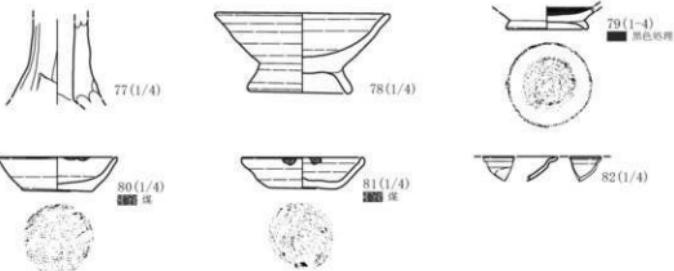


Fig.35 出土遺物（2・3・5・6号溝跡、1号落ち込み）

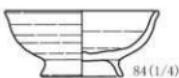
1号落ち込み



2号土坑



7号土坑



59号ピット



表採



0 10cm  
1:4

グリッド



Fig.36 出土遺物（1号落ち込み、2・7号土坑、59号ピット、グリッド、表採）

## VI まとめ

### (1) 検出された遺構について

元総社蒼海遺跡群（133）は、調査区内で1号礎石建物跡の掘込地業のほぼ全体を確認することができた。さらに、その上層、下層にも遺構が認められる濃密な遺構分布状態となっていた。遺構の時期を大きく分けると、6～7世紀代の竪穴建物跡や溝跡、8世紀代の礎石建物跡、掘立柱建物跡及び溝跡、10～11世紀代の竪穴建物跡、中世以降のピットや竪穴状遺構となる。本章では、特筆すべき遺構である礎石建物跡を中心に、検出遺構について総括を述べる。

### (2) 総地業を伴う礎石建物跡について

今回検出した1号礎石建物跡（Fig.11）は掘込地業による総地業が施され、その規模は1辺約13mで、西に2°程傾くもののほぼ正方形を探っている。遺構確認面から約40cmの深さまで掘込地業が確認できたが、礎石や、根石等の据え付け痕、柱穴等は確認できなかった。しかし、隣接する元総社蒼海遺跡群（127）（以下蒼海（○○）と略）で礎石と考えられる大きな石が3号井戸跡へ落とし込まれたように出土しているほか、南に約60mの地点にある上野国府等範囲内容確認調査73・75トレンチ<sub>(1)</sub>（以下上野国府○○トレンチと略）でも同様の石が出土している。総地業が施されていることや、付近で複数の礎石と考えられる石が出土していることから、1号建物跡は礎石建物跡であったと推定される。特に蒼海（127）3号井戸跡から出土した石は1号礎石建物跡の礎石である可能性が高い。また、蒼海（133）では表土直下で掘込地業面を確認しているため、本来は40cm以上掘り込んで地業が行われたことが推定でき、本来存在した基壇部分は削平されてしまったと考えられる。

近年、元総社地区の宮銅神社周辺では官衙関連遺構が相次いで検出されており、本遺構も同種の遺構と考えて良いだろう。総地業の礎石建物跡は付近の蒼海（99）、（136）でも確認されているが、いずれも全体を把握できおらず、元総社地区において全体を確認できた総地業の礎石建物跡は今回が初めてとなる。ここで、今回検出した礎石建物跡と、蒼海（99）、（136）等で検出された総地業の礎石建物跡を初めとする官衙関連遺構とを比較していきたい。

まず、各遺構の方位について見ると、蒼海（99）の礎石建物跡は西へ9°、蒼海（136）のものは不明瞭ではあるものの西へ13°傾き、1号礎石建物跡の持つ傾きとは異なっている。周辺で検出した布地業の礎石建物跡でも、蒼海（99）および蒼海（136）の布地業の礎石建物跡がともに西へ11°、上野国府28トレンチの布地業の礎石建物跡は西へ13°と、いずれも10°前後西へ偏した方位を探っている。類似した方位のこれらの建物群は同一の時期が考えられるが、これらと傾きの異なる本遺構は時期を違えていると考えるべきか。

また、周辺の掘立柱建物跡にも目を向けてみると、蒼海（95）1号掘立柱建物は西へ19°、同じく蒼海（95）2号掘立柱建物跡は西へ13°、蒼海（133）1号掘立柱建物跡（Fig.14）は西へ20°傾いており、本遺構とはやはり傾きを異にしている。加えて、蒼海（133）1号礎石建物跡と1号掘立柱建物跡の重複関係では、1号礎石建物跡の方が新しい事と確認している。したがって、10°～20°傾きを持つ建物群と比較して、正方位で配置された建物跡はより新しい時期のものといえるだろう。現時点では1号礎石建物跡と類似した方位の建物跡は他に検出されていないが、本遺構の発見は上野国府域の建物群の性格や時期差について、考察の余地を新たに与える成果となり得たと考えている。

次に、1号礎石建物跡の掘込地業について触れたい。蒼海（133）1号礎石建物跡の掘込地業層を構成する土は、（1）地山の総社砂層に由来する黄褐色の細かい砂層土とそのブロックを多く含んだ層、（2）As-C軽石や黒色土を多く含んだ層、（3）黄褐色砂層土のブロックを多く含んだ層の三種類に分けられる。そして下層では整地層として砂層土のブロックを含んだ暗褐色の層が観察できた。それぞれの層が互層となって堆積している版

築特有の構造を見てとれるものの、蒼海（136）で検出された基壇状遺構の掘込地業と比較すると、やや不完全な互層となっている箇所が散見される。蒼海（136）では各層が数cmごとに細分化され非常に緻密な構造となっていたが、本遺構では各層の厚さを自視でそこまで細分することができなかった。その上、各層の土が均一な状態で堆積しておらず、土の入れ方に斑を感じる状態となっている。これは検出面が整地層と近いためであるのか、この掘込地業自体が精密な版築を必要としなかったためであるのか、判然としない。



Fig.37 総地業の上層比較

1号礎石建物跡の建物の性格は、官衙関連の建物であることは言えるものの、その性格については断言し難い。まず、瓦の出土数は極めて少なかったため、瓦葺きの建物であった可能性は非常に低いことが言える。後世の遺構から円面鏡の破片（Fig.35）が出土しているが、筆記具に関わる遺物もほとんど見られず、本遺構で使用されていた道具と思しき遺物もない。総地業が施されていることから考えて、ある程度の重量に耐え得ることを想定して建てられたものであることは確かであるため、何らかの物品を収蔵していた倉庫と考えられる。

さて、蒼海（133）1号礎石建物跡の礎石やその据え付け痕が確認できなかったことは既に述べたが、礎石を据え付けた根石と考えられる石は、調査区内から多数出土している。1号建物跡の上層に構築された1号竪穴建物跡（Fig.16）や5号竪穴建物跡（Fig.18）、2号竪穴状遺構（Fig.24）の床面や覆土内から、直径20～30cm程の扁平な円盤が多数出土しており、5号竪穴建物跡に至っては竈の袖石や支柱としても同様の石が使用されていた。これらの石はいずれも河川由来の所謂川原石であり、何らかの人為的な意図を伴って持ち込まれたものと考えられる。加えて、これらの石が1号礎石建物跡の下層遺構からは検出されていないことから、礎石建物が廃絶した後、使用されていた根石が後世の竪穴建物の構築材に転用されたり、埋没時に混入したと考えられる。

### （3）1号溝跡について

1号溝跡（Fig.21）は1号礎石建物跡とほぼ同時期の遺構と考えられ、走向も掘込地業の北辺と並行する。類似した溝跡が蒼海（127）で検出されており、蒼海（127）6号溝跡は、蒼海（133）1号礎石建物跡の南辺と平行している。この溝跡は1号礎石建物跡の南東隅付近で東方向と北方向へ丁字に分岐する。この丁字から分岐して北方向に続く溝は、1号礎石建物跡の東辺と平行するように続くことを蒼海（132）3区の調査で確認している。1号礎石建物跡の西辺では、上野國府9トレンチで確認した南北方向の蒼海城塁跡により古代の遺構は滅失した可能性が考えられるが、1号溝跡及び蒼海（127）6号溝跡の位置から、1号礎石建物跡を囲むように溝が掘られていた可能性が考えられる。その場合、1号溝跡は1号礎石建物跡の周囲を廻るように掘られた溝の一条である可能性が示唆される。

### （4）礎石建物跡の上層遺構（10～11世紀）について

1号礎石建物跡の廃絶後、重複して竪穴建物が複数構築されている。それら上層の遺構の中に、特徴的な竪穴建物跡が見られたため、ここに記す。1号竪穴建物跡や6号竪穴建物跡（Fig.18）において床面に焼土や灰の分

布が見られ、竈以外の場所で火の使用が認められる箇所が検出されている。当初は工房等の可能性も考慮したが、炉と思しき部分は見つからず、1号竪穴建物跡から数点の鉄滓が出土したもの、それ以外に製鉄や鋳造等の鍛冶に関連する遺物は検出されなかった。目的は明らかにできていないが、何らかの火の使用を試みたものと考えられ、これは本調査区における古墳時代の住居の床面からは検出されなかつた特徴である。10～11世紀の住居の一つの傾向として注目したい。

## （5）上野国府で特徴的な遺物

宮銅神社周辺では、屢々特徴的な土器が出土する。本調査でもその一部を確認している。1号落ち込み(Fig.25)では、酸化焰焼成須恵器が多数出土しており、その中に白色で土師質の高环脚部が出土している(Fig.35,Fig.36)。同種の土器が菅海(99)で出土しており、また、元総社小学校保管の、同校出土と思われる資料にも同様の遺物が見られる。この土師質の高环は環部の底面に穴が穿かれているという、特徴的な造りをしている。この土師質の高环は現時点で県内では元総社地区の總社神社周辺でのみ確認されており、上野国府域で特徴的に出土する遺物と考えられる。

また、同遺構と4号竪穴建物跡、6号竪穴建物跡より、「ての字状口縁皿」の小破片(Fig.33,Fig.35)が出土している。平安京域で特徴的な土師器皿を模して製造されたものと考えられ、市内では調査区南隣の菅海(127)のみで出土している。これらの遺物は官衙関連遺構に付随するものと考えられ、礎石建物が廃絶した後の本調査区周辺が官衙域であることを裏付ける一端となるだろう。

## （6）まとめ

上記のことと踏まえ、この地域の変遷を考える。古墳時代には集落として竪穴建物が多数構築され、8世紀代には倉庫と考えられる礎石建物が建てられるようになったため、この間集落は断絶する。そして、その後、礎石建物が廃絶したこと、再び集落として使用されるようになったと考えられるが、その際の集落は国府に隸下するような性格を持っていたと考えられる。

今回検出した総地業が施された礎石建物跡が倉庫跡であると仮定すると、倉庫が一棟のみとは考えにくい。恐らく近辺に同種の倉庫が設けられていたはずであり、本調査区一帯は倉庫群が存在していたと考えられる。したがって、今後も宮銅神社周辺における建物跡の検出は相次ぐことが予想される。本遺構と関連する倉庫跡の検出や、本遺構と同種の建物群の性質については今後の調査成果を期待するとともに、検討を重ねていきたい。

(1) 上野国府等範囲内容確認調査75トレンチは本稿執筆時点で2021年度調査途中にあり、未報告。

### 【主要参考文献】

- 前橋市教育委員会 2015『元総社菅海遺跡群(91)(95)(102)』
- 前橋市教育委員会 2016『元総社菅海遺跡群(99)』
- 前橋市教育委員会 2019『元総社菅海遺跡群(127)』
- 前橋市教育委員会 2020『元総社菅海遺跡群(136)』
- 前橋市教育委員会 2013『推定上野国府～平成24年度発掘調査報告書』
- 前橋市教育委員会 2016『推定上野国府～平成26年度発掘調査報告書』
- 前橋市教育委員会 2017『推定上野国府～平成27年度発掘調査報告書』
- 奈良文化財研究所 2003『古代の官衙遺跡』<1 遺構編>

---

## 写真図版

---



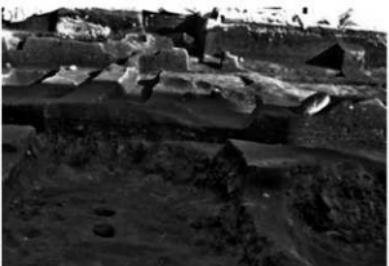
1 1号礎石建物跡 A ライン北半掘込地業



2 1号礎石建物跡 A ライン南半掘込地業



3 1号礎石建物跡 B ライン北半掘込地業



4 1号礎石建物跡 B ライン中央部掘込地業



5 1号礎石建物跡 B ライン南半掘込地業



6 1号礎石建物跡 C ライン北半掘込地業



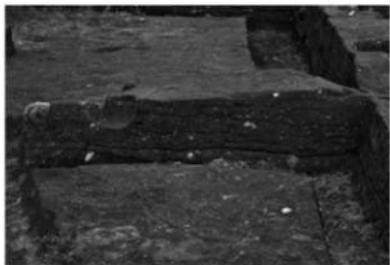
7 1号礎石建物跡 C ライン南半掘込地業



8 1号礎石建物跡 D ライン西半掘込地業



1 1号礎石建物跡Dライン東半掘込地業



2 1号礎石建物跡Eライン西半掘込地業



3 1号礎石建物跡Eライン中央部掘込地業



4 1号礎石建物跡Eライン東半掘込地業



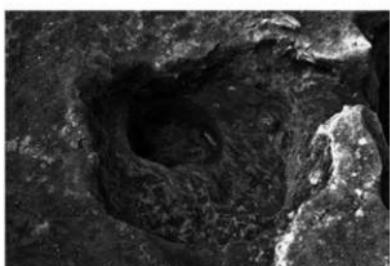
5 1号礎石建物跡Fライン西半掘込地業



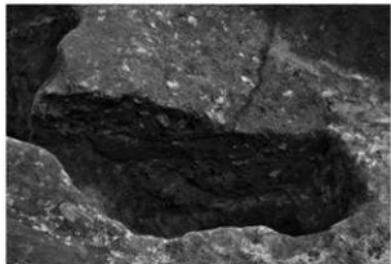
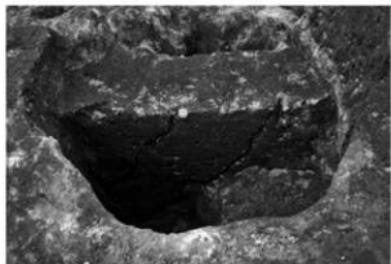
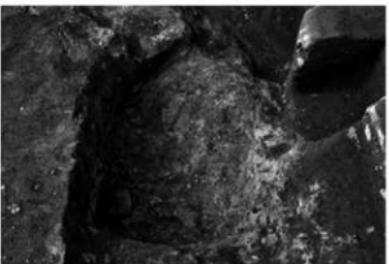
6 1号礎石建物跡Fライン中央部掘込地業



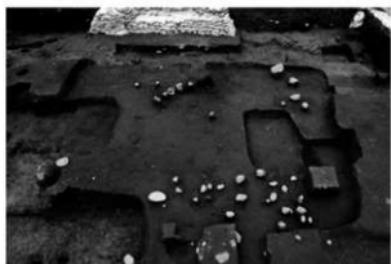
7 1号礎石建物跡Fライン東半掘込地業



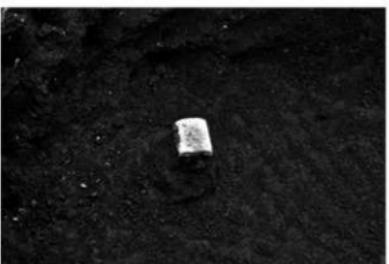
8 1号掘立柱建物跡P<sub>1</sub>全景（東から）

1 1号掘立柱建物跡 P<sub>1</sub> 土層堆積2 1号掘立柱建物跡 P<sub>2</sub> 全景（東から）3 1号掘立柱建物跡 P<sub>2</sub> 土層堆積4 1号掘立柱建物跡 P<sub>3</sub> 全景（東から）5 1号掘立柱建物跡 P<sub>3</sub> 土層堆積

6 1号竪穴建物跡全景（南から）



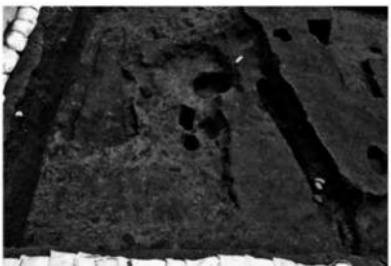
7 1号竪穴建物跡礫出土状態（南から）



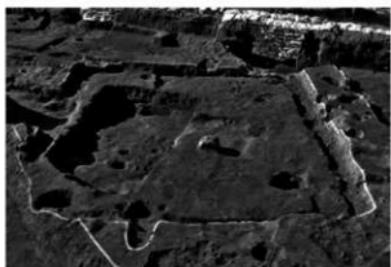
8 1号竪穴建物跡鉈尾出土状態（西から）



1 1号竪穴建物跡竪全景（北西から）



2 2号竪穴建物跡竪全景（西から）



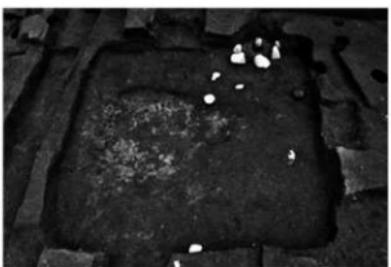
3 3号竪穴建物跡竪全景（北東から）



4 3号竪穴建物跡竪全景（南西から）



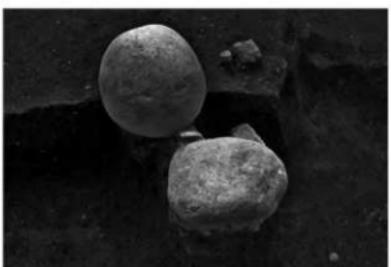
5 4号竪穴建物跡竪全景（北西から）



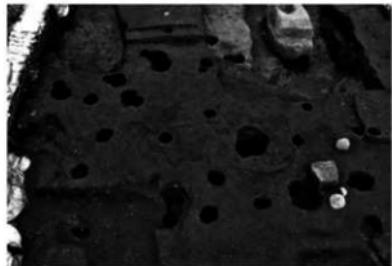
6 5号竪穴建物跡竪全景（西から）



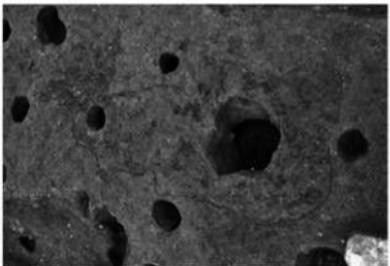
7 5号竪穴建物跡竪全景（西から）



8 5号竪穴建物跡出土状態（東から）



1 6号竪穴建物跡全景（南から）



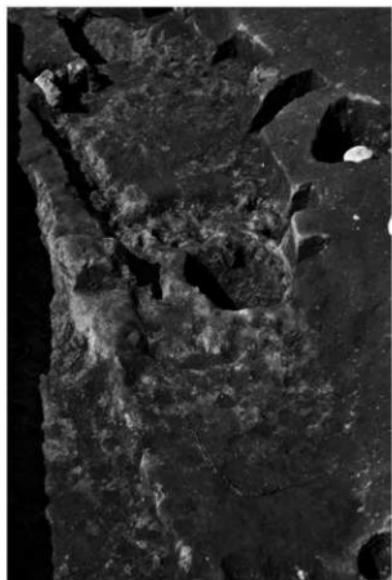
2 6号竪穴建物跡灰塙出状態（上が北）



3 7号竪穴建物跡全景（東から）



4 9号竪穴建物跡竪全景（東から）



5 9号竪穴建物跡全景（東から）



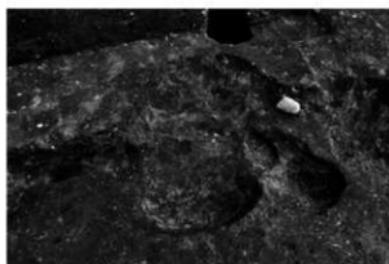
6 10号竪穴建物跡全景（東から）



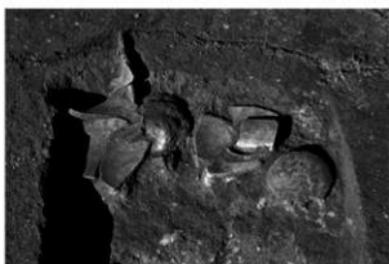
1 10号竪穴建物跡出土状態（西から）



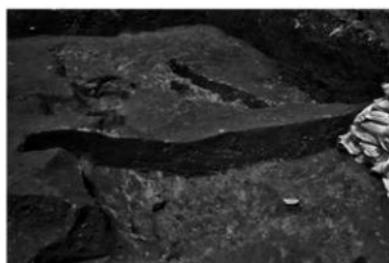
2 11号竪穴建物跡全景（西から）



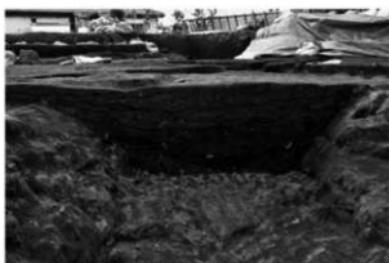
3 1号竪穴建物跡全景（西から）



4 12号竪穴建物跡遺物出土状態（南から）



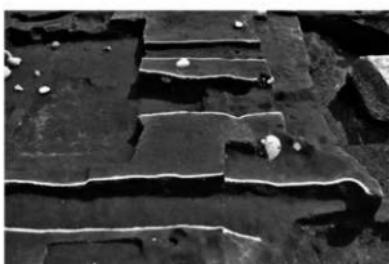
5 1号溝跡土層堆積状態（東から）



6 2号溝跡土層堆積状態（北東から）



7 3～6号溝跡全景（東半）（北から）



8 3～6号溝跡全景（西半）（西から）



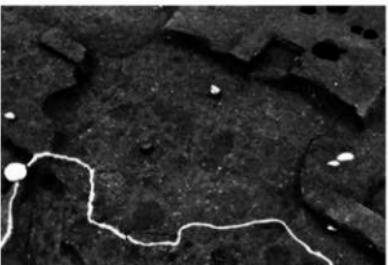
1 1号竪穴状遺構全景（南から）



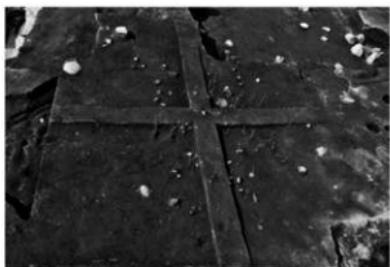
2 2号竪穴状遺構全景（北から）



3 1号井戸跡全景（南から）



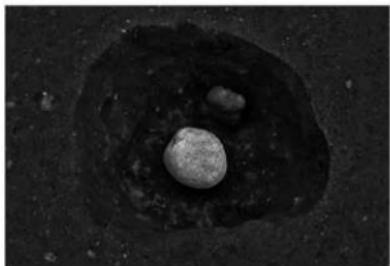
4 1号落ち込み全景（南から）



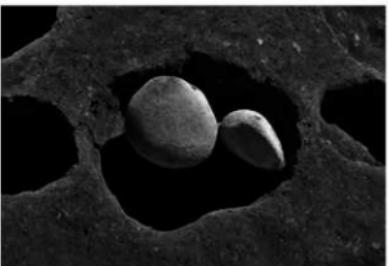
5 1号落ち込み遺物出土状態（南から）



6 1号土壤墓全景（北西から）



7 104号ピット全景（南西から）

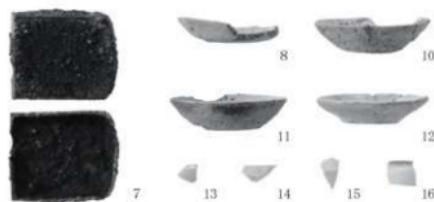


8 168号ピット全景（北から）

## 1号礎石建物跡（掘達地業内）



## 1号竪穴建物跡



## 2号竪穴建物跡



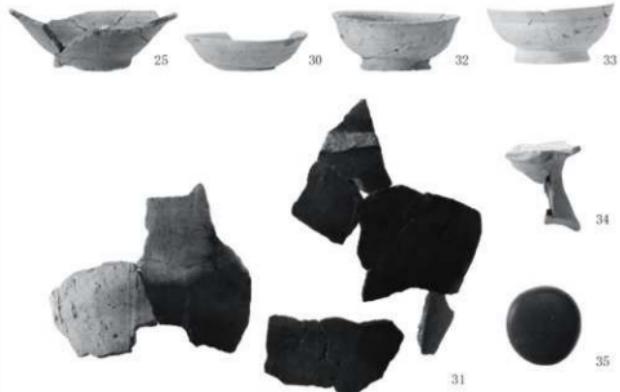
## 3号竪穴建物跡



## 4号竪穴建物跡



## 5号竪穴建物跡



## 6号竪穴建物跡



## 11号竪穴建物跡



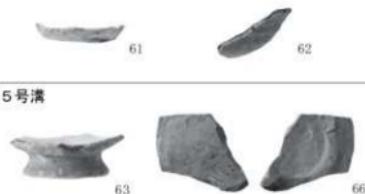
12号竪穴建物跡



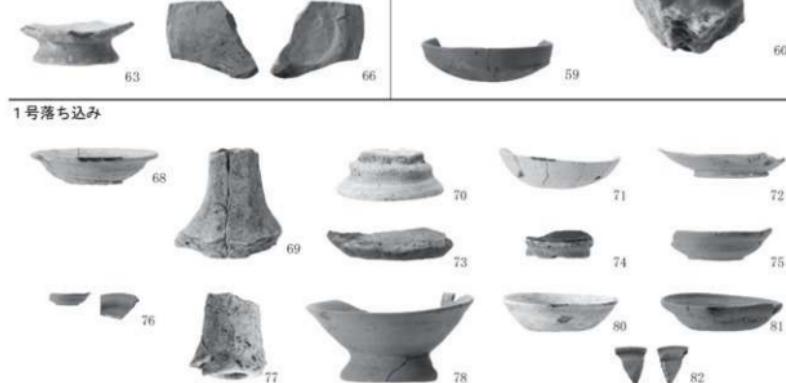
2号溝



3号溝



5号溝



1号落ち込み



## 抄 錄

フリガナ	モトソウジャオウミイセキグン (133)
書名	元総社蒼海遺跡群 (133)
副書名	前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
卷次	
シリーズ名	—
シリーズ番号	—
編著者名	齋藤颯・梅澤克典・阿久澤智和
編集機関	前橋市教育委員会
編集機関所在地	〒317-0853 群馬県前橋市総社町三丁目11番地4
発行年月日	20220318

フリガナ	フリガナ	コード	位置		調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	北緯	東経		
モトソウジャオウミイセキグン 元総社蒼海遺跡群 (133)	前橋市元総社町 2107-1	10201	1A242	36° 23'11"	139° 02'20"	20190614 ～ 20191220	204m <sup>2</sup> 前橋都市計画 事業元総社蒼 海土地区画整 理事業

所収遺跡名	種別	時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
元総社蒼海遺跡群 (133)	集落	古墳時代	竪穴建物跡、ピット	土師器、須恵器	牛池川右岸に立地する古墳時代の集落の一部を検出。
	官衙、集落	奈良時代 平安時代	竪穴建物跡、建物 跡、ピット、土坑、 落ち込み	土師器、須恵器、 土師質土器、黒色土器、白磁、石 製品	8世紀頃と推定される掘込地業 (総地業)を持つ礎石建物跡を検出。 礎石建物が廃絶した10世紀代以 降に竪穴建物が複数造られる。
	城館	中世	ピット群	在地産土器類	掘立柱建物の柱穴の可能性があ るピットを検出。

## 元総社蒼海遺跡群 (133)

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書

2022年3月15日 印刷

2022年3月18日 発行

編集・発行／前橋市教育委員会文化財保護課  
印刷／朝日印刷工業株式会社